No 230647/22

帝國憲法

目次

緒言　一丁

第一篇　天皇

第一章　天皇ノ統治權　二丁

第一節　統治權ノ本義　仝

第二節　帝國元首ノ地位　三丁

第三節　統治權ノ總攬　四丁

第四節　命令權　六丁

第二章　天皇ノ特權　一〇丁

第一節　宣戰講和ノ權　仝

第二節　軍事ニ關スル特權　一一丁

第三節　官制々定及官吏任用ノ權　二
第四節　榮典授與ノ權　一二丁
第五節　恩典擧行ノ權　一四丁
第三章　天皇ノ神聖及無責任　一五丁
第四章　皇位及攝政　一六丁
第一節　天皇タルヲ得ベキ資格　一九丁
第二節　皇位繼承ノ順序　仝
第三節　適法ノ即位　二一丁
第四節　攝政　二二丁
第二篇　臣民　二三丁
第一章　臣民ノ資格　二五丁
第二章　臣民ノ自由　仝
第一節　自由權ノ本性　二七丁

第二節　人身ノ自由　仝
第三節　信教ノ自由　二八丁
第四節　思想交通ノ自由　二九丁
第五節　所有ノ自由　三二丁
第三章　臣民ノ公權　三四丁
第四章　臣民ノ義務　三六丁
第五章　臣民權利ノ停止　三七丁
第三篇　議會　仝
第一章　帝國議會ノ組織　三八丁
第一節　總說　仝
第二節　貴族院ノ構成　仝
　　三九丁

第一段　貴族院議員　三九丁
第二段　貴族院職員　四一丁
第三節　衆議院ノ構成　仝
第一段　衆議院議員　仝
第二段　衆議院職員　四九丁
第二章　帝國議會ノ召集成立開閉停　五一丁
第三章　帝國議會ノ權利　五三丁
第一節　立法協賛權　仝
第二節　財務協賛權　五七丁
第三節　上奏建議及質問ノ權　六〇丁
第四節　請願ヲ受クルノ權　六二丁

第五節　規則制定及懲罰權　六三丁
第四章　議員ノ權利　六四丁
第一節　發言及表決ノ權　仝
第二節　逮捕ニ關スル特權　六五丁
第五章　會議　六六丁
第一節　議案及動議　仝
第二節　議決　六七丁
第三節　兩議院關係　六八丁
第四節　會議ノ公開　七〇丁
第五節　會議中ノ秩序　七一丁
第四篇　內閣及顧問　七二丁
第一章　內閣　仝

第一節　內閣ノ組織及權限　七二丁
第二節　國務大臣ノ責任　七七丁
第二章　樞密顧問　八〇丁
第一節　樞密院ノ組織　仝
第二節　樞密院ノ權限　八一丁
第五篇　司法　八四丁
第一章　司法權　仝
第二章　司法權ノ獨立　八七丁
第一節　總說　仝
第二節　裁判所ノ構成　八八丁
第三節　裁判官ノ任免　九〇丁
第四節　裁判ノ公開　九三丁

第三章　行政裁判　九五丁
第一節　行政裁判ノ管轄　仝
第二節　行政裁所判ノ構成　九八丁
第三節　行政裁判ノ手續　一〇〇丁
第六篇　財政　一〇二丁
第一章　國費　仝
第一節　國家ノ需用　仝
第二節　歲入及歲出　一〇三丁
第二章　豫算及決算　一〇六丁
第一節　豫算　仝
第二節　決算　一〇九丁
第三章　出納　一一〇丁

第一節　收入　一一〇丁
第二節　支出　一一一丁
第三節　政府ノ工事及物件ノ賣買貸借　一一四丁
第四節　出納官吏　一一六丁
第五節　期滿免除　一一七丁
第七篇　憲法ノ適用　仝
第一章　憲法ノ効力　仝
第二章　憲法ノ改正　一二一丁

帝國憲法目次完

帝國憲法

法學士　澁谷慥爾講義

第一回

緒言

余ハ本日ヨリ我貳年級諸君ノ爲メニ帝國憲法ノ講義ヲナサントス而シテ此講義ヲナスニ方リテハ專ラ學術的分析的及法理的ニ其原理原則ヲ説明シ憲法ノ眞理ナシテ一目瞭然タラシメンコトヲ庶幾シ敢テ新聞記者ノ類ニ倣ヒ之ヲ論難攻擊スルコトヲ爲サヽル又敢テ一般著述家ノ類ニ倣ヒ逐條解疏スルコトヲ爲サヽルヘシ唯恐ル余ヤ學淺ク辯訥ニシテ或ハ憲法ノ光彩ヲ煥發スルコト彼ノ博學ナル穗積八束君(第三年級憲法講師)ノ如ク又彼ノ雄辨ナル山田喜之助君(第一年級憲法講師)ノ如クナラサルヲコトヲ然レトモ日ヲ積ミ月ヲ重ヲ漸ク回ヲ爲スニ至ラハ或ハ諸君ノ爲メニ微意ヲ致スノ機會ニ到來スルノ幸福ニ際會スルノコトモ亦敢テ之レ無キニアラサルヘシ若シ夫レ憲法ハ國ノ大典君民權義ノ岐ル丶所ナリ諸君乞フ此意ヲ體シ勉メテ倦マス思フテ措カス熱心以テ之カ講究ニ從ヒ日本國民

ダルノ本分ヲ全フセヨ余ヤ實ニ酷望ニ堪ヘサルナリ

第一篇　天皇

第一章　天皇ノ統治權

第一節　統治權ノ本義

近世ノ法理ト古今ノ沿革ハ我カ日本帝國ヲ以テ我カ天壤無窮ナル皇室(治者)ト我カ忠實勇武ナル臣民(被治者)ト我カ豐饒ナル大八洲ノ山川(邦土)ヨリ成立スル一個ノ法人タルコトヲ確認セリ我カ帝國ヲ構造セル原素ハ斯クノ如ク一ナラスト雖苟モ一個ノ法人タル以上ハ獨立自由ノ意思ヲ以テ自ラ其進運(デスチニー)ヲ計畫スヘキ單一至高ノ權力ヲ有セサルヘカラス此權力ヲ稱シテ帝國ノ國權ト謂ヒ此國權ヲ發露シ及執行スルノ方法ヲ規定スル大典ヲ稱シテ帝國憲法ト謂ヒ此憲法ニ從ヒ國家ヲ代表シ國權ヲ活用スルノ權ヲ稱シテ天皇ノ統治權ト謂フ故ニ帝國ノ國權ハ則チ帝國ノ國權ナリ夫ノ國權ヲ以テ人民ニ歸セシムルモノハ共和國タルヘク又天皇ヲ以テ則チ國家ナリトスルハ所謂路易王ノ專制王國タルヲ免レス是立憲帝國ニ於テハ憲法ニ依リ帝國構成ノ要素タル天皇ト臣民トヲ協合セシムルノ制度ヲ設

ケ帝國ノ國權ヲシテ眞ニ帝國ノ國權タラシメ而シテ更ニ天皇ヲシテ國權ノ代表者ト爲シ從ツテ帝國統治ノ大權ヲ以テ天皇ノ一身ニ歸セシムルヲ以テ其原則トスル所以ナリ

前述ノ理由ニ依リ立憲帝國ニ於テハ天皇ノ統治權ハ第一日本帝國ヲ一身ニ代表シ國權ノ一機關タル資格ニ於ケル帝國元首タルノ高位ヲ占メ第二國家諸種ノ權力ヲ天皇ノ一身ニ收攬スルノ二事ヲ指示スルモノト謂フヘシ今マ左ニ之ヲ分論セム

第二節　帝國元首ノ地位

天皇ハ則チ帝國ニアラス只タ帝國ノ最高ノ元首トシテ帝國ヲ代表スルモノニ過キス故ニ帝國ノ元首トシテ帝國ノ權利ヲ行フニハ帝國ノ意思ハ則チ天皇ノ意思タルヘキコトヲ必要トス是レ第一天皇ハ帝國ノ一原素ナル臣民ノ代表者タル帝國議會ノ協贊ヲ以テ立法權ヲ行ヒ(第五條)第二天皇ハ國務大臣ノ補弼ヲ以テ始メテ施政ノ權ヲ行ハセ玉フ所以ナリ(第五十五條)然レトモ此協贊補弼ノ二事ハ決シテ天皇ニ附スルニ空位ヲ以テシ又ハ天皇ヲ以テ議會若クハ國務大臣ノ同等位若ク

ハ下位ニ立タシメタルモノニアラス抑モ帝國萬種ノ國務ハ悉ク天皇一身ノ意思ニ於テ發顯スヘキモノタルヲ以テ帝國議院ハ法律案ヲ議決スルモ法律ヲ制定スルモノニアラス法律ノ法律タル効力ハ天皇ノ自由ニ出テタル裁可ニ基キ國務大臣ノ副署ハ天皇ノ命令ニ命令タルノ權力ヲ與フルモノニアラスシテ單ニ其命令ヲ執行スルノ權力ヲ得ルニ過キス夫ノ議會ヲ以テ意思ヲ創定スルノ權ヲ有シ天皇ヲ以テ單ニ其意思ヲ執行スルモノトナシ又ハ天皇ハ施政ノ權ヲ有スルモ其權ヲ行フモノヲ以テ國務大臣ニ在リトスルカ如キハ素ヨリ立憲帝國ニ於ケル天皇ノ地位ヲ誤認セルノ妄說タリ故ニ憲法ノ範圍內ニ於テハ天皇ハ完全ナル自由ヲ以テ活動シ天皇ハ親ラ能ク國家ノ形勢人民ノ幸福安寧ニ注目シテ能ク之ニ處スルノ計畫ヲ施サヽルヘカラス是立憲帝國ノ英主カ能ク其大業ヲ成就スルコトヲ得ヘキ所以ナリ

第三節　統治權ノ總攬

統治權ハ之ヲ立法行政司法ノ三權ニ區別スルコトヲ得レトモ素リ一大權ノ區別ニシテ分割ニアラサレハ天皇ハ此等ノ諸權利ヲ一身ニ收攬シ國權ノ統一完全ヲ

維持セサルヘカラス古代學者ノ三權分立說ノ如キハ素リ取ルニ足ラサルナリ天皇ノ裁可ヲ得サル以上ハ議會ノ一議決タルモ法律タルコトヲ得ス天皇ノ命令ニアラサレハ法律ヲ公布シ又ハ之ヲ執行スルコトヲ得ス(第六條)又タ法律案ヲ議決スヘキ議會ノ召集開會モ天皇ノ命令ニ依リ其閉會停會及ヒ衆議院ノ解散ヲ爲スノ權モ亦天皇ニ在ル(第七條)ノミナラス國權ノ基本タル憲法ノ改正ヲ爲スカ如キハ其發議權ニ至リテハ獨リ天皇ノ掌握スル所ナリ(第七十三條)故ニ統治ノ大權ハ凡テ天皇ノ收攬スル所ニシテ國家萬種ノ諸權利ハ悉ク此一個ノ中心點ヨリ發生スヘク決シテ個々分離スル各種ノ諸權利ヲ集合シテ始メテ此中心ノ大權ヲ構成スルモノニアラス

然レトモ天皇カ此統治權ヲ行ハセ玉フコトハ必ス憲法ノ條規ニ從ヒ天皇ハ決シテ憲法ノ外ニアラス又タ憲法ノ上ニアラス立憲帝國ノ立憲帝國タル所以ハ蓋シ此一點ニ在リト云フヘシ故ニ憲法ハ一國ノ下ニ在ツテ之ヲ強行スルニ其制裁ヲ以テスルコト他ノ法律規則ト其趣ヲ異ニスレトモ憲法ノ違反ハ同時ニ無効タラシムルヲ以テ其制裁トシ直ニ立憲帝國ノ立憲帝國タル法律上ノ性質ヲ失ハシメ皇

室ト臣民トカ與ニ俱ニ國家ノ進運ヲ計畫スヘキ法律上ノ關係ハ茲ニ至リテ斷絶スヘシト雖モ此大憲ノ原則ハ我皇祖皇宗ノ後世ニ貽シ玉ヘル統治ノ洪範ヲ明カニシタルモノニ過キスシテ畏クモ天皇陛下ハ神明ニ誓テ此憲章ヲ履行シ又憲法ノ前文ニ於テ永遠ニ之ヲ循行セソコトヲ宣言シ玉ヒタレハ我帝國ノ立憲帝國タルヘキハ天壤ト與ニ窮極ナカルヘキハ毫末ノ疑ヲ存スヘキモノニアラス

第四節　命令權

統治權中ノ立法權ハ國家自身ノ法律制度ヲ制定シ行政權及司法權ハ只タ現存セル法律制度ノ範圍內ニ於テ千變萬化ナル特別ノ事件ニ應シテ之ヲ行フモノニ過キス學者往々立法權ヲ以テ意思ヲ作爲スルモノトナシ行政權ヲ以テ單ニ之ヲ執行スルモノトスルノ誤見ヲ主唱スルモノアレトモ如何ナル場合ト雖モ執行ハ必ス第二着ノ手段ニシテ意思ハ第一着タリ現ニ行政權ノ範圍內ニ於テモ亦先ツ其意思ヲ以テ或事ヲ爲シ又ハ或事ヲ爲スヘカラサルコトヲ命令シ次キニ之ヲ强行スルニ執行ノ手段ヲ以テセサルヲ得ス而シテ此命令ヲ發スルノ權モ亦天皇ノ統治權ニ屬スヘキモノタリ

帝國憲法ニ於テハ天皇カ此發令權ヲ行ハセ玉フコトヲ得ヘキ場合ヲ二種ニ大別シ一ヲ法律ニ代ルヘキ勅令トシ二ヲ法律ノ範圍ニ於ケル勅令トス

(第一) 法律ニ代ルヘキ勅令ヲ發スルニハ左ノ條件ヲ必要トス(第八條第一項)

一、公共ノ安全ヲ保持シ又ハ其ノ災厄ヲ避クル爲メ緊急ノ必要アルコトヲ要ス若シ此必要ナクンハ必ス法律ヲ以テ之ヲ規定スルコトヲ要ス

二、帝國議會ノ閉會中タルコトヲ要ス故ニ如何ナル緊急ノ必要アリトモ議會ノ開會中召集中ハ勿論停會中ト雖モ帝國議會ノ議決ヲ經タル法律ニアラサレハ勅令ヲ以テ此等ノ事項ヲ規定スルコトヲ得ス但衆議院ノ解散中ハ閉會中ト同視スルヲ以テ適當ト爲スヘキ歟何トナレハ議會ノ召集中及停會中ハ容易ニ議會ヲ開クコトヲ得レトモ衆議院ノ解散中ニ於テハ國家ノ急ニ應シテ之ヲ召集スルコト容易ナラサルヘキヲ以テナリ又議會ノ開會期中ト雖モ議決ヲ爲シ得ヘキ最下數(クオーラム)ノ出席議員ナキトキハ之ヲ閉會中ト見做スコトヲ得ヘキモノヽ如シ

三、法律ヲ以テ規定スヘキ事項又ハ法律ヲ以テ已ニ規定シタル事項ヲ變更ス

ルモノタルヲ要ス否ラスンハ決シテ此種ニ屬スヘキ勅令ニアラサルナリ

右ノ勅令ハ帝國議會ニ提出シ其承諾ヲ得ルコトヲ要ス然レトモ之ヲ議會ニ提出スルニハ臨時議會ヲ召集スルコトヲ要セス又同會期中ニ開會シタル議會ニ提出スルコトヲ要セス次ノ會期ニ於テスルヲ以テ足レリトス故ニ前三條件ニ適合スル勅令タル以上ハ次ノ會期ニ至ルマテ當然其効力ヲ保持スヘシト雖若シ議會ニ於テ承諾セサルトキハ政府ハ其効力ヲ失フタルコトヲ公布セサルヘカラス(第八條第二項)抑モ法律ハ帝國議會ノ協賛ヲ經ヘキコトハ憲法ノ原則ナレトモ國家ニ緊急ナル必要アル場合ニ於テハ此非常ノ効力ヲ以テ勅令ニ與ヘサルヘカラス英國ノ憲法ニ於テハ此種ノ勅令アルコトヲ認メサルヲ以テ彼ノ凶歲飢饉ノ甚シクシテ穀物ノ自由輸出條例ノ執行ヲ停止シテ食料品ノ輸出ヲ禁セサルヘカラサルノ緊急ニ際シテハ國務大臣ハ自己一身ノ責任ヲ以テ斷然其法律ノ執行ヲ停止シ自ラ越權ノ罪ヲ犯シ而シテ後議院ハ特ニ赦免條例(インデムニナーアクト)ヲ發シテ其罪ヲ赦免セリ我憲法カ此場合ヲ明定シテ勅令ヲ以テ此等ノ急ニ應スヘキ處分ヲ爲スコトヲ得セシメタルハ英國ノ制度ニ一歩ヲ進メタルモノト云フヘシ

(第二)法律ノ範圍內ニ於ケル勅令ハ左ノ條件ヲ具備スルコトヲ要ス(第九條)

一、法律ヲ執行スル爲メ又ハ公共ノ安寧秩序ヲ保持シ及臣民ノ幸福ヲ增進スル爲メニ必要ナルコトヲ要ス

二、現行ノ法律ニ抵觸スルコトナキヲ要ス

三、法律ヲ以テ規定スヘキ事項ニアラサルコトヲ要ス、若シ法律ヲ以テ規定スヘキ性質ノモノナルトキハ第一種ノ勅令即チ法律ニ代ハルヘキ特種ノ命令ニシテ從ツテ必要ナル條件ヲ具備スルコトヲ要スレトモ此種ノ勅令ハ只タ法律ノ範圍內ニ止マルヘキヲ以テ未タ現ニ法律ヲ以テ規定セサル事項ト雖モ法律ヲ以テ規定スヘキモノナルトキハ此種ノ勅令ヲ發スルコトヲ得ス而シテ如何ナルモノハ果シテ法律ヲ以テ規定スヘキモノナルヤ否ヲ定ムルハ帝國憲法ノ明定スル所ナリ設例ヘハ戒嚴ノ要件及効力(第十四條第二項)臣民ノ權利義務(第十八條乃至第三十條)貴族院令(第三十四條)撰擧法(第三十五條)裁判權(第五十七條乃至第六十一條)租稅ノ徵收(第六十二條)等ニ關スル事項トス

第二回

第二章　天皇ノ特權

第一節　宣戰講和ノ權

天皇ハ帝國ノ元首ナレハ帝國ヲ代表シ外國ニ對シテ帝國ノ獨立自主ヲ表示スルモノタルカ故ニ外國ニ對シテ戰ヲ宣シ和ヲ講シ及外國ト諸般ノ條約ヲ締結スルノ特權ヲ有ス(第十三條)

(第一)宣戰講和ノ權ハ天皇ノミ獨リ外國ノ元首ニ對シテ行ハセ玉フヘキ權利タルヲ以テ天皇以外ノ權力ヨリ外國ノ元首以外ニ對シテ布告セル宣戰講和ハ我帝國ト外國トノ宣戰講和ニアラスシテ一個ノ私戰若クハ私和タルニ過キスシテ宣戰講和ノ効ナキノミナラス我カ國法ハ外患ニ關スル犯罪トシテ之ヲ處斷スヘキ不法ノ所爲タルヲ免レス故ニ宣戰講和其一ヲ撰フハ實ニ國家ノ一大事タリト雖モ和戰ノ決ハ往々間髪ヲ容レサルノ果斷迅速ト秘密深謀ヲ要スヘキモノタルヲ以テ之ヲ天皇ノ獨斷ニ一任セサルヲ得ス若シ議會ヲシテ此議ニ參與セシムルコトアラハ議論百出シテ前後統一ノ活動ヲ欠キ遂ニ時期ヲ失シテ回復スヘカラサルノ延滯ヲ來スヘシ是レ和戰ノ大權ヲ以テ天皇ノ特權トセサルヘカラサル所以ナリ

(第二)締約ノ權モ亦天皇ノ特權ニ歸スヘキモノナレトモ此特權ノ執行ハ憲法ノ規定以外ニ立ツコト能ハサルヲ以テ締約ノ目的タル事項ニシテ臣民ノ權利義務歳出ノ增額其他帝國議會ノ協贊ヲ要スヘキモノタルトキハ其部分ニ就テハ豫メ議會ノ議決ヲ得ルニアラサレハ此條約ヲ締盟スルモ其實効少ナカルヘシ設例ヘハ逃亡犯罪人引渡條約ノ如キ是ナリ然レトモ此等ノ事項ニ關スル條約ト雖天皇ハ敢テ之ヲ締盟スルノ權ナキモノニアラス又其締盟シタル條約ハ其効力ナキニアラスト雖モ國内ニ於テ其條約ヲ實行セントスルニ當リ帝國議會ノ協贊ヲ要スヘキ部分ニ就キ若シ議會ニ於テ之ヲ議決セサルニ於テハ單ニ帝國臣民ニ對シテ之ヲ實行スルコト能ハサルニ過キサルノミ

第二節　軍事ニ關スル特權

陸海軍内ハ外國ニ對シ帝國々權ヲ維持スルノ實力ナリ天皇親ラ海陸海軍ヲ統御シテ其大元帥タルヘク此大權ヲ以テ決シテ國家各種ノ諸權ニ分屬セシムヘカラサルハ論ヲ待タサルナリ(第十一條)故ニ其編制及ヒ常備兵額ヲ定ムルモ亦天皇ノ特權(第十二條)タルヲ以テ帝國議會ノ參與シ得ヘキモノニアラス但陸海軍ノ編制及

ヒ常備兵ノ爲メニ要スル費用ハ議會ニ於テ之ヲ議決スルモ憲法上ノ大權ニ基キタル歳出タルカ故ニ政府ノ同意ナクシテ議會ニ於テ之ヲ廢滅スルコトヲ得サルナリ(第六十七條)

戰時ニ於テ戒嚴ヲ宣告スルモ亦天皇ノ特權ニ屬スレトモ此場合ニ於テハ戒嚴ノ要件及効力ハ法律ヲ以テ之ヲ定ム(第十四條)ベキモノナルカ故ニ戰時ノ急ニ際シテ帝國議會ノ議決ヲ經ントスルハ事甚タ迂遠ニ似タレトモ戒嚴令ハ豫メ法律ヲ以テ之ヲ定メ置キ天皇ハ事アルニ臨ンテ之レカ實行ヲ爲スヘキコトヲ宣告スルニ過キサルヲ以テ敢テ時機ニ後ルヽノ憂ナシ

第三節　官制々定及官吏任用ノ權

行政權ハ天皇ノ獨リ其一身ニ收攬シ玉フ所ナルヲ以テ天皇ハ此行政權ヲ活動スル組織機關ヲ設定スルノ權ヲ有シ玉フヘキハ當然ナリ即チ行政各部ノ官制、官吏ノ任免、及其俸給ニ關スル成規ハ憲法及他ノ法律ニ特例アルノ外皆ナ天皇ノ制定シ玉フヘキ特權タリ

(第一)　官制ハ國家行政事務ノ性質種類ニ從ヒ其實行ニ任スル官省ノ組織ナリ現

今ニ於テハ之ヲ外務內務大藏陸海軍司法農商務及遞信ノ八省トナシ更ニ內閣ノ一權衙ヲ置キ之ヲ統括セシメ宮內ノ一省ハ全ク之ヲ國家政務ノ範圍外ニ置ケトモ此憲法ノ實行ト共ニ多少ノ變更ヲ來スヘク特ニ此憲法ニ於テハ直接ニ政務ノ責ニ當ルヘキ各省ノ大臣ヲ稱スルニ國務大臣ノ名義ヲ以テスルカ故ニ現今ニ於ケルカ如ク法律上一種ノ獨立ノ一權衙ニシテ舊太政官ト殆ト同一ナル內閣ナルモノハ從テ其存在ヲ失フヘキモ此等ノ連帶ノ責任ヲ有スル國務大臣ヲ稱シテ內閣ト謂ヒ別ニ一種ノ大臣ニアラサルモ此等ノ諸大臣中其主領タルヘキモノヲ稱スルニ總理大臣ノ名稱ヲ以テスルコト夫ノ英國ノ制度ニ於ケルカ如クナルヘキ歟但シ此等ノ官制ハ凡テ天皇ノ制定シ玉フ所タルニ相違ナシト雖自ラ憲法ノ精神ニ適合スヘキハ當然ナリ

(第二)　官吏ノ任免ハ天皇ノ特權タルヘキノミナラス苟モ帝國ノ元首タル天皇ノ特命ニ依リ其權內ニ於テハ多少ノ思料ヲ用ヒテ國務ヲ掌ルモノニアラサレハ之ヲ國家ノ官吏ト云フコトヲ得ス故ニ(第一)帝國議會、府縣會、市町村會等ノ議員ノ如キハ多少ノ思料ヲ以テ國務ヲ行フモノナレトモ天皇ノ特命ニ出テス(第二)公證人、代

言人等ノ如キハ公務ヲ行フモ國務ヲ行ハス又タ天皇ノ特命ニ依ラス(第三)兵卒各官省ノ使丁門衛等ノ如キハ國務ニ從フモ思料ヲ要セサルヲ以テ共ニ官吏ニアラサルナリ而シテ苟モ官吏タル以上ハ上國務諸大臣ヨリ下刀筆ノ吏ニ至ルマテ之ヲ任免スルノ權ハ悉ク天皇ニ歸スヘキモノタリ然レトモ國務大臣ノ如キ直接ニ國家ノ大政ニ就キ其責任ヲ負フモノニ至リテハ敢テ憲法上ノ强制ナキモ帝國議會ニ多數ノ人望ヲ博シタルモノヲ以テスルニアラサレハ國政活動ノ圓滑ヲ害スルニ至ルヘシ

(第三) 官吏任免ノ權ニシテ天皇ニ存スル以上ハ其俸給ヲ定ムルノ權ニ至リテモ亦天皇ニ在ルヘキコト當然ナリ而シテ茲ニ所謂俸給ナルモノハ汎ク國家カ官吏ノ掌握セル國務ニ對スルノ報酬ヲ總稱スルモノタルヲ以テ退隱料等ニ至リテモ亦官吏任免法ノ定ムル所ニ從ヒ之ヲ一種ノ俸給トスルコトヲ得ヘシ

第四節　榮典授與ノ權

爵位勳章及其他ノ榮典ヲ授與スルハ君主ノ特權ナリ(第十五條)何トナレハ此等ノ榮典ハ國家ノ與フヘキ榮典ナレハ國家ノ元首タル天皇ニアラサレハ他ニ之ヲ授

與スルモノナカルヘケレハナリ彼ノ私人相互ノ間ニ於テ授與スル榮章設令ヘハ公立若クハ私立學校又ハ競馬會等ヨリ優等者ニ附與スル章標ノ如キハ國家ノ榮章ニアラサレハ敢テ之ヲ禁スヘキモノニアラス從ツテ我帝國ヨリ之ヲ見レハ全ク一私人ト等シキ外國ニ於テ我臣民ニ其勳章ヲ授與スルコトモ亦自由タリト雖モ公然之ヲ我國家ノ儀式上ニ佩用スルハ我カ政府ノ許可ヲ要スルニ止マレリ故ニ天皇ハ國家ノ與フヘキ名譽ノ淵源ニシテ他ニ又タ其淵源ナシト雖モ社會一般ナル名譽ノ淵源ハ必スシモ天皇ニ限ルヘキモノニアラサルナリ

第五節　恩典擧行ノ權

恩典ヲ與フルノ特權ハ法律ノ規定ヲ破リ別種ノ法律ヲ以テ之ニ代ハラシムルモノナレハ彼ノ議會ノ閉會中緊急ノ必要ニ際シ法律ニ代ハルヘキ勅令ヲ發スルノ特權ト恰モ類似ノ性質ヲ有スヘキモノタリ

恩典ニ四種アリ一ハ大赦ニシテ全ク犯罪事件ヲ遺忘シ公訴ノ權及刑罰執行ノ權ヲ併セテ消滅セシメ其ノ犯罪ニ關係セシモノハ悉ク何人ヲ問ハス悉ク之ヲ靑天白日ノ身ニ歸セシムルモノヲ謂ヒ一ハ特赦ニシテ其ノ特赦ヲ受ケタル犯人ノミ

ニ對シ刑罰執行權ヲ放擲スルニ過キスシテ犯者ハ爲メニ放免セラルヽトモ尚ホ一タヒ罪ヲ犯シタル人タルノ名義ヲ免ルヽコトヲ得サルモノヲ謂ヒ一ハ減刑ニシテ特赦ノ一種ナレトモ只タ其刑罰ヲ全免セスシテ其幾分ヲ減スルモノヲ謂ヒ第四ハ復權ニシテ刑罰ニ依リ公權ヲ剝奪セラレタルモノニ對シ將來ニ公權ヲ得有スルコトヲ得ヘキ能力ヲ回復スルモノヲ謂フ但シ大赦ハ犯罪事件ヲ皆無ナラシムルヲ以テ大赦ヲ得タルモノハ必ス復權ヲ得ヘキハ當然ナリトス而シテ此等恩典ノ性質及恩典ヲ得ヘキ手續等ハ刑法及治罪法ニ於テ明定スル所ナルヲ以テ法律ノ範圍ニ屬スレトモ此恩典ヲ與フヘキモノナルヤ否ヲ決スルハ全ク天皇ノ特權ニシテ法律以外ニ在リトス

第三回

第三章　天皇ノ神聖及無責任

天皇ハ神聖ニシテ侵スヘカラサルヲ以テ帝國ノ元首ナル天皇ハ至尊至貴ニシテ且ツ無責任タルヘシ(第三條)

(第一)　天皇ノ尊貴ヲ保持スルニ第一天皇ノ敬稱(スタイル)アルヘキコトヲ要スト雖法律上

ニ於テハ天皇太皇太后皇太后及皇后ヲ陛下ト稱シ其他ノ皇族ヲ殿下ト稱スルコトヲ定ムルニ過キス(皇室典範第四章)第二天皇ニ對スル不敬ノ所爲ハ刑法ニ於テ特ニ一種ノ犯罪トシテ之ヲ罰スルノミナラス天皇ノ尊貴ヲ害スヘキ法律ハ憲法ノ規定ニ違フモノタルヲ免レス第三天皇ハ豐富タラサルヘカラサルヲ以テ世傳御料及國庫ヨリ支出スヘキ皇室收入ヲ有セサルヘカラス(皇室典範第八章及第九章)

第二)　天皇ハ民事上刑事上及政治上ニ就キ其ノ責任ヲ負フコトナシト雖所謂天皇ノ無責任トハ法律上ノ責任ナキヲ云フモノニシテ皇祖皇宗ニ對シ又ハ其他ノ者ニ對シ德義上ノ責任ヲ有シ玉フコト勿論ナリ左ニ之ヲ分說ス

一、民事ニ就キ天皇ニ對シテ法律上訴訟ヲ提起スルヲ許シ天皇ヲシテ臣民ト對等ノ地位ニ立タシムルハ帝國ニ於テ認ムヘキ原理ニアラスト雖天皇ハ敢テ人民ノ私權利ヲ害シ玉フヘキモノニアラサレハ又タ之ヲ救濟シ玉フヘキコト當然ナリ只タ天皇ヲシテ裁判上ノ一對手タラシムルコトヲ得サルニ過キサルナリ但シ在位ノ天皇ノ外其他ノ皇族(皇室典範第七章)ハ天皇ニ服從ス

ヘキ臣民タルヲ以テ民事上決シテ無責任タルヘキモノニアラス皇族相互ノ訴訟ハ勅旨ニ依リ宮内省ニ於テ裁判員ヲ命シテ裁判セシメ人民皇族ニ對スル訴訟ハ東京控訴院ニ於テ裁判スル等裁判ノ管轄ト手續トニ於テハ普通ノ訴訟ト多少ノ差異アルモ皇族ハ各民事ニ就キ法律上ノ責任アルヘキコト明了タリ(皇室典範第四十九條乃至第五十條)

二、天皇ハ神聖ナリ如何ナル事情アリト雖天皇ノ身体自由ヲ侵スコトアルヘカラス故ニ刑事ニ就キ天皇ノ無責任タルヘキハ學者ノ定說ナリ英國憲法上ノ格言ニ「君主ハ惡事ヲ爲スコト能ハス」ト云ヘルハ敢テ君主ヲ以テ事實上惡事ヲ爲スノ能力ナキモノトナシ刑法上ノ所謂不論罪タルヘキモノトスルノ意ニアラス君主ハ假令惡事ヲ爲スモ刑罰ノ制裁ヲ以テ之ニ加フルコト能ハサルカ故ニ所謂法律上ノ犯罪者タルコトヲ得サルノ意義タルニ過キストス但シ裁判管轄及治罪手續ニ至リテハ皇族ニ就テモ特種ノ成規アリ(治罪法第八十三條第百八十七條皇室典範第五十一條)

三、政務ニ就テモ天皇ノ無責任タルコトハ近世國法學ノ原則ナリ然トモ凡百ノ

政務ハ概ヲ國務大臣ノ補弼ヲ要スルカ故ニ天皇ノ行ハセ玉ヒタル政務ニ就テハ之ヲ補弼シタル國務大臣ナシテ其責ニ任セシメサルヘカラス國務大臣ノ責任如何ハ尙ホ後篇ニ於テ論述セム

第四章　皇位及攝政

第一節　天皇タルヲ得ヘキ資格

大日本帝國ハ萬世一系ノ天皇之ヲ統治シ玉フヘキコトハ憲法第一條ノ明定スル所ナレトモ天皇タルヲ得ヘキ一身上ノ資格及適法ノ即位ニ必要ナル條件如何ニ至リテハ皇室典範ノ定ムル所ニ從ハサルヲ得ス而シテ天皇タルヲ得ヘキ一身上ノ資格ハ之ヲ二種ニ大別シ一ハ或ル特種ノ皇統タルヲ要シ一ハ身体精神ノ完全タルヲ要スルノ二事トス

〔甲〕皇統上ノ關係ニ基ク資格

天皇タルヲ得ヘキモノハ第一男子ニシテ第二皇族ニ限ルヘシ女皇ヲ立ツルノ例ハ往々史上ニ見ル所ナレトモ天皇ハ國家ノ元首ニシテ國家ノ實務ニ任シ玉フヘキモノタルヲ以テ男子ニアラサレハ能ク此重大ノ職務ヲ擴張スルコト甚タ難カ

ルヘシ英國史ヲ繙クモノハ英國王室ノ權利ハ常ニ女王ノ朝ニ於テ滅殺セラレタル事實ヲ發見スルニ容易ナルヘシ是レ憲法第二條ノ明文ヲ掲ケタル所以ナラム

○皇族トハ皇祖皇宗ノ皇統ニシテ則チ太皇太后、皇太后、皇后、皇太子、皇太子妃、皇太孫、皇太孫妃、親王、親王妃、内親王、王妃、女王ヲ云フ而シテ皇子ヨリ皇玄孫ニ至ルマテハ男ヲ親王、女ヲ内親王トシ五世以下ハ男ヲ王、女ヲ女王トシ又天皇支系ヨリ入テ大統ヲ承ケタルトキハ皇兄弟姉妹ノ王女、王タル者ニ特ニ親王内親王ノ號ヲ宣賜セラルヘキモノトス(皇室典範第三十條乃至第三十二條)然レトモ皇族タルノ資格ハ總テ實系ニ依リ皇統ノ純潔ヲ瀆スコトナキヲ必要トスルカ故ニ第一皇族ノ婚家ハ同族又ハ勅旨ニ依リ特ニ認可セラレタル華族ニ限リ第二皇族女子ノ臣籍ニ嫁シタル者ハ皇族ノ列ヲ脱セシメ第三皇族ハ養子ヲ爲スコトヲ得ス(皇室典範第三十九條第四十條第四十二條第四十四條第五十八條)

〔乙〕精神及身体上ノ資格

非才ノ人材ヲ以テ國家ノ元首タラシムルハ國家茲ヨリ盛大ナルコトナカルヘシト雖モ斯カヽル非凡ノ人才ヲ以テ國家ノ元首タルヘキ資格トスルニ至リテハ確乎

トシテ據ルヘキ標準ナク又人才ヲ誤ルノ弊害ナシトセス故ニ暫ク消極的ノ資格即チ身体若クハ精神ノ不治ノ重患等ナキヲ以テ充分ナリトセサルヲ得サルノミナラス此場合ニ於テモ元首ノ人物論ト法律上ノ資格論トハ往々相密着シテ爭議ヲ生スルコトアルヘキヲ以テ皇室典範ハ能ク此弊害ヲ除却スヘキ方法ヲ設ケタリ即チ第一天皇ノ身体上精神上ノ資格ノ有無ヲ定ムルハ全ク政論ノ範圍ヲ脱シタル皇族會議及樞密顧問ノ議決ニ任シ第二天皇ニシテ萬一此資格ヲ欠キタルトキト雖必スシモ皇位ヲ退クコトヲ要セス天皇ハ依然其位ニ在リテ攝政ヲシテ其政務ヲ代理セシムルコトヲ得ヘキモノトセリ(皇室典範第九條及第十九條)

第二節　皇位繼承ノ順序

皇位ノ繼承ハ左ノ法則ニ從フ

一、皇位ハ皇男子ヲ繼承スヘキモノニシテ皇女ハ之ヲ繼承スルコトヲ得ス(皇室典範第一條)

二、皇位ノ繼承ハ宗系ヲ先ニシ傍系ヲ後ニス即チ皇位ハ皇長子ニ傳ヘ皇長子アラサルトキハ皇長孫ニ傳ヘ皇長子及其ノ子孫皆ナ在ラサルトキハ始メテ皇次

子及其子孫ニ遞傳シ皇子孫皆ナ在ラサル時ニ於テ始メテ皇兄弟及其ノ子孫ニ傳ヘ皇兄弟及其子孫皆在ラサル時ハ皇伯叔父及其子孫ニ傳ヘ皇伯叔父及其子孫皆在ラサルトキハ其以上ニ於テ最近親ノ皇族ニ傳フ(同上第一條第三條第五條第六條第七條)

三、皇子孫ノ皇位ヲ繼承スルハ嫡出ヲ先ニシ皇庶子孫ノ皇位ヲ繼承スルハ皇嫡子孫皆在ラサル時ニ限ル(同上第四條)

四、同系中ニハ長ヲ先ニシ幼ヲ後ニスト雖皇兄弟以上ハ同等內ニ於テ嫡ヲ先ニシ庶ヲ後ニス(同上第八條)

五、皇位ノ順序ハ右ノ順序ニ依リ法律上常ニ確定シ當然皇位ヲ繼承スヘキモノヲ確認スルコトヲ得ヘシ而シテ儲嗣タル皇子ヲ皇太子トシ皇太子在ラサルトキハ儲嗣タル皇孫ヲ皇太孫トス(同上第十五條)

第三節　適法ノ即位

即位ノ適法ナランニハ天皇ニ第一天皇タルコトヲ得ヘキ資格第二繼承スルコトヲ得ヘキ資格ヲ有スヘキノミナラス適法ニ帝位ノ欠ケタル時ニ於テ帝位ニ即

キタルモノタルコトヲ要ス若シ此等ノ資格及ヒ時機ヲ欠クトキハ其即位ハ則チ簒位ナリ而シテ歐洲諸國ニ於テハ帝位ノ欠乏ノ源因ヲ以テ帝ノ崩御退位廢位等ノ數種ニ歸スレトモ我帝國ニ於テハ天皇崩御ノ外決シテ他ニ帝位ノ欠缺ヲ生スヘキ源因アルヲ認メス(皇室典範第十條)精神若クハ身体ノ不完全等天皇タル資格ヲ欠クコトアル場合ニ於テモ未タ即位ニ至ラサルトキハ單ニ帝位繼承ノ順序ヲ變換スルマテニ止マルヘク(同上第九條)又已ニ帝位ニ即キタル後ニ至リテ此等資格ノ欠乏ヲ來シタルトキハ攝政ヲ置キ大政ヲ掌ラシムルモ天皇ハ仍ホ其位ニ在ルヘキモノトス(同上第十九條)○天皇崩御スルトキハ皇嗣即チ踐祚シ祖宗ノ神器ヲ受ケ又ハ京都ニ於テ即位ノ禮及大嘗會ヲ行ヒ又ハ踐祚ノ後曆號ヲ改ムル等ハ皇室典範ノ定ムル所ナレトモ此等ノ事タル單ニ正統ナル帝位ノ證標、踐祚公示、及踐祚後ノ結果ヲ指示スルノミニシテ敢テ即位ニ必要ナル條件ニアラス(皇室典範第二章)

第四節　攝政

攝政ハ天皇ノ名ニ於テ大權ヲ行フ(第十七條)モノナレトモ攝政タル者ハ天皇ニ服

從スヘキ一臣民ニシテ決シテ天皇ナラサルノミナラス天皇アリテ始メテ攝政アルヘキモノナレハ他ニ天皇ナクンハ攝政モ亦ナカルヘシ然レトモ攝政ハ國家ノ政務ヲ行フモノナレハ決シテ之ヲ天皇ノ太傅ト同視スヘカラス太傅ハ只天皇未タ成年ニ達セサルトキ其保育ヲ掌ル所ノ宮廷ノ一官タルニ過キサルナリ(皇室典範第六章)攝政ヲ置クヘキ場合及攝政タルヲ得ヘキ者左ノ如シ

(第一)攝政ハ天皇未タ成年ニ達セサルトキハ當然之ヲ置キ天皇久シキニ亘ルノ故障ニ由リ太政ヲ親ラスルコト能ハサルトキハ皇族及樞密顧問ノ議ヲ經テ之ヲ置クヘキモノトス(皇室典範第十九條)而シテ玆ニ所謂成年トハ普通民法上ノ丁年ト異ニシテ天皇皇太子皇太孫ハ滿十八歳其他ノ皇族ハ滿二十歳以上ヲ云フ(同上第十三條及第十四條)是レ久シク攝政ヲ置クノ弊ヲ匡正スルノ意ニ出ツル所ニシテ各國ノ憲法概ヲ然リトス

(第二)攝政タルヲ得ヘキモノハ成年ノ皇太子又ハ皇太孫之ニ任シ皇太子皇太孫ナキカ又ハ未タ成年ニ達セサルトキハ第一親王及王第二皇后第三皇太后第四太皇太后第五內親王及女主ノ順序ニ從フ(皇室典範第二十條及第二十一條)又皇族男子ノ攝政ニ任スルハ皇位繼承ノ順序ニ從ヒ其女子ニ於ケルモ亦之ニ準スレトモ皇族女子ノ攝政ニ任スルハ其配偶アラサル者ニ限ルヘシ(同上第二十二條及第二十三條)

(第三)一タヒ任セラレタル攝政ノ權ハ天皇成年ニ達シ又ハ太政ヲ親ラスルコトヲ得ルニ至リタル時マテ其効力ヲ有スヘキヲ以テ事故ノ爲メ最近親ノ皇族ヲ措キ他ノ皇族ヲ攝政ニ任シタル場合ニ於テ最近親ニ就テハ其事故消滅スルモ天皇ニ就テ其事故ノ存在スル以上ハ其任ヲ讓ルコトヲ要セス但シ其最近親ノ皇族ニシテ皇太子皇太孫ニ係ルトキハ此限ニアラス(皇室典範第二十四條)

第四回

第二篇　臣民

第一章　臣民ノ資格

憲法第二章ニ於テ臣民ノ權利義務ヲ定メ而シテ日本臣民タルノ要件ハ法律ノ規定ニ從フヘキモノトセリ(第十八條)然レトモ此等ノ權利義務ハ必スシモ日本臣民タルモノ、特有ニシテ外國人ノ決シテ有シ得ヘカラサルモノニアラス外國人ト

雖日本帝國內ニ在ルノ間ハ日本臣民ト同等ナル權利義務ヲ有スルコトアリ設例ヘハ人身ノ自由所有ノ自由信敎ノ自由ノ權ノ如キ納稅ノ義務ノ如キ是ナリ又タ外國人ハ勿論日本臣民ト雖モ萬人悉ク之ヲ有スルコトヲ得サルモノアリ設例ヘハ參政ノ權兵役ノ義務ノ如キ是レナリ故ニ憲法ニ於テ特ニ之ヲ日本臣民ニ屬スヘキ權利義務トセルハ其當ヲ得サルニ似タレトモ苟モ日本ノ臣民タル以上ハ帝國ノ範土ヲ離レテ外國ニ在ルモノト雖モ此等ノ權利義務ヲ有スルモ外國人ハ日本ノ法律ニ依リ日本ニ歸化シタル者ヲ除クノ外帝國ノ範土ヲ離ルヽト同時ニ此等ノ權利義務ヲ失ヒ又犯罪人引渡條約ニ依リ外國人ヲ外國政府ニ引渡ス等ノ差アルノミナラス又大ニ其趣ヲ異ニスルモノアリ蓋人身ノ自由信敎ノ自由所有ノ自由(治外法權ノ爲メニ生スル結果ヲ除キ)等ハ外形上ニ於テハ外國人ト雖モ日本臣民ト同等ノ權利ヲ有スレトモ實体上ヨリ之ヲ察スレハ此等ノ自由權ハ法律ノ範圍內ニ於テノミ存在シ又法律ニ依リ其制限ヲ置クコトヲ得ヘキニ係ハラス仍ホ臣民ノ自由權タル性質ヲ失ハサル所以ハ其法律自身ノ制定ニ就キ臣民ノ參與權アルニ依ラサルヲ得ス故ニ參政權ナキ外國人ハ法律上單ニ此等自由權ノ結果

ヲ享有スルコトヲ得ルモ憲法上ニ於ケル自由權ヲ有スルモノニアラサルナリ

第二章　臣民ノ自由

第一節　自由權ノ本性

臣民ノ自由權ハ人身ノ自由信敎ノ自由思想發顯ノ自由及所有自由ヲ包含シ人類カ社會ニ於テ其發達進化ヲ爲スニ必要ナル條件ナリ若シ此等ノ自由ヲ有セサルモノアラハ人ノ手足ヲ拘束シテ萬國共通ノ一大社會ニ其優劣ヲ爭ハシムルモノニ異ナラス此等ノ自由ナキ國民ニシテ豈ニ其强盛ヲ致スコトヲ得ンヤ故ニ此等ノ自由ハ全ク人類社會ノ本性ニ基キ近世社會ノ進步ト共ニ發生シ來リタルモノニシテ決シテ夫ノ佛國革命ノ精神ニ基キタル天賦ノ人權說ニ胚胎シタルモノニアラス何トナレハ所謂天賦ノ人權說ナルモノハ個々獨立シタル天然上一個人ノ自由ヲ以テ其本據トスレトモ人類ハ共同團集ノ性質ヲ有シテ一ノ社會ヲ搆成スヘキ性質ヲ有シ決シテ個々獨立ノ存在ヲ有スヘキモノニアラサルノミナラス此等ノ自由ハ人類社會ノ搆成ヲ待ツテ始メテ其必要ヲ見ルヘキモノナレハナリ是レ我レ憲法カ此等ノ自由ヲ尊重シ人民ナシテ自由ニ優勝劣敗ノ社會ニ活動セシ

メ我カ國家ノ進運ヲ致サシムヘキ一大要件トスル所以ナリ

第二節　人身ノ自由

人身ノ自由ハ居住及移轉ノ自由(第二十二條)身体ノ自由(第二十三條)家宅安全及信書秘密ノ權ノ三種トス

(第一)居住及移轉ノ自由ハ法律上最モ重大ナルモノタリ抑モ住所ハ人々カ此社會ニ於テ治生ノ爲メ其活動發達ヲ爲スノ場所タルヲ以テ各人ハ自由ニ其住所ヲ撰定シ自由ニ移住シテ其生活ヲ計畫スルノ權ナカルヘカラス故ニ此自由ヲ束縛スルハ則チ各人ヲシテ其生活ヲ遂クルノ道ヲ束縛スルモノタルニ過キス故ニ帝國內ト帝國外トヲ問ハス居住及移轉ニ官ノ許可ヲ必要トシ寄留免狀若クハ通行免狀ノ制ヲ設クルハ此自由ヲ害スヘキモノナレトモ居住及移轉ニ關スル手續ヲ定ムルノミニ止マルモノハ決シテ此自由ヲ害スルモノニアラス但シ國法ニ從ヒ處斷セラレタル犯人ヲ一定ノ住所ニ置キ兵役其他國民タルノ義務ヲ盡サスシテ外國ニ移轉又ハ歸化スルヲ禁シ定マリタル家屋ナキモノヲ一定ノ住所ニ入レ又ハ幼者婦女子等ノ移住ハ父母若クハ後見人ノ承諾ヲ要スル等法律ヲ以テ特ニ規定

シタル場合ハ此限ニアラス又其國家非常ノ事變ニ係ル場合ハ後章ニ詳論ス

(第二)身体ノ自由ハ猥リニ逮捕監禁審問及刑罰ヲ受ケサルノ權ナリ(第二十三條)然レトモ犯罪ノ嫌疑ノ爲メ未決拘留ヲ受クルハ司法ノ正義ヲ維持スル爲メ已ムヲ得サルノ處分タルヘク裁判ニ依リ刑罰ヲ科シ其自由ヲ奪フハ當然ノ處分ナレトモ法律ヲ以テ之ヲ明定シタル場合ニ限ルヘキハ明了ナリ而シテ此等ノ場合ハ刑法及治罪法ノ明定スル所タルヲ以テ今茲ニ詳論セス

(第三)家宅ノ安全及信書秘密ノ權モ亦法律ヲ以テ之ヲ制限スル場合ノ外日本臣民ノ有スヘキ權利タリ(第二十五條及第二十六條)治罪法ニ於テ認メタル家宅搜査、罪證ヲ得ンカ爲メ豫審判事ニ於テ信書ヲ開封スル場合ノ如キ皆ナ法律ヲ以テ明定シタル例外ノ場合トス

第三節　信教ノ自由

信教ノ自由ハ第一思想ノ自由第二宗教ノ異同ヲ以テ法律上ノ權利ヲ異ニセサルノ二事トス(第二十八條)

第(一)思想ノ自由ハ之ヲ細別シテ信仰ノ自由、教會設置加入ノ自由及禮拜ノ自由ノ

三種トス信仰ノ自由トハ其奉信スル所ノ事項及人々隨意ニ此事項ヲ撰フコトヲ得ルノ自由ヲ云フ但シ幼兒ノ宗旨ヲ撰定スルハ其教育權ヲ有スル父母若クハ後見人ニ屬スレトモ宗教上ノ所謂辨別齡ニ達シタルトキハ變宗スルノ權アルヘキヲ以テ敢テ信仰ノ自由ヲ害スルモノニアラス教會設置及加入ノ自由トハ人々各々其ノ奉信スル所ノ宗旨ニ從ヒ其教會ヲ起シ又ハ教會ニ加入スルノ權ヲ云フ蓋宗教ノ信仰ハ全ク心理的ノ作用ニ屬スレトモ此心理的ノ作用ハ自ラ外形ニ顯ハレテ教會ノ設立加入等トナルヘシ是レ信仰ノ自由ヨリ發生スヘキ結果ナリ故ニ政府ニ於テ之ヲ許否スルハ此自由ヲ害スルモノタレトモ國家ノ公認ヲ受ケ某會結社等一般法律ノ例外ニ立タント欲セハ特ニ政府ノ允許ヲ要スヘキハ勿論ナリ」禮拜ノ自由ハ古來家中ノ禮拜ト社會一般ノ擧行スル公祭トニ區別シ公祭ヲ以テ單ニ政府ノ認可ヲ受ケヘキモノト定メタレトモ今日ハ已ニ之ヲ廢止シ祭祀ノ爲メ特ニ政府ノ保護ヲ受ケントスルモノヽミニ限リテ政府ノ許可ヲ要スヘキモノトス故ニ苟モ公安其他一般ノ法律ニ抵觸セサル以上ハ祭祀ノ執行ヲ許否スルハ禮拜ノ自由ヲ拘束スルモノタルヲ免レス

(第二)宗旨ノ異同ヲ問ハス萬民ヲ以テ法律上同等ト見做サヽルヲ得ス宗旨異同ヲ以テ法律上ノ權利ヲ異ニセシムルハ信教ノ自由ヲ害スルモノト謂フヘシ本邦ニ於テモ昔日ハ單ニ權利ヲ異ニセシノミナラス異宗ヲ奉スルモノヲ以テ犯罪人トナシ西洋諸邦ニ於テモ宗旨ノ異同ハ民權政權ノ有無ニ關係アレトモ今日ハ盡ク之ヲ廢シタリ

(第三)信教ノ自由モ亦決シテ無限ノ者ニアラス憲法カ日本臣民ハ安寧秩序ヲ妨ケス及臣民タルノ義務ニ背カサル限ニ於テ信教ノ自由ヲ有スト明言セルハ實ニ其當ヲ得タリ教法ノ主旨人ヲシテ反逆不忠ニ導キ或ハ有害ノ迷信ヲ喚起シ又ハ宗教上ノ紛擾ヲ釀生シテ國法ニ觸ルヽニ至ラハ安寧秩序ヲ妨害スルモノタルヘク教旨ニシテ兵役ノ義務ヲ嫌惡セシムルコト「メンノット」宗ノ如キハ國民タルノ義務ニ背クモノタルヘシ歐州ニ於テモ昔日ノ法律ハ「メンノット」宗及「クエーカー」宗ノ信徒ニ對シ此國民タル一大義務ヲ免レシメタレトモ今日ハ悉ク之ヲ廢シ只法廷ニ於ケル宣誓ニ就テハ一種ノ宣誓式ヲ行フコトヲ許シタルニ過キスト雖我法律ニ於テハ宗教上ノ思想ヲ以テ宣誓ノ本旨トセサルカ故更ニ此等ノ問題ヲ惹起スコ

第五回

第四節　思想交通ノ自由

言論著作出版集會及結社ノ權ハ思想交通ノ自由ナリ(第二十九條)而シテ言論集會及結社ハ口頭ニ依リ著作出版ハ器械的ノ手段ニ依レル思想ノ交通ナリ又言論著作ハ單ニ二人間ノ交通ニシテ集會結社及出版ハ三者ニ對シテ之ヲ流布スルノ差アルノミニ止マルヲ以テ出版ノ自由ハ著作ノ自由ヲ包含シ集會結社ノ自由ハ言論ノ自由ヲ包含スルカ故ニ左ニ出版集會及結社ノ三者ニ就テ思想交通ノ自由ヲ論述セム

(第一)出版トハ器械的手段(印刷筆摺版等)ニ依リ思想ヲ增植流布スルノ謂ニシテ出版ノ自由ハ人類ノ交通智識ノ增進スヘキ社會共同体ノ神經系ナリ出版ノ自由ナクンハ社會ノ活動忽チニ靜止シテ其進歩發達ヲ害スヘシ古來出版物檢閲(センシール)ノ制度ヲ設ケ政府ニ於テ豫メ出版事項ヲ檢閲シ又ハ出版免許(コンセッション)ノ制度ヲ置キ出版事項ヲ檢閲セサルモ豫メ政府ノ許可ヲ要スヘキモノトセルカ如キハ皆ナ出版ノ自由ヲ

害スルモノト云ハサルヲ得ス然レトモ出版ノ社會ヲ利スルコト大ナルト同時ニ又國家ノ治安秩序ヲ害スルコトアルヘキヲ以テ出版人發賣人等ヲシテ此等ノ責任ヲ負擔セシメ又ハ出版ノ届出ヲ爲サシメ又ハ其他ノ手續ヲ履行セシムルハ決シテ此自由ヲ妨害スルモノニアラス出版ノ自由ハ只タ法律ノ範圍内ニ於テノミ存在スルコトヲ得ヘシ

(第二)集會トハ口頭ヲ以テ思想ヲ公布スルノ義ニシテ言語ノ媒介ヲ以テスル各人相互ノ間ニ於ケル心理的ノ交通ナリ集會ノ自由モ亦出版ノ自由ト同シク社會ノ發達上實ニ緊要ナル一要具クルノミナラス人類ノ孤立離散ヲ防止スルニ欠クヘカラサル元素タリ故ニ人ヲシテ集會ヲ爲スコトヲ禁止スルハ勿論集會ニ政府ノ許可ヲ要セシムルノ制度ハ此自由ヲ妨害スルノ大ナルモノナレトモ此自由權ヲ濫用スルモノアルニ當リテハ政府ハ法律ニ反シテ治安秩序ヲ妨害スルモノヲ防止スル爲メ其集會ヲ中止解散セシメ又ハ之ヲ處罰セサルヘカラサル場合アルヘキヲ以テ某會場所日時ノ届出ヲ爲サシメ又ハ警察官ヲシテ公然集會ノ席ニ臨マシムルカ如キハ集會ノ自由自身ヲ害スルモノニアラサルナリ

〔第三〕結社ハ口頭ヲ以テ公ケニ思想ノ交通ヲ爲シ人類相互ノ共同一致ヲ遂ケントスルコトヲ目的トスル一集合ニシテ一法人タル資格ナキハ前項ニ論述シタル集會ト異ナル所ナシト雖結社ハ只タ永續スヘキ集會タルノ差アルノミ然レトモ結社集會共ニ各人各個ニ屬スルノ自由ニ出ツヘキモノタルヲ以テ各人已ムヲ得サルニ出テタル會合ハ生レナカラニシテ當然之カ社員タルモノト又入社ノ條件ヲ要スルモノトヲ問ハス之ヲ結社又ハ集會ト云フコトヲ得ス設令ヘハ市町村ノ團結ノ如キハ各人ノ自由ニ出テタル集合ニアラサルヲ以テ之ニ結社集會ノ法則ヲ適用スルコトヲ得サルナリ其結社ノ自由ヲ濫用シ同家ノ治安秩序ヲ害スル場合ニ於ケル法律上ノ制限ハ畧ホ集會ノ場合ト相同シ

第五節　所有ノ自由

日本臣民ノ所有權ハ完全ニシテ侵サルヽコトナシト雖公益ノ爲メ必要ナル處ハ法律ヲ以テ之ヲ定ム(第二十七條)ヘキハ憲法ノ明定スル所ナリ故ニ動產不動產ヲ問ハス鐵道布設市區改正炮臺建設等公益ノ爲メ臣民ノ財產ヲ必要トスル場合ニ於テハ法律ニ依リ之ヲ强要スルコトヲ得ヘシ是國家社會ノ必要ニシテ已ムヲ得サ

ルノ處分タルニ過キス英國ノ如キハ此權ヲ以テ「エミネント、ドメイン」ノ權即チ英國君主ハ全英國ノ土地ヲ所有シ人民ハ唯タ其借地人タルニ過キストスル古來因襲ノ不動產法ニ基クモノトスレトモ素リ此權ノ本性ヲ明了ナラシムルニ足ラス若シ果シテ然リトセハ英國ニ於テハ動產ニ對シテ此權ヲ認ムルコト能ハサルノミナラス不動產ニ就テハ公益ノ爲メナルト否トヲ問ハス此權アルヲ認メサルヲ得サルノ不都合ヲ見ルニ至ルヘシ○此ノ特別ノ處分ハ憲法ノ明文ニ依リ法律ヲ以テ規定スルニアラサレハ之ヲ行フノ權ナシト雖モ苟モ法律ヲ以テ規定スル以上ハ之ヲ行フモノハ必スシモ政府ニ限ラスシテ地方官署ハ勿論私立若クハ公立ノ會社ニ之ヲ行フノ權ヲ與フルヿトヲ得ヘシ而シテ學者往々此權ヲ以テ公用土地買上ノ權トスレトモ苟モ公益ノ爲メタル以上ハ必シモ公衆ノ之ヲ使用スルコトヲ要セサルヲ以テ公用タルコトヲ要セサルヘク又强要スヘキ物体ハ動產ニ係ル場合アルヘキヲ以テ必ス土地タルコトヲ要セス强要シタル財產ニ對シテハ相當ノ賠償金ヲ附與スルモ必スシモ承諾ニ出テタル賣買ニアラサレハ之ヲ買上ト稱スルヲ得サルナリ憲法カ公益ノ爲メト云ヒ又處分ノ文字ヲ用ヒタルハ能ク其

當ヲ得タルモノト云フヘシ

第三章　臣民ノ公權

(第一)官吏ト爲ルノ權及ヒ公務ニ就クノ權ハ日本臣民ノ有スル所ナリ(第十九條)官吏ト爲ルノ權トハ天皇ノ特命ニ依リテ國家ノ事務ヲ掌ルノ權ヲ云ヒ公務ニ就クノ權トハ國家及社會公共ノ事務ニ就クノ權ニシテ國會府縣會市町村會ノ議員トナリ又ハ公證人教員等ノ公吏ト爲ルノ權ヲ云フ然レトモ此等ノ權ハ唯之ヲ國務又ハ公務ニ就クノ權ヲ有スヘキ能力ト云フヘクシテ日本臣民ト雖モ法律命令ノ定ムル所ノ資格ヲ保有スルニアラサレハ悉ク之ヲ有スヘキモノニアラス

(第二)日本臣民ハ法律ニ從ヒ裁判官ノ裁判ヲ受クルノ權ヲ有ス(第二十四條)故ニ裁判官ハ裁判ヲ拒ムコトヲ得ス從テ法律ニ於テ定メタル起訴ノ原因ニシテ存スル以上ハ裁判官ハ必ス之ヲ受理シテ其事件ヲ裁判セサルヘカラスト雖モ法律又ハ其他ノ規則ニ於テ單ニ起訴ノ手續ヲ定ムルハ決シテ此權利ヲ妨害スルモノニアラス

(第三)請願ノ權ハ政府ニ對スルモノト國會ニ對スルモノトヲ問ハス日本臣民ノ有

スル所タルヲ以テ相當ノ敬禮ヲ守リ請願法ニ從ヒ之ヲ行フコトヲ得(第三十條)

第四章　臣民ノ義務

兵備ハ國家ノ威力ヲ維持シ公費ハ國家ノ需要ヲ供給スルニ欠クヘカラサルモノタルヲ以テ兵役及納稅ハ臣民一般ニ當然國家ニ奉スヘキノ二大義務タリ(第二十條及第二十一條)但シ此等ノ義務ヲ實行スルニ際シテハ必ス帝國議會ノ承諾ヲ經タル法律ヲ以テ之ヲ確定セサルヘカラサルヲ以テ特ニ之ヲ臣民ノ義務トスルニ足ラサルニ似タレトモ憲法ニ於テ已ニ此二大義務ヲ認メタル以上ハ議會ハ人身ノ自由及所有ノ自由ヲ害スルモノトスルコトヲ理由トシテ兵役及納稅ノ義務ヲ拒ムコトヲ得サルコトヲ明了ナラシムルニ足レリ

第五章　臣民權利ノ停止

上來論述シタル臣民ノ自由權利ハ其執行ヲ停止セラルヘキ二個ノ場合アリ一ハ戰時又ハ事變ニ係ル場合ニシテ一ハ陸海軍ノ法令規律ノ制限ニ係ル場合トス(第三十一條及第三十二條)

(第一)戰時及國家事變ノ場合ニ於テハ天皇ハ統治ノ大權ヲ執行スル爲メ臣民ノ自

由及權利ノ執行ヲ停止スルコトアリ設例ヘハ非常ノ時ニ際シテ通行免狀ノ制ヲ設ケ或ハ外國人ヲ放逐シ或ハ地方ヲ限リテ內外人ノ退去ヲ命シ或ハ法律ノ規定ニ反シテ人民ヲ逮捕監禁シ或ハ集會結社ヲ嚴禁シ或ハ人ノ私有ヲ侵奪シテ兵事ニ用ユル等臣民ノ自由ヲ害スルカ如キ皆ナ是レナリ

(第二)陸海軍ハ嚴肅ナル軍規ヲ以テ之ヲ拘束シ唯一ノ恭順ヲ以テ其義務ト爲シ器械的ナル迅速ノ活動ヲ本旨トスルカ故ニ兵士將校ヲシテ一定ノ場所ニ居住セシメ自由ニ集會結社ヲ爲シ又ハ他ニ公權ヲ行フコトヲ禁止スル等臣民ノ自由權利ヲ制限スルコト甚タ多シ又タ此等ノ制限ハ必スシモ法律ヲ以テ規定スルコトヲ要セサルカ故ニ陸海軍ノ法令規律ニ抵觸セサルモノニアラサレハ軍人ニ對シテ臣民タルノ自由權利ヲ許スヘキモノニアラス

第三篇　議會

第一章　帝國議會ノ組織

第一節　總說

帝國議會ハ全國民ヲ代表スル國家重要ノ一機關ニシテ貴族院衆議院ノ兩院ヨリ

構成ス(第三十三條)貴族院ハ世襲不動ナル富貴ノ社會ヲ代表シ衆議院ハ商貨農工等變遷進化ノ最モ著大ナル社會ヲ代表シ國務ニ參シテ意思ヲ發顯シ更ニ天皇ノ裁可ヲ得テ始メテ法律上ニ全帝國ノ意思ノ存スル所ヲ了知シ帝國々權ノ活動ヲ引起スヘキ根本ノ機關タリ故ニ一人ニシテ同時ニ兩議院ノ議員タルハ二種ノ議院ヲ設ケ異種ノ意見ヲ代表スルノ精神ニ反スルモノタルヲ以テ憲法ハ嚴ニ之ヲ禁止(第三十六條)スルノミナラス華族ニシテ衆議院ノ選擧人及被選人タルモ亦之ヲ許スヘキモノニアラス但法律ハ華族ノ當主ノ外其家族ハ衆議院ノ選擧人若シハ被選人タルコトヲ得ヘキモノトスレトモ英國法ノ如ク華族ノ當主及其相續人ノミヲ以テ華族トシ其他ノ家族ヲ以テ悉ク平民籍ニ入ラシムルコトナキ邦國ニ於テハ此制規ハ敢テ充分ノ理由アルヲ發見スルコト能ハサルナリ(選擧法第十六條)

第二節　貴族院ノ構成

第一段　貴族院議員

貴族院ハ皇族華族及勅任議員ヨリ成立スル者ニシテ其議員ノ資格任命等ハ勅令

即チ貴族院令ヲ以テ之ヲ定メタリ(第三十四條)

(議員タルヘキ者)ハ分ツテ四種トシ第一ハ當然議員タルヘキモノ第二ハ選擧ニ出ツルモノ第三ハ全ク勅任セラレタル者第四ハ選擧及勅任ノ兩法ヲ混用スル者トス第一種ハ皇族及公侯爵第二種ハ伯子男各々其同爵中ヨリ選擧セラレタル者第三種ハ國家ニ勳勞アリ又ハ學識アル者ヨリ特ニ勅任セラレタル者第四種ハ各府縣ニ於テ土地或ハ工業商業ニ付多額ノ直接國稅ヲ納ムル者ノ中ヨリ一人ヲ互選シ勅任セラレタル者トス但第二種ノ議員ノ數ハ各々總數ノ五分ノ一第三種及第四種ノ議員ハ有爵議員ノ數ニ超過スヘカラス(貴族院令第一條第四條第二項第七條第二項)

(資格)皇族ハ成年(皇室典範第十三條第十四條)公侯ハ滿二十五歲其他ノ議員ハ三十歲(貴族院令第二條第三條第四條第五條第六條)其資格ノ有無及撰擧ノ當否ニ關ル爭ハ貴族院自ラ之ヲ判決シ上奏シテ裁可ヲ乞フ(同上第九條)

(任期及除名)第一種及第三種ノ議員ハ終身第二種及第四種ノ議員ハ七年ヲ以テ其任期トス(貴族院令仝第二條乃至第七條其禁錮以上ノ刑又ハ身代限ノ處分ヲ受ケタル者ハ勅令ヲ以テ之ヲ除名シ貴族院ノ懲罰ニ依リ除名スヘキモノハ上奏シテ裁可ヲ乞フ(同上第十條)

第二段　貴族院職員

貴族院ニハ議長副議長アリ議員中ヨリ七箇年ノ任期ヲ以テ勅任セラルヘキモノトス其第二種ノ議員即チ被選議員ニシテ議長副議長ノ任命ヲ受ケタルモノハ議員ノ任期間其職ニ服ス(貴族院令第十一條)○其他委員書記官等ノ職員ニ就テハ凡テ衆議院ト等シケレハ後節衆議院ノ組織ヲ論スルノ條下ニ於テ併論セム(同上第十二條)

第三節　衆議院ノ構成

第一段　衆議院議員

衆議院ハ公選セラレタル議員ヲ以テ組織ス其撰擧ハ選擧法ノ定ムル所ナリ左ニ其大要綱目ヲ示ス(第三十五條)

一、選擧區畫

議員ハ可成人才ヲ得ルヲ以テ選擧ノ要旨トスルカ故ニ全國ヲ通シテ議員ヲ撰出

スルコトヲ得レトモ其議員ノ代表スヘキ撰擧人ハ可成全國ニ渉ラサル得サルヲ以テ、全國ノ撰擧人ヲ數多ノ選擧區ニ分チ各區ヲシテ其欲スル所ノ議員ヲ撰出セシメサルヘカラス今マ府縣郡區ノ行政區畫ニ依リ之ヲ定メンカ議員總數三百人ヲ以テ各府縣ニ配當スレハ三府縣ヨリ二十八五郡ヨリ二八ノ議員ヲ撰出スルノ割合ナレトモ各府縣若クハ郡區內ノ選擧人ハ必スシモ其數ヲ一ニセサルヲ以テ選擧人ト被選擧人トノ平均ヲ保セシムヘキ選擧法ノ目的ヲ實行セント欲セハ此平均ニ基キタル一種ノ選擧區畫ヲ定メ各區ヲ以テ選擧ノ單位トセサルヲ得ス即チ我法律ハ全國ヲ通シテ二百五十七區トセリ故ニ府縣郡區ノ行政區畫ヨリ言ハヽ十三八ノ最大數議員ヲ撰出スル新潟縣三八ノ最小數議員ヲ撰出スル山梨鳥取宮崎ノ如キアリ或ハ一郡ニシテ一八ノ議員ヲ撰出シ八郡ニシテ一八ノ議員ヲ選出スルモノアリ是レ皆ナ選擧人ノ多少即チ選擧區畫ノ多少ニ比例スルモノタルニ過キスト雖全ク行政區畫ヲ捨テ一種新奇ノ區畫ヲ設クルハ選擧手續及費用上ノ便宜ヲ欠クヘシ設例ヘハ府縣知事ナシテ其府縣內ノ選擧ヲ監督シ郡長市長ヲシテ選擧長トシテ一選擧區ノ選擧ヲ管理セシメ又ハ選擧ニ關スル費用ヲ地方稅ヨリ支辯セシム

ル等ノ如キハ其ノ便宜ナリ故ニ法律ハ選擧ノ目的ヲ達スル爲メ別ニ選擧區畫ヲ設クルモ行政上ニ於ル府縣郡區ヲ以テ此ノ選擧區ヲ規定スルノ單位トシ再ヒ選擧區ヲ以テ選擧ノ單位トスルヲ以テ一選擧區ニ就キ必スシモ被選人ノ數ヲ固定セス是レ一區ニ付キ一人若クハ二人ヲ選出スルコトアルノミナラス往々算術上ノ比例ハ同一ナルモ特ニ八郡ヲ一區トシテ二人ノ議員ヲ撰出セシメ四郡ヲ一區トシテ一人ヲ撰出セシムルコトナキノ奇觀ヲ見ル所以ナリ(撰擧法第一章及附錄)

二、選擧ノ資格

選擧人及被選人タル資格左ノ如シ

一、日本臣民ノ男子ニシテ選擧人ハ年齡二十五歲以上被選人ハ年齡三十歲以上タルコトヲ要ス(撰擧法第六條第八條)

二、選擧人名簿調製ノ期日ヨリ選擧人ハ其本籍ノ府縣內ニ於テ前滿一年以上被選人ハ其選擧府縣內ニ於テ前滿三年以上直接國稅十五圓以上ヲ納メ仍ホ引續キ納ムル者タルヘシ然レトモ其所得稅ニ係ルモノハ前滿三年以上引續キ納ムル者ニ限ルト雖人名帳簿ノ初年ニ限リ所得稅法施行以來引續キ納メタ

ルモノヲ以テ此期限ヲ充タシタルモノトナシ又家督ニ依リ財産ヲ相續シタルモノハ前財産主ノ納稅額ヲ納稅資格ニ算入ス(選擧法第六條第七條第八條及第百十條)故ニ全國ノ各府縣ニ於テ前條ノ納稅資格ヲ有スルモノハ全國ノ選擧區ヨリ其選擧ヲ受クルコトヲ得ヘシ

三、選擧人ハ名簿調製ノ期日ヨリ前滿一年以上其府縣內ニ於テ本籍ヲ定メテ引續キ住居スル者ニ限ル又被選擧人ニ就テハ其制限ナシト雖其選擧府縣ニ於テ前項ノ納稅資格ヲ有セサルヘカラス(選擧法第六條第二項)

四、瘋癲白痴者、身代限ノ處分ヲ受ケ負債ノ義務ヲ免レサル者、公權利剝奪及停止中ノ者、禁錮ノ刑ニ處セラレ又ハ舊法ニ依リ一年以上ノ懲役若クハ國事犯禁獄ノ刑ニ處セラレ又ハ賭博犯ニ由リ處刑ヲ受ケテ滿期又ハ赦免ノ後三年ヲ經サル者及選擧ニ關スル犯罪ニ由リ選擧權及被選權停止中ノ者ハ選擧人及被選人タルコトヲ得ス故ニ已ニ此等ノ刑ヲ受ケタル以上ハ大赦ノ爲メ放免セラレ全ク無罪ノ人トナリ大赦ト共ニ復權ヲ得タルモノト雖三年ヲ經過スルニアラサレハ選擧權ヲ有スルコト能ハス蓋復權ハ將來ニ向ツテノミ公權

ヲ有スルコトヲ得ヘキ能力ヲ與フルモノナレハ此場合ニ於テノ復權ハ三年經過ノ條件ノ到來ニ至リテ始メテ公權ヲ得有スルコトヲ得ヘキ能力ヲ與フニ過キス但シ犯罪アリト雖未タ現刑ニ處セラレタル內ニ於テ大赦ヲ得タルトキハ此限ニアラサルハ當然ナリ(選擧法第十四條)

五、神官僧侶又ハ敎師及宮內官裁判官會計檢査官及警察官ヲ除クノ外一般ノ國家官吏ハ其職務ヲ妨ケサル限リハ議員ヲ兼ヌルコトヲ得ヘク府縣及郡ノ官吏又ハ其管轄區域內ニ於テ選擧ノ管理ニ關係スル市町村ノ吏員ハ其選擧區ニ於テ被選人タルコトヲ得ス但シ府縣會ノ議員ハ衆議院ノ議員ニ選擧セラレ其當選ヲ承諾シタルトキハ其前職ヲ辭スヘキモノトス(選擧法第九條乃至第十三條)

右ノ外陸海軍人ハ現役中タルト休職停職中タルトヲ問ハス選擧權ヲ行ヒ又ハ被選人タルコトヲ得ス刑事ノ訴ヲ受ケ拘留又ハ保釋中ニ在ルモノモ亦同シ(選擧法第十五條及第十六條)

三、選擧人名簿

選擧人名簿ハ選擧資格ヲ有スル者ノ氏名年齢身分納稅額等ヲ記載シタル確實ノ記錄ニシテ選擧實行ノ基本タルヘキモノナリ議員ノ任期ハ四年ナレトモ臨時ノ選擧アルヘキヲ以テ每年之ヲ調製ス而シテ選擧投票ハ通常七月一日ナルヲ以テ郡長市長等各選擧區ノ選擧長タルモノハ每年四月一日ヲ期シ之ヲ整備シ五月五日ヨリ十五日間一選擧區選擧人名簿ノ寫ヲ郡役所市役所又ハ區役所ニ於テ公衆ニ縱覽セシム而シテ選擧資格アル者此名簿ニ脫漏誤載アルトキハ此縱覽期限內ニ其改正ヲ選擧長ニ申立テ選擧長ハ二十日以內ニ於テ之ヲ判定シ其ノ誤載アリト判定シタルモノハ直ニ之カ改正ニ着手スヘク又タ其判定ニ服セサルモノハ選擧長ヲ被告トシテ判定ノ日ヨリ七日內ニ始審裁判所ニ訴ヘ出テ仍之ニ不明ナルモノハ大審院ニ上告スルコトヲ得セシム然レトモ七月一日ハ選擧投票ノ期日タルヘキヲ以テ如何ナル紛議ノ未決中タルヲ問ハス六月十五日ヲ以テ確定ノ期日トナシ次年ノ調製日ニ至ルマテ之ヲ變動スルコトヲ得スト雖モ裁判言渡ニ係ル改正ハ選擧長其言渡書ヲ受取リタル日ヨリ二十四時間內ニ之ヲ改正シテ其手續ヲ爲スヘキモノトス(選擧法第五章)

四、選擧投票

選擧ノ投票ハ通常七月一日ニ之ヲ行ヒ衆議院解散ヲ命セラレタルトキハ勅令ヲ以テ選擧ノ期日ヲ定メ少クトモ三十日以前ニ之ヲ公布ス○投票ハ距離遠隔ナルコトヲ得サルカ故ニ投票執行ハ各町村ニ於テ町村長之ヲ管理シ選擧人中ヨリ立會人數名ヲ選擧シ之ニ立合ハシメ選擧人ハ選擧ノ當日自ラ投票所ニ往キ記名投票ヲ爲シ了ルヲ待チ投票函ヲ閉ヂ町村長ハ翌日立會人ト共ニ投票函ヲ選擧管理ノ郡市役所ニ送致ス然ルトキハ選擧長ハ立會委員ト共ニ之ヲ開キ投票數ノ計算調査ヲ爲シ投票ノ正當ナルヤ否又タ其式ニ合スルヤ否ヲ定メ且ツ之ニ關スル疑義アルトキハ立會委員ノ意見ヲ聞キ之ヲ決定ス(選擧法第三十條乃至第五十七條)

五、當選

投票總數ノ最多數ヲ得タル者ヲ以テ當選人トス若シ投票同數ナルトキハ生年月ノ長ヲ以テ當選人トシ同年月ナルトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム然レトモ當選人ニシテ其當選ヲ辭シ又ハ期限內ニ其當選ノ承諾ヲ屆出サルトキハ再選擧ヲ行ヒ次數ノ投票ヲ得タルモノヲ以テ當選者トスルコトナキハ我法律ノ規定ナリト雖其

投票同數ニシテ且ツ生年月ヲ同フスルニ當リ抽籤ヲ爲シテ當選ヲ得タルモノハ之ヲ辭シ又ハ承諾ヲ屆出サルトキハ再選擧ヲ行ハシテ其抽籤ニ依リ當選ヲ失ヒタルモノヲ以テ當選者トス但シ我法律ハ單ニ抽籤ニ係ル場合ノミニ於テ再選擧ノ手續ヲ畧シ年長ノ者當選ヲ辭シ又ハ之カ承諾ヲ屆出サルトキニ於テ再選擧ヲ爲スヘキモノトスルヤ余ハ其理由ヲ解スルコト能ハサルナリ○當選人定マリタルトキハ選擧長ハ直ニ之ヲ府縣知事ニ屆出テ府縣知事ハ之ヲ管內ニ通知シ當選人ヲシテ其承諾及數選擧區ノ當選人トナリタルモノハ數者中何レヲ承諾スルヤ否ヲ屆出サシム而シテ若シ之カ屆出ヲ爲サヽルトキハ其當選ヲ辭シタルモノト見做シ當選人ノ確實ヲ待ツテ更ニ之ヲ管內ニ告示シ且ツ之ヲ內務大臣ニ具申スヘキモノトス(選擧法第九章)○何人ヲ問ハス各選擧區ニ於テ當選ヲ失ヒタル者當選人ノ當選ヲ無効トスルノ理由アリト認ムルトキハ當選人ヲ被告トシテ控訴院ニ出訴スルコトヲ得ヘシ故ニ一ノ被告ニ對シ數名ノ原告アルヘシト雖此場合ニ於テハ一ノ裁判言渡書ヲ以テ各訴訟人ニ宣告スルコトヲ得ルカ故ニ此等ノ訴訟ニ對スル裁判言渡ハ各訴訟ノ爭點相異ナルニ關セス控訴院ハ當選事件全体ニ就キ

一ノ裁判言渡ヲ爲スモノタルヘシ但シ他ノ當選ヲ失ヒタル者ニ對シテハ確定裁判ノ効力ナカルヘシ又タ此裁判言渡ニ對シテハ大審院ニ上告スルコトヲ得ヘシト雖モ被告タル當選人ハ當選無効ノ裁判確定ニ至ルマテハ議員タルノ權利ヲ失フモノニアラス(選擧法第十二章)

第二段　衆議院職員

衆議院職員ハ議長、副議長、書記官長、書記官委員長及委員トス

(議長及副議長)ハ各々一員ニシテ衆議院ニ於テ各々三名ノ候補者ヲ選擧セシメ其中ヨリ之ヲ勅任ス故ニ此任命前ニ於テハ書記官長其職ヲ行フヘキモノトス○議長副議長ノ任期ハ議員タルノ任期ニ等シ故ニ辞職其他ノ事故ニ依リ欠位ヲ充タシタル繼任者ノ任期モ仍ホ前任者ノ任期ニ依ルヘシ但シ議長副議長ハ任期滿限ニ達スルモ後任者ノ任命アルマテ仍ホ其職ヲ繼續ス(議院法第三條第八條第九條及第十五條)○議長ハ開會中議院ノ秩序ヲ保持シ議事ヲ整理シ及院外ニ對シテ議院ヲ代表シ閉會中ト雖モ仍議院ノ事務ヲ指揮ス但シ議長ハ常任委員會及特別委員會ニ臨席シ發言スルコトヲ得レトモ表決ノ數ニ入ルコトヲ得ス(同上第十條第

十一條及第十二條)○若シ又議長故障アルトキハ副議長之ヲ代理シ議長副議長共ニ故障アルトキハ假議長ヲ選擧ス(同上第十三條及第十四條)

(書記官長及書記官)各議院ニ勅任書記官長一名奏任書記官數名ヲ置キ書記官ハ議事錄及其他ノ文書案ヲ作リ事務ヲ掌理シ書記官長ハ議長ノ指揮ニ依リ書記官ノ事務ヲ提理シ公文ニ署名ス(議院法第十六條及第十七條)

(委員長及委員)各議院ノ委員ニ三類アリ第一ハ全院委員第二ハ常任委員第三ハ特別委員トシ各々之ニ委員長ヲ置キ委員會ノ經過及結果ヲ議院ニ報告ス而シテ全院委員長ハ一會期毎ニ開會ノ始メニ於テ之ヲ選擧シ其他ノ委員ハ各委員會ニ於テ之ヲ互選ス(議院法第二十條第一項及第二十一條第二十四條)而シテ全院委員ハ議院ノ全員ヲ以テ委員ト爲シ議員三分ノ一以上ノ出席ニ依リ有効ノ議決ヲ爲シ(議院法第二十條第二項及第二十二條)常任委員ハ事務ノ必要ニ依リ之ヲ數科ニ分割シ負担ノ事件ヲ審理スル爲ニ各部ニ於テ同數ノ委員ヲ總議員中ヨリ選擧シ一會期中其任ニ在ラシメ委員半數以上ヲ以テ有効ノ議決ヲ爲スコトヲ得ヘシ(議院法第四條第二十條第三項及第二十二條)最後ニ特別委員ハ一事件ヲ審査スル爲メ

ニ議院ノ選擧ヲ以テ特ニ付托ヲ受ケタルモノニシテ其議決ハ又半數以上ノ出席ヲ要スヘキモノトス(同上第二十條第四項及第二十二條)但シ各委員ハ議會閉會ノ間ト雖モ政府ノ要求又ハ其同意ヲ以テ議案ノ審査ヲ繼續セシムルコトヲ得(同上第二十五條)

第六回

第二章　帝國議會ノ召集成立開閉停

帝國議會ハ常開ノモノニアラス毎年之ヲ召集シテ其成立ヲ爲サシメ且ツ之ヲ開閉セサルヘカラサルノミナラス往々之ヲ停止セサルヘカラサル場合アリ而シテ其開會閉會會期ノ延長及停會ハ兩院常ニ同時ニ之ヲ行フヘキモノトス(第四十一條及第四十四條)

(召集)トハ議員ヲシテ各議院ニ集會スルコトヲ告示スルモノナリ此召集ハ常會ト臨時會トヲ問ハス勅諭ヲ以テ期日ヲ定メ少クトモ四十日前ニ之ヲ發布スヘキモノトス但衆議院解散ヲ命セラレタル爲メ更ニ之ヲ召集スルニハ解散後五ケ月以內ニ之ヲ召集ス(第四十三條第四十五條議院法第一條及第二條)

〔議會ノ成立〕トハ議員集會ノ後議長副議長ヲ定メ及部長ヲ選出シタルトキヲ云フノミニシテ此時ニ於テハ議會ハ已ニ成立スルモ未タ開會セルモノニアラス(議院法第五條)

〔開會〕トハ已ニ成立シタル議院ノ活動ヲ始ムルノ期ヲ云フ勅命ヲ以テ此期日ヲ定メ兩院議員ヲ貴族院ニ會合セシメ開院式ヲ行フテ以テ開會トス(議院法第五條)但シ衆議院解散中ニ於テハ貴族院ハ只タ停會スルノミナルヲ以テ解散後新ニ召集シタル衆議院ニシテ成立シタル以上ハ別ニ開院式ヲ行フコトナカルヘシ否ラスンハ貴族院ハ二重ノ開會式ヲ爲スニ至レハナリ(第四十五條)

〔停會〕ハ議院不成立ニ基ク停會及事務處分上ノ停會ノ二種トス議院不成立ノ停會トハ衆議院解散ヲ命セラレ議會成立ナキニ至リタルトキハ貴族院ハ同時ニ停會セサルヘカラサル場合(第四十四條第二項)ヲ指シ事務處分上ノ停會トハ處務上ノ便宜ニ依リ政府ヨリ何時ニテモ十五日以内ノ停會ヲ命スルコトヲ得ル場合(議院法第三十三條第一項)ヲ指ス故ニ一ハ解停ノ後前會ノ議事ヲ繼續スルコトヲ許サヽルモ一ハ之ヲ繼續スルヲ以テ定規トセリ(議院法第三十三條第二項及第三十四條)

〔閉會〕ハ帝國議會ノ成立ヲ取消シ其事務ノ終局ヲ告クルモノタリ故ニ其議決ニ至ラサル事務ハ後會ニ繼續スルコトナシ又一見スレハ會期ヲ經過スレハ自ラ閉會タルニ似タレトモ議會ハ仍ホ成立スルコトヲ得ヘキノミナラス會期前ト雖閉會スルコトヲ得ヘキヲ以テ特ニ勅命ニ依リ兩議院會合ニ於テ閉會ノ式ヲ行フヘキモノトス(議院法第三十五條第三十六條)

〔會期〕トハ議會ノ成立中開會ヨリ閉會期限ニ至ル日數ニシテ通常三ケ月ヲ以テ期限トシ勅命ヲ以テ之ヲ延長スルコトヲ得レトモ此延長ハ天皇ノ特權ニシテ議會自ラ之ヲ延長スルコトヲ得ス(第四十二條)故ニ事務處分上ノ停會(議院法第三十三條)ノ日數ハ開會ヨリ閉會ニ至ルノ期日ナルヲ以テ之ヲ會期中ニ算入ス然レトモ衆議院解散ヲ命セラレタルニ起原スル貴族院停會ノ日時ハ之ヲ會期中ニ算入スルコトヲ得ス何トナレハ衆議院ノ解散中ハ議會ハ成立中ニ於ケル日數ニアラサレハナリ

第三章　帝國議會ノ權利

第一節　立法協贊權

帝國議會ハ決シテ立法權ヲ有スルモノニアラス苟モ帝國タランニハ立法權ハ全ク天皇ノ御一身ニ屬スヘキモノナレトモ天皇ニシテ其立法權ヲ行ハセ玉フニハ必ス議會ノ協贊アルヲ要ス協贊トハ天皇ハ議會ノ共同(インコーポレーション、ウヰス)ニ於テ立法權ヲ行ハセ玉フトノ意ニシテ專ラ立法權ヲ有スル者ヨリ言葉ヲ立テタルモノニシテ議會ヨリ之ヲ言ハヽ天皇ノ立法權ノ施行ニ參與スルノ權ナリ英國憲法ニ於テハ承諾(コンセント)ノ文字ヲ以テ帝國憲法ノ所謂協贊ノ文字ト殆ト同一ノ意義ヲ有スルモノトスレトモ之ヲ適當ノ文字ト云フコトヲ得ス何トナレハ我カ議會ノ協贊權(第三十七條)ナルモノハ法律案議決ノ權法律案提出ノ權及法律ニ代ハルヘキ已發ノ勅令ヲ承諾(アップルーブ)スルノ權ノ三者ヲ包含スルモノナルニ英語承諾(コンセント)ノ文字ハ此等ノ意義ヲ發顯スルニ充分ナラサレハナリ其區別ニ從ヒ左ニ天皇ノ立法權ノ施行ニ關スル議會ノ協贊權ヲ列途セム

(第一、法律案議決ノ權)議會カ法律案ヲ議決スルノ權(第三十八條初段)ハ協贊權(第三十七條)ノ一ナレトモ議會ハ決シテ法律ヲ制定スルモノニアラス只タ法律案ヲ議決スルニ過キスシテ其議決ハ天皇ノ裁可ヲ待ツテ始メテ法律ト爲ルコトヲ得レ

トモ斯ク議會ハ本來立法權ヲ有スルモノニアラスシテ法律ヲ制定スルト否トハ天皇ノ特權ニ屬スヘキモノナルヲ以テ天皇ハ議會ノ議決ニ對シ必スシモ之ヲ裁可シ又ハ裁可セサル旨ヲ明言シ玉フニ及ハスト雖モ議決ノ結果ハ一定ノ方法ニ依リ之ヲ知ルコト必要タルヲ以テ其裁可セラレタル議案ハ次ノ會期マテニ公布セラルヘク次ノ會期ヲ過キテ公布セラレサルモノハ自ラ裁可セラレサルモノタルコトヲ知ルヘシ(議院法第三十二條)○又議會ノ協贊權ハ只タ法律案ノ議決ニ在ルヲ以テ一般ノ命令規則ト雖法律ニアラサルモノハ議決ヲ爲スノ權ナカルヘシ仰モ一般ニ法ト云ヘル中ニハ萬種ノ法律命令規則等ヲ包含シ英語ノ(Law,)佛語ノ(Droit,)獨語ノ(Recht,)ヲ意味スレトモ法律ナル語ハ英語ノ(Statute,)佛語ノ(Loi)獨語ノ(Gesetes)ノ意ニシテ必ス議會ノ議決ヲ經タルモノニ限レリ而シテ其所謂法律ナルモノハ如何ナル事項ヲ規定スルモノナルヤ否ハ憲法カ特ニ法律ヲ以テ規定スヘシト明言シタル場合ニ外ナラス故ニ憲法ニ明言セサル以外ノ事項ハ理論上ニ於テハ其性質タル法律ヲ以テ規定スルコトヲ適當トスルニ似タルモノト雖モ議會ハ之ヲ議決スルノ權利ナシ設例ヘハ我憲法中臣民ノ自由權利中ニハ營業ノ

自由結婚ノ自由等ヲ認メサルカ故ニ此等ノ自由ヲ制限スヘキ法則ト雖モ命令ヲ以テ之ヲ行ヒ決シテ法律ヲ以テ之ヲ規定スヘキモノニアラス

(第二、議案提出ノ權)兩議院カ議案ヲ提出スルノ權モ亦協贊權ノ一ナリ(第三十八條後段)然レトモ兩議院ノ一ニ於テ否決シタル法律案ハ同會期中ニ於テ再ヒ提出スルコトヲ得ス(第三十九條)是敢テ提出權ヲ防制スルモノニアラスト雖モ同會期中ニ於テハ議院ノ意見ニ甚シキ變更ナキモノタルヲ以テ一旦否決セラレタル議案ヲ再出スルハ徒ニ議院ヲシテ無用ノ繁雜ヲ來サシムルニ過キサルヲ以テ只タ此權ノ濫用ヲ豫防スルニ止ルノミ但兩院ニ於テ議決シタル議案ヲ天皇ニ於テ裁可シ玉ハサル場合ニ於テモ亦同樣ノ弊害ヲ發生スルコトアルヘキニ似タレトモ此場合ノ弊害ヲ防制スルハ議院法第三十二條ノ規定ナリ此規定ハ已ニ前ニ論シタルカ如ク裁可ヲ得タルモノヽミ次ノ會期迄ニ之ヲ公布シ天皇ハ裁可不裁可ヲ明言シ玉ハサルコトヲ明示スルモノタルヲ以テ兩院議決ノ議案ハ同會期中ト雖其裁可ヲ得タルコトヲ知ルコトヲ得ヘキ場合アルヘシト雖モ次會期ニアラサレハ不裁可アリシコトヲ知ルコト能ハサルヲ以テ同會期中ニ一タヒ不裁可セラレ

タル議案ヲ再提スルノ場合ナカルヘシ

(第三、勅令承諾ノ權)天皇カ親ラ有シ玉フ立法權ハ議會ノ協贊ヲ以テ之ヲ行ハセ玉フヘキハ憲法ノ規定ナレハ緊急ノ必要ニ依リ法律ニ代ハルヘキ勅令ヲ發シタルトキハ次ノ會期ニ於テ之ヲ議會ニ提出シ其承諾ヲ得サルヘカラス(第八條)蓋此承諾ハ則チ天皇ヲシテ適法ニ其立法權ヲ施行アラセラレタルモノトナシ天皇ヲシテ眞ニ立憲帝國ノ天皇タラシムヘキ一方法タルヲ以テ議會ニ於テ之ヲ議シ其承諾ヲ爲スモ亦立法協贊權ノ一ナリ但シ若シ議會ニ於テ承諾セサルトキハ政府ハ將來ニ向テノミ其効力ヲ失フコトヲ公布スルノミニシテ其議定ニ至ラサルノ時日間ハ毫モ勅令ノ効ヲ失ハサルヲ以テ次會期ニ於テ之ヲ帝國議會ニ提出スルハ恰モ政府ヨリ新ニ法律案ヲ議會ニ提出シタルモノニ異ナラサルヘシ故ニ議會ノ承諾權ハ決シテ勅令ヲ認可スルモノニアラサレハ此權ノ存在ヲ以テ立法權ノ議會ニ存スヘキモノト推論スルハ誤見タルヲ免レス

第二節　財務協贊權

帝國議會ハ財務上ニ就テハ重大ノ協贊權ヲ有ス此協贊權ハ則チ歳入出議定ノ權、

臨時支出承認ノ權、決算檢査ノ權ノ三者トス而シテ此權利ヲ施行スル方法及其詳細ナル手續ニ至リテハ後篇ニ論述スヘシト雖今マ左ニ帝國議會ノ有スヘキ權利上ヨリ其大綱ヲ論述セム

〔第一、歲入出議定ノ權〕國家ノ必要ナル費用ニ充ツヘキ歲入歲出ハ每年政府ノ調製セル豫算ヲ以テ帝國議會ニ提出シ其議定ヲ要ス故ニ國債ヲ起シ及此豫算外ニ於テ國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ爲スモ亦議會ノ協贊ヲ要ス(第六十四條第一項及第六十二條第三項)此等ノ費用ハ實ニ國務ニ切要ニシテ一日モ欠クヘカラサルヲ以テ若シ議會ニ於テ豫算ヲ議定セス又ハ豫算成立ニ至ラサルトキハ政府ハ前年度ノ豫算ヲ施行スルコトヲ得ヘシ(第七十一條)但シ此議會ノ歲入出議定ノ權ニハ二個ノ大ナル制限アリ第一皇室費ハ將來增額ヲ要スル場合ヲ除クノ外帝國議會ノ協贊ヲ要セス現在ノ定額ニ依リ每年國庫ヨリ之ヲ支出スルコトヲ得ヘシ(第六十六條)第二憲法上ノ大權ニ基キタル既定ノ歲出設例ヘハ天皇勅定シ玉フタル常備軍兵額ニ必要ナル費用及法律ノ結果ニ由リ又ハ法律上政府ノ義務ニ屬スル歲出設例ハ裁判所構成法ノ改正ニ基キタル費用ハ政府ノ同意ナクシテ帝國議會

ハ之ヲ廢除削減スルコトヲ得ス(第六十七條)是レ一ハ憲法上議會ノ協贊ヲ要セサル特權ノ施行ニ已ムヘカラサル費用ニシテ一ハ議會カ自ラ政府ト共ニ負擔セル事業ヲ執行シ義務ヲ履行スルニ必要タル費用ナレハナリ

〔第二、臨時支出承認ノ權〕豫算ハ款項ニ區分シテ之ヲ議定スルモノナレハ若シ政府ニシテ豫算ノ款項ニ超過シ又ハ豫算外ニ生シタル支出ヲ爲シ豫算中ニハ必ス設置スヘキ豫備費ヨリ之ヲ補ヒ置キタルトキハ後日ニ至リ帝國議會ノ承諾ヲ求メサルヘカラス(第六十四條第二項)又更ニ全ク豫備費以外ノ支出ヲ要スルノ場合即公共ノ安全ヲ保持スル爲メ緊急ノ需用アルモ情況ニ依リ帝國議會ヲ召集スルコト能ハサル場合ニ於テハ政府ハ勅令ニ依リ財政上必要ノ處分ヲ爲シ置キ次ノ會期ニ至リテ之ヲ帝國議會ニ提出シ其承諾ヲ求ムルコト(第七十條)恰モ法律ニ代ハルヘキ勅令ヲ發スルノ場合ト相似タリト雖議會ニ於テ之ヲ承諾セサルトキハ其責任ハ國務大臣之ヲ負擔シ往々內閣ノ交迭ヲ來スヘキコトアルニ至ルヘシ

〔第三、決算檢査ノ權〕國家ノ歲出歲入ノ決算ハ會計檢査院之ヲ檢査確定シ政府ハ其檢査報告ト俱ニ之ヲ帝國議會ニ提出スルヲ以テ常規トス(第七十二條第一項)而シ

テ帝國議會其ノ歳入歳出ノ適法ニ執行セラレタルヤ否ヲ檢シ若シ其不當ナルモノアルヲ發見シタルトキハ政府ニ質問シ若クハ建議シ又ハ上奏シテ其ノ不當ノ支出ニ對スル責任ヲシテ政府ニ負擔セシムルコト前項ノ場合ノ如クナルヘシ

第三節　上奏建議及質問ノ權

兩議院ハ三十人以上ノ贊成者ノ動議ニ依リ議題ト爲シテ之ヲ可決シタルトキハ上奏及建議ヲ爲スノ權ヲ有シ又兩院議員ハ三十人已上ノ贊成者ヲ得テ政府ニ質問ヲナスノ權ヲ有ス(議院法第四十八條及五十二條)

(第一、上奏權)上奏ハ政府ノ手ヲ經スシテ直ニ天皇ト議會トノ交通ヲ得セシムルノ方法ナリ(第四十九條)政府ノ手ヲ經テ議會ノ議決セル法律議案ヲ上奏スルカ如キハ所謂議會ノ上奏權ニアラサルナリ而シテ此上奏ヲ爲スヘキ事件ハ凡テ國務ニ關シ天皇ノ特權ニ屬シ天皇ノ獨裁シ玉フヘキモノタルニ止マルヘシ內閣又ハ其他ノ官署ノ特ニ委任セラレタル事件ニ就テハ單ニ之ヲ建議スルニ止マルヘシ○上奏ハ凡テ文書ヲ奉呈スヘキモノトス故ニ各院ノ議長ハ總代トシテ謁見ヲ請フコトヲ得ヘキモ上奏ノ意見ヲ口陳スルコトヲ得サルヘシ(議院法第五十一條第一

項)

(第二、建議ノ權)兩院ハ法律又ハ其他ノ事件ニ付各々其意見ヲ政府ニ建議スルコトヲ得ヘシト雖モ凡テ此等ノ事件ハ政府カ直接ニ其責ニ任スヘキモノタラサルヘカラス否ラスンハ政府ハ之カ採否ヲ決スルコトヲ得サルヘシ(第四十條)又建議ニシテ採納ヲ得サルモノハ同會期中ニ於テ再ヒ建議スルコトヲ得スト雖モ已ニ同會期中ニ於テ再ヒ建議ヲ爲スコトヲ得サルコトヲ定メタル以上ハ政府ハ必ス會期中其採否如何ヲ指令セサルヲ得サルヘシ○建議ハ凡テ文書ヲ以テ呈出ス(議院法第五十一條第二項)

(第三、質問ノ權)質問ノ權ハ上奏及建議トハ全ク其性質ヲ異ニセリ第一質問ハ各議院ヨリ政府ニ提出スルモノニアラスシテ議員ヨリ議長ヲ經テ政府ニ呈出スルモノナリ(議院法第四十八條)第二質問ハ現ニ議會ニ附セラレタル政府ノ議案若クハ其他ノ事件ニシテ議員ノ職務上ニ屬スル質議タルニ過キス其他一般ノ國務ニ係ルモノニアラス第三質問ハ國務大臣ハ直ニ之ニ答辯ヲ與ヘ又ハ答辯スヘキ期日ヲ定メ又ハ答辯ヲ爲サヽルトキハ其理由ヲ明示セサルヘカラス而シテ議員ハ此

答辯ニ對シテノミ始メテ建議ヲ爲スノ動議ヲ爲スコトヲ得ルニ過キス(議院法第四十九條及第五十條)

第四節　請願ヲ受クルノ權

各議院ハ人民ニ向テ告示ヲ發シ審査ノ爲メ人民ヲ召喚シ若クハ議員ヲ派出シ又ハ國務大臣及政府委員ノ外他ノ官廳若クハ地方議會ト照會往復スルコトヲ得ス(議院法第十四章)ト雖モ人民ノ請願ニ至リテハ之ヲ受クルノ權アリ(第五十條)而シテ此請願ハ各議院各別ニ之ヲ受クルノ權アリテ互ニ相干預スルコトナシ(議院法第七十一條)ト雖モ法人ニアラスシテ總代ノ名義ヲ用ヰ或ハ憲法ヲ變更シ或ハ請願ノ式ニ違ヒ或ハ皇室ニ對シ不敬ノ語ヲ用ヰ或ハ政府又ハ議院ニ對シ侮辱ノ語ヲ用ヒ又ハ司法及行政裁判ニテ干預スル請願ハ之ヲ受クルコトヲ得ス(議院法第六十六條乃至第七十條)○各議院ニ呈出スル人民ノ請願書ハ議員ノ紹介ニ依リ議院之ヲ受取リ請願委員ニ於テ之ヲ審査シ其規定ニ合ハスト認ムルモノハ議長ヨリ紹介ノ議員ヲ經テ之ヲ却下シ請願委員ノ報告ニ依レル要求又ハ議員三十人以上ノ要求アルトキハ各議院ハ之ヲ會議ニ付シ請願ヲ採擇スヘキモノト認メタルトキハ意見書ヲ附シ之ヲ政府ニ送付スヘキモノトス(議院法第六十二條乃至第六十五條)

第五節　規則制定及懲罰權

両議院ハ憲法及議院法ニ掲クル者ノ外内外部ノ整理ニ必要ナル諸規則ヲ定ムルノ權ヲ有シ(第五十一條)議長ハ其執行ニ任スヘキモノナレトモ此規則ニ違反シタルモノアル場合ニ於テハ議長ハ只タ之ヲ警戒シ制止シ又ハ其發言ヲ禁止シ若クハ之ヲ議場外ニ退去セシムル等ノ制裁ヲ行フニ過キスシテ懲罰ヲ行フコトヲ得ス然レトモ憲法及議院法ニ違フタルモノアルトキハ各議院ハ其議員ニ對シテ懲罰ヲ爲スノ權ヲ有ス(議院法第九十四條)

懲罰ハ分ツテ四種ト爲シ第一公開シタル議場ニ於テノ譴責第二公開シタル議場ニ於テノ謝辞第三一定ノ時間中出席ノ停止第四除名トスレトモ(議院法第九十六條)如何ナル違反ニ對シテ如何ナル種類ノ懲罰ヲ施スヘキヤ否ハ法律上別ニ規定スル所ナキヲ以テ全ク議院ノ專斷決議ニ任スヘキモノナルヘシ(第九十五條第二項)但シ衆議院ニ於テ除名ハ出席議員三分ノ二以上ノ多數ヲ以テ之ヲ議決シタル場

合(第九十六條第二項)及議員正當ノ理ナクシテ勅諭ニ指定シタル期日後一週間内ニ召集ニ應セス又ハ會議若クハ委員會ニ欠席スルニ由リ若クハ請暇ノ期日ヲ過キタルニ由リ議長ノ招狀ヲ受ケタル後一週間内ニ出席セサル場合(議院法第九十九條)ニアラサレハ之ヲ行フコトヲ得ス其貴族院議員ニ係ルモノハ勅裁ニ依ルヘシ又此除名ノ懲罰ヲ受ケタルモノハ再選ニ當ルコトヲ妨ケサレハ衆議院ニ於テ之ヲ拒ムコトヲ得スト雖モ(議院法第九十七條貴族院議員ハ更ニ勅許アルニアラサレハ再ヒ議員ト爲ルコトヲ得ス(貴族院令第十條第三項)

懲罰處分ノ手續ハ各議院ニ於テハ議長又ハ各委員會若クハ各部ニ於テハ委員長若クハ部長ヨリ議長ヲ經テ懲罰事犯ヲ審査スル爲メ之ヲ懲罰委員ニ付シ又ハ議員ハ二十人以上ノ贊成ヲ以テ懲罰ノ動議ヲ爲シ議院ノ決議ヲ經テ懲罰ヲ宣告スヘキモノトス(議院法第九十五條第九十八條)

第四章　議員ノ權利

第一節　發言及表決ノ權

議員ハ議院ニ於テハ皇室ニ對シ不敬及他人ニ對シ無禮若クハ身上ニ涉ルモノヽ外自由ニ發言スルノ權ヲ有シ又法律規則ニ從ヒ表決ヲ爲スノ權ヲ有ス(第五十二條議院法第九十一條及第九十二條)故ニ議院内ニ於テ發言シタル意見及表決ニ就テハ院外ニ於テ其責ヲ負フコトナシト雖モ議員自ラ其言論ヲ演說刊行筆記又ハ其他ノ方法ヲ以テ公布シタルトキハ已ニ議院外ノ所爲ニシテ議員タル資格ニ於テ爲スヘキ事ニアラサルヲ以テ通常人民ト等シク一般ノ法律規則ノ支配ヲ受ケ從テ其制裁ニ服セサルヲ得サルヘシ

第二節　逮捕ニ關スル特權

兩議院ノ議員ハ議場ニ在ルト議場外ニアルトヲ問ハス會期中ハ其院ノ許諾ナクシテ犯罪其他ノ事故ノ爲メ逮捕セラルヽコトナシ是レ主要ナル國務ニ參スル議員ノ權利ヲ重スルニ出ツル所ナリ故ニ議員ニシテ自ラ犯罪人タルヘキ場合ハ勿論證人參考人等ノ爲メ裁判所ノ呼出ニ應セサルモ裁判所ハ此議員ヲ拘引スルコトヲ得サルヘシ然レトモ自ラ犯罪人タル場合ニ於テ現行犯罪又ハ内亂外患ニ關スルモノナルトキハ議場内タルト議場外タルトヲ問ハス之ヲ逮捕スルコトヲ得但シ憲法ノ所謂現行犯ナルモノハ果シテ如何ナルモノナルヤ否ハ治罪法ノ規定

ニ從フヘキモノナルヲ以テ現行法ニ於テハ准現行犯及特別ノ布告ヲ以テ定メラレタル擧動犯モ亦現行犯罪タルヘキヲ以テ議員ニシテ自ラ犯罪人タル場合ハ非現行犯トシテ之ヲ逮捕スルコト能ハサル場合極メテ僅少ナラム

第七回

第五章　會議

第一節　議案及動議

各議院ノ議決スヘキ事件ハ各議院ノ議長ヨリ議事日程ヲ定メ議院ニ報告スルヲ以テ議院ハ此順序ニ從ヒ之ヲ議決セサルヘカラス故ニ議事ノ順序ハ凡ソ議長ノ定メタル議事日程ニ依ルヘキモノナレトモ議長カ此議事日程ヲ作ルニハ政府ヨリ提出シタル議案ヲ先ニセサルヘカラス但シ他ノ議事ニ緊急アル爲メ他ノ議案ヲ先ニスルハ必ス政府ノ同意アルヲ要ス(議院法第二十六條)

議案ハ議院ノ會議ニ附スル前之ヲ委員ノ審査ニ附スルモノト附セサルモノトアルヘシト雖モ政府ヨリ提出シタル議案ハ緊急ノ場合ニ於テ政府ノ要求ニ由ルモノヽ外必ス委員ノ審査ヲ經タル後之ヲ會議ニ附スルヲ以テ法トス(議院法第二

十八條)

議院ニ於テ議案ヲ發議シ及議院ノ會議ニ於テ議案ニ對シ修正ノ動議ヲ發スルニハ二十人以上ノ贊成者アルニアラサレハ議題ト爲シ會議ニ取掛ルコトヲ得ス(議院法第二十八條)但シ政府ヨリ提出シタル議案ニ就テハ政府ハ何時ニテモ之ヲ修正シ又ハ撤回スルコトヲ得(同上第三十條)

第二節　議決

兩議院ハ各々其總議員三分ノ一以上常任委員及特別委員ハ半數以上出席スルニ非レハ議決ヲ爲スノ權ナシ(第四十六條及議院法第二十二條)而シテ其議事ハ過半數ヲ以テ決シ可否同數ナルトキハ議長之レカ終判(カスチング、ボート)ヲ爲スノ權ヲ有ス(第四十七條)ト雖モ其議決ノ方法ハ法律ニ於テ特ニ之ヲ規定セスト雖兩議院協議會ヲ開ク場合ノ外必スシモ投票ヲ用ヒサルモノトス(議院法第五十九條)

法律ノ議案ハ三讀會ヲ經テ之ヲ議決スルヲ常規トスレトモ政府ノ要求若クハ議員十人以上ノ要求アリ且ツ議院ニ於テ出席議員三分ノ二以上ノ多數ヲ以テ此要求ヲ可決シタルトキハ三讀會ノ順序ヲ省略スルコトヲ得(議院法第二十七條)

第三節　両議院關係

凡テ議案ハ之ヲ提出シタル議院ニ於テ先ツ之ヲ會議ニ付シ又タ政府ノ議案ヲ付スルハ兩院ノ内何レヲ先キニスルモ便宜ニ依レトモ豫算ハ必ス前ニ衆議院ニ提出セサルヘカラス(第六十五條及議院法第五十三條)是レ歳入出豫算ニ關スル事項ハ衆議院ニ於テ最モ其利害ヲ感スルコト多キノミナラス其極端ニ走ルヤ往々非常ノ節減删除ヲ爲シ現ニ國家ノ需用ヲ充タスニ足ラサルカ如キ議決ヲ爲シタルトキハ更ニ貴族院ニ於テ之ヲ可否スルノ餘地ヲ存シ衆議院ヲシテ終審判決ヲ爲サシメサルノ便宜アレハナリ又政府ヨリ發スル他ノ議案下付ノ順序モ政府ハ便宜ニ從ヒ兩院ノ一ヲ先後スルコトヲ得ルカ故ニ貴族院ニ於テ最モ異議アリテ過當ノ修正ヲ受クヘキモノト認定スル議案ナルトキハ先ツ貴族院ニ之ヲ下付シテ次ニ衆議院ノ議決ヲ得ルノ利益アルヘシ

一個ノ議院ニ就キ兩院ノ議決ヲ得ルハ左ノ方法ニ依ル

〔第一〕一ノ議案ニ於テ議決シタル議案ヲ他ノ議院ニ送付シ他ノ議院ニ於テ之ヲ同意シ又ハ全議案ヲ否決シタルトキハ其結局ハ甚タ單簡ニシテ單ニ議案ノ送付ヲ受ケタル議院ニ之ヲ通知シ其政府ノ議案ニ係ルモノハ同時ニ之ヲ奏上スルニ止マルヘシ(議院法第五十四條及第五十五條第一項第一段)

〔第二〕若シ一方ノ議院ヨリ議案ノ送付ヲ受ケタル議院ニ於テ單ニ之ヲ否決セス又タ同意セスシテ修正ヲ加ヘタルトキハ更ニ之カ議案ヲ受ケタル議院ニ回送シ其院ニ於テ修正ニ同意シタルトキハ前項ト同一ノ手續ニ止マルヘシト雖モ若シ其修正ニ同意セサルトキハ議案ハ未タ決了ニ至ラサルヲ以テ兩院協議會ヲ開キ以テ之ヲ決セサルヘカラス故ニ一ノ議院ヨリ此協議會ヲ開クコトヲ求メラレタル議院ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス(議院法第五十五條第一項後段及第二項)

〔第三〕兩院協議會ハ兩議院ヨリ各々十人以下同數ノ委員ヲ撰擧シ會同シテ協議案ヲ調製セシメ此議案ヲ以テ先ツ前キニ原議案ノ議決ヲ爲シタル議院即チ政府ノ議案ナラハ其ノ下付ヲ受ケタル議院、其他ノ議案ハ之ヲ提出シタル議院ニ於テ先ツ之ヲ議決シ次ニ他ノ議院ニ移スヘキモノトス然レトモ此場合ニ於テ再ヒ修正ノ動議ヲ爲スコトヲ許ストキハ議決ノ終局ナキニ至ルヘキヲ以テ法律ハ之ヲ修正スルコトヲ禁スルカ故ニ各議院ハ單ニ之ニ同意スルカ否ラサレハ全案ヲ否決

スルノ外ナカルヘシ(議院法第五十六條)○兩院協議會ノ議長ハ兩議院協議委員ニ於テ各々一員ヲ互選シ毎會交代シテ席ニ當ラシメ其初會ノ議長ハ抽籤法ヲ以テ之ヲ定ム又其他議院法ニ定メタル以外ノ兩議院交渉事務ノ規程ハ其協議ニ依テ之ヲ定ムヘキモノトス(議院法第六十條及第六十一條)

第四節　會議ノ公開

議會ハ全國民ヲ代表スル國家重要ノ一機關タルヲ以テ其會議ハ之ヲ公開シ人民ヲシテ汎ク其議事ヲ了知スルコトヲ得セシムヘキハ當然ナリ(第四十八條)但シ必要ニ依リ會議ヲ公開スルコト能ハス又ハ公開ヲ要セサルトキハ此限ニアラス左ニ例外ノ場合ヲ示スヘシ

(第一)秘密會議ハ各議院ノ公開ヲ停止シ且ツ其刊行ヲ禁スルモノニシテ第一議長又ハ議員十人以上ノ發議ニ由リ議院之ヲ可決シタルトキ第二政府ノ要求ヲ受ケタルトキニ於テ始メテ之ヲ行フヘキモノトス(議院法第三十七條及第三十九條)但シ第一ノ場合即チ議長又ハ議員十人以上アリ秘密會議ヲ發議シタルトキハ議長ハ直ニ傍聽人ヲ退去セシメ討論ヲ用ヒス可否ノ決ヲ取ルヘシト雖モ第二ノ場合

即チ政府ヨリ之ヲ要求シタルトキハ此例ニアラストトス是第一ノ場合ハ議會自ラ秘密會議ノ必要ヲ主張スルモノナルヲ以テ議院ノ議決ヲ待タス此處分ヲ行ヘトモ政府ノ要求ニ係ルモノハ議會公開ノ權ヲ重シ議院ノ議決ヲ經タル後ニアラサレハ此處分ヲ行フコトヲ得サルモノトスルニ過キサルヘシ(議院法第三十八條)

(第二)兩院協議會及委員會(全院委員會ヲ除ク)ハ本來議院中ノ內會ニシテ寧ロ之ヲ議院會議ニ附スヘキ豫備會ト稱スヘキモノナルヲ以テ之ヲ公開スヘキ必要ナク又タ公開スヘキ性質ノ會議ニアラス(議院法第五十八條及二十三條)

第五節　會議中ノ秩序

各議院開會中ニ於テ其紀律秩序ヲ保持スルハ最モ重大ノ要務ニシテ決シテ小事ニアラサルナリ而シテ此紀律秩序ヲ保持セシカ爲メ內外警察ノ權ヲ行フハ議長ノ任ニシテ法律若クハ議事規則ニ違ヒ其他議場ヲ紊ルモノアルトキハ議長ハ之ヲ警戒シ又ハ制止シ又ハ發言ヲ取消サシメ其命ニ從ハサルモノハ當日中發言ヲ禁止シ又ハ議場ノ外ニ退出セシメ又タ議場騷擾シテ整理シ難キトキハ當日ノ會議ヲ中止シ又ハ之ヲ閉ツルコトヲ得ヘク其傍聽人ノ議場ヲ退カシメ必要ナル場合ニ

於テハ之ヲ警察官廳ニ引渡シ又ハ總テノ傍聽人ヲ退場セシムルコトヲ得ヘシ是レ皆ナ一ニ議長ノ任ニアルヘキモノナレハ國務大臣政府委員及議員ハ只タ議長ノ注意ヲ喚起スルコトヲ得ルニ過キス(議院法第八十五條乃至第九十條)

第八回

第四篇　內閣及顧問

第一章　內閣

第一節　內閣ノ組織及權限

國務大臣ノ一体ヲ總稱シテ內閣ト云ヒ英國及其他諸國ニ於テモ法律上ノ存在ナク從ツテ所謂內閣總理大臣ナル者ハ國務大臣中ノ一人ヲ以テ之ニ充ツルモノニシテ別ニ總理大臣ナルモノナシ又タ諸大臣中ノ一人之ヲ兼ヌルニアラスシテ同時ニ總理大臣タルモノニ過キス然ルニ現時本邦ノ制度ハ有形的ニ內閣ナル一官衙ヲ認メ各國務大臣ノ外ニ更ニ內閣總理大臣一人ヲ置キ內閣モ亦之ヲ數局ニ分チ書記官參事官等ヲ設ケタルヲ以テ恰モ之ヲ舊太政官ニ比スルコトヲ得レトモ其太政官ニアラスシテ依然內閣タルニ二個ノ特性アリテ存ス即チ樞密院及宮內省

ヲ內閣外ニ置キタルト(各省官制第一條)各省大臣ハ兎ニ角法制上ニ於テハ各自ノ責任ヲ有シテ恰モ總理大臣ノ附屬ノ書記官タルノ趣ナクシテ舊大政大臣ト各省大臣トノ關係ノ如クナラサルト(各省官制第二條)ノ事實ナリ然レトモ此帝國憲法實施ノ時ニ至テハ各省大臣ハ益々總理大臣ノ指揮意見ヨリ分離獨立セサルヘカラサルノ必要ヲ生スヘシ左ニ其然ル所以ヲ略述セム

國家ノ官吏就中國務大臣ヲ任免スルハ天皇ノ特權ナリ而シテ天皇カ此權ヲ行フニハ素リ人望才識ヲ備ヘ國務ニ充タルヘキ人物ヲ以テシ玉フヘキハ當然ナレトモ憲法上ニ於テハ政黨內閣ノ制タルコトヲ明定セス又タ之ヲ明定スヘキモノニアラサルヲ以テ天皇カ大臣ヲ免シ玉フニハ必スシモ內閣全体ノ大臣ヲ免シ玉フモノニアラス是政黨內閣ニアラサル以上ハ國務諸大臣ノ責任ハ各別各異ニシテ連帶責任ニアラス諸大臣中只其責任ヲ盡スコト能ハサルモノヽミ其職ヲ辞スルヲ以テ足レリトセサルヘカラサルニ因ルナリ故ニ各省大臣ハ各々獨立シテ相互ニ關渉セサルノミナラス就中總理大臣ノ指揮意見ニ係ハラス各自ニ其管掌ノ事務ヲ處理スルニ充分ノ自由ナカルヘカラス否ラスンハ各省大臣ハ總理大臣ノ處分ニ

對シテ其責任ヲ負擔シ總理大臣ハ又一省大臣ノ失策ノ爲メニ共ニ其職ヲ辞セサルヘカラス若シ又其職ヲ辞スルコトナキモノトセハ總理大臣ヲシテ無責任タラシメ各省大臣ヲシテ代ツテ其責ニ任セシムルモノト言ハサルヲ得サルナリ由是觀之國務大臣ヲシテ若シ連帶ノ責任アルモノトスレハ現今ノ如ク內閣ヲ以テ舊大政官ト相類セシムルノ制度ニ適セス若シ又連帶ノ責任ナキモノトスレハ各省大臣ニ重キヲ置キ總理大臣ヲ以テ大ニ閑散ノ地位ヲ有タシメサルヘカラス內閣ナル一官衙ヲ置キ又別ニ總理大臣ヲ置クノ制度ハ行政上ノ責任ヲ以テ盡ク國務大臣ニ歸シタル帝國憲法ニ適スヘキ理由ヲ發見スルノ難キニ苦マサルヲ得ス

上來論述シタル理由アルニ係ハラス現今ニ於ケル內閣ノ組織ハ左ノ如シ

〔內閣總理大臣〕ハ中外ノ職務ニ當リ旨ヲ承テ宜奉シ以テ全局ノ平衡ヲ保持シ各部ヲ統一スル事ヲ掌ル故ニ他ノ大臣ハ總理大臣ニ屬スル趣キアルモ總理大臣ハ專ラ內閣ナル一官衙ノ事務ヲ管理スルコト恰モ各省大臣カ各省主任ノ事務ヲ取ルニ同シ故ニ總理大臣ハ諸大臣ノ長タルノミナラス又タ別ニ內閣ナル一官衙ノ長タリ但シ內閣ニハ副總理大臣又ハ次官ナルモノナシ

〔外務大臣〕ハ外國ニ對スル政畧ノ施行及外國ニ於ケル貿易ノ保護ニ關スル事務ヲ管理シ交際官及領事ヲ監督ス但シ臨時內閣ノ命ヲ受ケタル事務ハ此限ニ在ラス

〔內務大臣〕ハ地方行政警察監獄土木衛生地理社寺出版版權戸籍賑恤救濟ニ關スル事務ヲ管理シ中央衛生會警視總監及地方官ヲ監督ス

〔大藏大臣〕ハ歲入歲出租稅國債貨幣及ヒ銀行ニ關スル事務ヲ管理シ地方ノ財務ヲ監督ス

〔陸軍大臣〕ハ陸軍々政ヲ管理シ軍人軍屬ヲ統督シ及所轄諸部ヲ監督ス

〔海軍大臣〕ハ海軍々政ヲ管理シ軍人軍屬ヲ統督シ及所轄諸部ヲ監督ス

〔司法大臣〕ハ司法ニ關スル行政司法警察及恩赦ニ關スル事務ヲ管理ス

〔文部大臣〕ハ教育學問ニ關スル事務ヲ管理ス

〔農商務大臣〕ハ農業商業工藝技術漁獵山林地質鑛山及營業會社ニ關スル事務ヲ管理ス

〔遞信大臣〕ハ驛遞電信燈臺浮標船舶及海員ニ關スル事務ヲ管理ス

右諸大臣ノ分掌スル所ノ事務ハ諸大臣ノ權利ニシテ又タ其義務タリ而シテ此權

利ヲ行ヒ此義務ヲ行フニハ或ハ法律勅令ヲ執行スルノ場合アルヘク或ハ其他ニ特ニ省令閣令ヲ發スルノ場合アルヘシ(各省官制第六條)然レトモ茲ニ一ノ注意ヲ要スヘキモノアリ即チ二者何レノ場合ヲ問ハス行政上ニ必要ナル命令ヲ發スルハ自ラ行政權中ニ包含スヘキコト當然ナレトモ此閣令省令ハ勿論勅令ト雖之ニ附スルニ刑法上ノ制裁ヲ以テスルコトヲ得ルヤ否ノ一事ナリ現今ノ制度ニ於テハ省令閣令ニハ罰金二十五圓以下又ハ禁錮二十五日以内ノ罰則ヲ附スルコトヲ得レトモ(各省官制第七條)勅令ニ至リテハ別ニ此等ノ制裁ヲ附スルコトヲ得ヘキコトヲ規定スルノ法律ナシ然ルニ之ニ反シ憲法ニ却ツテ之ヲ禁止スルノ明文ヲ掲ケタリ憲法第二十三條ニ曰ク「日本臣民ハ法律ニ依ルニ非スシテ逮捕監禁審問處罰ヲ受クルコトナシ又其第二十七條ニ曰ク日本臣民ハ其所有權ヲ侵サルヽコトナシ公益ノ爲メ必要ナル處分ハ法律ノ定ムル所ニ依ル」ト然ルニ法律ニアラサル行政上ノ命令ヲ以テ人ヲ處罰シ又タ其所有權ヲ奪フハ此憲法ニ反スルモノニアラサルナキ乎憲法第七十六條ノ規定ニ依リ現行ノ法令ハ何等ノ名稱ヲ用ユルニ拘ハラス此憲法ニ矛盾セサル限リハ遵由ノ効力ヲ有スルヲ以テ勅令ヲ以テ定

メタル各省官制ハ法律ト同一ノ効アリトスルモ此法律ト同一ノ効アル勅令ハ省令ニ罰金禁錮ノ輕罪刑ノ制裁ヲ科スルコトヲ許スモノニ過キサレハ省令ノ上ニ位スヘキ勅令ニシテ却テ今後ニ此制裁ヲ付スルコト能ハサルモノトスルハ甚タ其權衡ヲ失シタルモノト謂ハサルヲ得ス故ニ權衡上ヨリ此等制裁ニ關スル官制ノ規定ハ憲法ニ矛盾スルモノトナシ之ヲ無効トスルトキハ勅令タルト省令タルトヲ問ハス共ニ此種ノ制裁ヲ科スルコトヲ得スシテ只タ法律ニ於テ許權條項(エンパワーリング、クローズ)ヲ置キ勅令又ハ省令ヲ以テ此等ノ制裁ヲ科スルコトヲ許容シタル場合ニ限ルヘシ從來勅令ト法律トハ其間決シテ理論的ノ區別ナカリシカ憲法ノ發布ト共ニ明了ナルヲ得タリ然レトモ閣令及省令二者ノ區別ハ依然トシテ分明ナラス殊ニ憲法實施ノ日ニ至テハ益々其區別ニ苦シムモノアルヘシ然レトモ前ニ已ニ論述シタル憲法上ノ理論ニ依リ内閣ヲ以テ一個ノ官署トスル有形的ノ思想ヲ除クコトヲ得ハ閣令ノ名稱ハ當然消滅ニ歸スルニ至ルヘシ

第二節　國務大臣ノ責任

國務各大臣ハ天皇ヲ輔弼シ獻替贊相シ法律勅令其他國務ニ關スル詔勅ニ副署シ

其責ニ任セサルヘカラス(第五十五條)故ニ國務大臣ニシテ其處分ヲ以テ正當ナラストスルトキハ其執行ヲ拒ミ其副署ヲ辞スルコトヲ得レトモ一旦其執行ニ任シ命令ニ副署シタル以上ハ國務大臣ハ之ヲ以テ正當ノ處分命令ト爲シタルモノトルヲ以テ若シ其處分ノ正當ナラサリシコトアラハ設例ヒ勅令ニ出テタルコトハ雖モ輔弼ノ義務ヲ怠リタルモノトセサルヲ得ス然レトモ大臣ヲ任免スルハ天皇ノ特權タルヲ以テ天皇ノ意見ニ從ハサルモノハ其職ヲ免スルコトヲ得ヘキハ當然ナルヲ以テ大臣ニシテ之ヲ不當トシ天皇ニ於テハ其處分ヲ必要ナリトシ玉フトキハ大臣ハ自ラ其職ヲ辞シ又ハ天皇之ヲ免シ玉フカ將タ天皇ニ於テ此處分ヲ中止シ玉フカ二者必ス其一ニ居ラサルヲ得サルナリ

國務大臣ハ形式上ニ於テハ天皇ニ對シテソミ其責任ヲ負擔スルモノニ過キサルカ如シト雖實体上ニ於テハ國會ニ對シテモ亦其責任ヲ免ルヽコトヲ得サルヘシ」天皇ノ命令正當ニシテ大臣モ亦之ヲ正當トシ而シテ大臣其執行ヲ爲スニ當リ自ラ失策ヲ招キテ不當ニ之ヲ執行シタルトキハ議會ニ彈劾ノ權ナキヲ以テ大臣ハ只タ天皇ニ對シテ其責ヲ負フニ過キサルヘシト雖大臣ノ補弼其當ヲ得サリシ場

合ニ於テハ大臣ハ天皇ノ外更ニ帝國議會ニ對シテ其責ニ任セサルヘカラス即チ

一、豫算ノ款項ニ超過シ又ハ豫算ノ外ニ生シタル支出アリタルトキ後日ニ至リ帝國議會ノ承諾ヲ求ムルモ其承諾ヲ得サリシトキ(第六十三條第二項)

二、緊急ノ場合ニ於テ勅令ヲ以テ財政上必要ノ處分ヲ爲シ次ノ會期ニ於テ帝國議會ニ提出スルモ其承諾ヲ得サルトキ(第七十條)

右二種ノ場合ハ實ニ他ニ賠償スルコトヲ得ヘカラサル失政ナレハ大臣ノ輔弼其當ヲ得サルコト甚シキモ又之ヲ救濟スルノ方法ナキモノナレハ失政ハ失政トシテ國務大臣ハ辞表ヲ呈上シ天皇ノ決裁ヲ乞フノ外他ニ其方法ナカルヘシ但シ緊急ノ必要ニ際シ法律ニ代ハルヘキ勅令ヲ發シ次ノ會期ニ於テ帝國議會ニ提出シ其承諾ヲ得サリシ場合ニ於テハ政府ハ只タ將來ニ向テ其効力ヲ失フヘキコトヲ公布スルニ止リ且ツ此勅令ヲ發スルコトヲ得ヘキハ天皇ノ大權ニ屬スルヲ以テ右二種ノ場合ト大ニ其趣ヲ異ニスルモノアルニ似タリ(第八條)

國務大臣ハ法律上ニ於テハ各自ニ各別ノ責任ヲ有シ連帶ノ責任ヲ有セサルコト

ハ憲法第五十五條ニ於テ國務各大臣ハ天皇ヲ輔弼シ其責ニ任スト云ヘルノ明文ニ於テ明カナリ但實際國務大臣ハ協議ヲ以テ事ヲ處スルノ場合多カルヘキヲ以テ道德上ニハ自ラ連帶ノ責任ヲ有シ遂ニ其進退ヲ共ニスル場合ナキニアラサルヘシ

然レトモ帝國憲法ハ敢テ道德上ノ連帶ヲ禁スルモノニアラサレハ後來或ハ此慣習ヲ爲スコトヲ妨ケスト雖モ國務ノ重任ニ堪ユヘキ人才數多ナルノ邦國ニアラサレハ容易ニ之ヲ實行スルニ難カルヘシ又理論上ニ於テハ國務大臣ハ實ニ天皇ノ親任シ玉フ所トスルヲ以テ政黨連帶責任內閣ノ最モ發達シタル英國ニ於テモ其內閣ヲ組織スルニ際シ政黨首領カ君主ヨリ玉璽ヲ拜受スルト同時ニ總理大臣ト爲リ政黨ノ首領ハ忽チ一政黨タルノ資格ヲ脫シ純乎タル君主ノ輔弼官トシテ國事ニ從フヘキ旨ヲ宣誓スルヲ以テ例トセリ

第二章　樞密顧問

第一節　樞密院ノ組織

樞密院ハ天皇親臨シテ重要ノ國務ヲ諮詢シ玉フ所ナリ其組織左ノ如シ

(樞密院議長及副議長)各一人親任官トス議長ハ會議ニ首席シ院內一切ノ事務ヲ管理シ樞密院ヨリ發スル一切ノ公文ニ署名シ副議長ハ之ヲ輔佐ス

(各大臣)ハ其職務上ヨリ當然議席ニ列シ表決ノ權ヲ有ス

(顧問官)十二人以上各親任トス議席ニ列シ表決ノ權ヲ有ス

(書記官長及書記官)書記官長一人勅任トシ書記官數人ハ奏任トス書記官長ハ議長ノ管督ヲ受ケ院中ノ常務ヲ管理シ一切ノ公文ニ副署シ會議ニ付スヘキ事項ヲ審査シ報告書ヲ調製シ會議ニ列シ辯明ノ任ニ當ル○書記官ハ會議ニ於テ議事ヲ筆記シ及ヒ書記官長ノ事務ヲ輔佐ス

第二節　樞密院ノ權限

樞密院ハ一般ノ國務ニ關スル天皇ノ至高ノ顧問ナリ已ニ帝國議會アリ全國民ヲ代表シ其利害ヲ審議スル以上ハ天皇ニ就テハ又タ樞密院アリテ國務ヲ審議シ親シク其利害ヲ明示スルモノナカルヘカラス故ニ樞密院ハ天皇ノ諮詢ノ職ニ任シ內閣ハ天皇ノ意思ヲ實行スルノ職ニ任スレトモ二者自ラ其區別アルヘキヲ以テ樞密院ハ決シテ施政ニ干與スルコトナシ是樞密院ハ只タ內閣ト公務上ノ交涉ヲ

有スルノミニシテ其他ノ官署帝國議會又ハ臣民トノ間ニ文書ヲ往復シ又ハ其他ノ交渉ヲ有スルコトヲ得サル所以ナリ

樞密院ノ職務左ノ如シ(樞密院官制第六條)

〔第一〕憲法及憲法ニ附屬スル法律ノ改正解釋及ヒ豫算其他會計上ノ疑義ニ關スル爭議

憲法ノ改正案ハ天皇獨リ之ヲ提出シ玉フノ權アリ又憲法ノ解釋ハ裁判官其他ノ者ハ決シテ有効ナル解釋ヲ下スコトヲ得ス只タ天皇ノミ此權力ヲ有シ玉フヘキヲ以テ樞密院ノ外之ヲ審議シ意見ヲ上奏シテ勅裁ヲ乞フコトヲ得サルモ素リ當然ナリ○法律ニ附屬スル法律モ亦法律ナレハ議會ニ於テ其改正案ヲ議シ又裁判官ハ之レカ解釋ヲ下シテ受理シタル事件ノ判決ヲ爲スコトヲ得サルニアラサレトモ憲法ニ附屬スル法律ハ憲法ト等シク天皇ノ裁可ヲ經ヘキモノナルカ故ニ往々憲法ヲ解釋スルノ結果ヲ生スルコトアルヘキカ故ニ又タ樞密院ノ掌ルヘキ職務ノ一トセリ學者往々憲法ヲ以テ法律ヲ解釋スルコトヲ得ルモ法律ヲ以テ憲法ヲ解釋スルコトヲ得サルモノトセルハ素リ淺薄ノ見ニシテ帝國

ノ法律ハ天皇ノ裁可ヲ經タルモノタルヲ知ラス却ツテ其反對ノ結果アルヘキコトヲ注意セサルヘカラス

〔第二〕重要ナル勅令

法律ニ就テハ帝國議會ノ協贊アレトモ勅令ハ天皇ノ特權ニ基キタルモノニシテ單ニ執行ノ便宜ヲ主眼トスル國務大臣ノ外之ニ參與スルモノナキヲ以テ樞密院ハ寧ロ帝國議會ノ地位ニ於テ重要ナル勅令ヲ審議シ其意見ノ上奏ニ依リ利害得失ノ明了ナルヲ待ツテ天皇之ヲ裁可シ玉フコトヲ要ス故ニ此種ノ勅令ニハ必ス樞密院ノ諮詢ヲ經タル旨ヲ記載ス

〔第三〕新法ノ草案現行法ノ改正廢止ニ關スル草案

法律案ハ凡テ帝國議會ニ於テ議決スレトモ其草案ヲ裁可シ之レニ法律ノ効力ヲ與フルハ天皇ニ屬スヘキ立法權タルヲ以テ天皇カ此立法權ヲ行ハセ玉フニ就テハ又タ樞密院ニ於テ裁可不裁可ニ關スル利害得失ヲ審理スルノ外他ニ之ニ任スルモノアルヘカラス

〔第四〕列國交渉ノ條約及行政組織ノ計畫

外國ニ對シ宣戰講和ヲ爲シ及外國ト條約ヲ締盟スルノ權ハ共ニ天皇ノ特權ナレトモ外國トノ條約ノ如キハ必スシモ急速ヲ要スルコト宣戰講和ノ如クナラサルノミナラス內國ノ法律制度ト大ニ相交渉スルコトアルヘキヲ以テ之ヲ樞密院ノ會議ニ附スルコト素ヨリ當然ナリ○行政組織ノ計畫ニ就キ樞密院ノ參與スルコトアルハ只タ重大ノ事件タルニ依ルノ外他ニ其理由ナカルヘシ

〔第五〕前數項ニ記載スルモノヽ外行政又ハ會計上重要ノ事項ニ就キ特ニ勅令ヲ以テ諮詢セラレタルトキ又ハ法律命令ニ依テ特ニ樞密院ノ諮詢ヲ經ルヲ要スルトキ」

上來論述シタル所ヲ以テ見レハ樞密院ハ帝國議會ト國務大臣トヨリ分離シ天皇カ親裁シ玉フヘキ國務ニ付キ至高ノ顧問タルヘキ重要ノ機關ナリ

第九回

第五篇 司法

第一章 司法權

司法權ハ法令ニ違反シタルモノニ對シ法令ノ命スル所ヲ强行スルノ權ナリ國家ノ司法權ヲ以テ單ニ判定ヲ爲スノ權トスル説往々學者ノ主張スル所ナレトモ爭

議ヲ判定スルノ權ハ必スシモ國家ノ外之ヲ有スルモノナキニアラス私人又ハ私人ノ組合ノ如キ又タ陪審ノ制度ヲ設ケタル邦國ニ在ツテハ爭議ノ判定ハ實ニ人民ノ掌ル所タリ故ニ司法權ハ已ニ認メラレタル法律ヲ適施スルモノニシテ法律ノ外決シテ法官ノ適用スルコトヲ得ヘキモノナシ但シ行政權ト雖敢テ法律外ニ獨立スルコトヲ得サルハ勿論ナレトモ行政權ハ法律ノ禁セサル範圍內ニ於テ自由ノ活動ヲ爲スコトヲ得ヘシ

司法權ニ二種アリ一ヲ刑事ニ關スル司法權一ヲ民事ニ關スル司法權トス刑事ハ國家ノ公權ヲ破ルモノヲ處罰シテ國家ノ公權ヲ維持シ民事ハ私權利ヲ破ルモノヲ制裁シ私人ノ權利ヲ完全ナラシムレトモ此刑事民事ノ區別ハ司法權ヲ分割シテ決シテ二個トスルモノニアラス共ニ唯一ナル國家ノ司法權ナレトモ只タ之ヲ二種ニ區別スルコトヲ得ルマテニシテ二種ニ分離シタルモノニアラス民事ノ裁判權モ刑事ノ裁判權ト同一ノ司法權ニ屬スヘキハ當然ナリ

刑事民事ヲ問ハス凡テ司法權ハ天皇ノ名ニ於テ法律ニ依リ裁判所之ヲ行フヘキモノタルコトハ憲法ノ明定スル所ナリ(第五十七條)蓋司法權ハ直接ニ天皇ノ大權

ニ屬スヘキモノニシテ行政權其他ノ權力ニ附屬スルモノニアラス之ヲ名ケテ高等裁判權ノ制ト云ヒ古來往々行ハレタル下等裁判權ノ制度ト區別セリ而シテ此所謂下等裁判權ノ制ナル者ハ町村又ハ甚シキハ私人ニ裁判權ヲ許容シタルモノニシテ素リ今日ノ國家思想ニ反對ス

然レトモ憲法ハ天皇ノ名ニ於テ司法權ヲ行フヘキモノハ裁判所タルヘキコトヲ明言スルカ故ニ行政官署ハ勿論廣義ニ於ル司法官タル檢事ノ如キハ素リ裁判所ノ外タルヘシ檢事ハ司法大臣ニ隷屬スヘキ行政官吏ナリ國家ノ代表者トシテ公訴ヲ提起シ及ヒ之ヲ實行スレトモ素リ天皇ノ名義ヲ以テスルコト彼ノ英國ノ慣例ニ於テ刑事ノ原告ヲ稱スルニ君主ノ名義ヲ以テスルカ如クナルコトヲ得ス

司法權ハ斯ク如ク裁判所カ直接ニ天皇ヨリ得タル所ノ權力ナレトモ軍事裁判權ハ行政權ノ一部ニ屬シ決シテ司法權ニ屬スヘキモノニアラス軍事裁判權ハ國家ノ兵馬權ト隨伴スヘキ裁判權タリ故ニ通常司法權ト大ニ其趣ヲ異ニシ憲法第六十條ニ所謂特別裁判所トハ陸海軍裁判所戰時ノ裁判所及ヒ行政裁判所ヲ指示スルモノナリ學者往々特別裁判所ノ一例トシテ將來ニ設置セラルヘキ商事裁判所

海上裁判所等ノ引證スルハ其當ヲ得タルモノニアラス何トナレハ此等ノ裁判所ト雖モ素リ國家ノ司法權ニ屬スヘキモノニシテ決シテ他ノ權力ニ屬スルモノニアラサルナリ

第二章　司法權ノ獨立

第一節　總說

司法權ハ行政權ヨリ分離シ其獨立ヲ保維スルニアラサレハ正義ノ純精ト臣民ノ自由ヲ完全ナラシムルコトヲ得サルハ古今ノ實驗ニ基キタル確定ノ原理ナリ抑モ立憲國ニ於テハ臣民ハ人身ノ自由言論集會ノ自由等ヲ有スヘキモノタルコトハ己ニ帝國憲法ノ規定スル所ナレトモ此等ノ自由ハ天然ノ有樣ニ於テ存在シ又決シテ之ヲ害セラルヽコトナキニアラサルヲ以テ臣民ハ臣民ノ自ラ參與スルコトヲ得ヘキ法律ニ依リ自ラ此等ノ自由ヲ得有シ及妨害セラレタル自由ヲ回復スルコトヲ得ヘキ方法ヲ規定セサルヲ得ス是憲法ノ臣民ニ裁判ヲ受クルノ權利アルコトヲ明言セル所以ナリ然ルニ裁判官ニシテ行政官ノ意見ニ服從シテ其裁判ヲ下スコトアランカ臣民ノ參與シテ其承諾ヲ表シタル法律ハ全ク其實効ヲ奏ス

ルコト能ハサルモノニシテ臣民ノ自由ハ果シテ何レニ存スルカヲ知ルコト能ハサルニ至ルヘシ故ニ司法權ノ獨立ハ臣民ノ參與スヘキ立法權ヲ堅固ナラシメ臣民ノ毀損セラレタル權利ヲ回復スルコ已ムヘカラサルノ原則タリ而シテ司法權獨立ノ原則ヲ實行スルノ方法ニ至リテハ甚タ數多ナルヘシト雖モ其主要ナルモノヲ擧クレハ裁判所ノ構成法ヲ定メ裁判官ノ採用任免ノ法ヲ定ムルニ法律ヲ以テシ及裁判ヲ公開スル等トス左ニ之ヲ略述セン

第二節　裁判所ノ構成

憲法ハ裁判所ノ構成ハ法律ヲ以テ之ヲ定ムヘキコトヲ明言セリ(第五十七條第二項)而シテ裁判所ノ構成トハ裁判所ノ種類、管轄、及裁判事務ニ關與スヘキ官吏等ニ關スル制度ヲ總稱スルヲ以テ第一檢事局ノ構成第二手續法(訴訟法及治罪法)ハ法律ヲ以テ之ヲ定ムルコトヲ要セスト雖モ檢事局ノ構成ハ裁判所ノ構成ト相牽聯シテ往々分離スヘカラサルモノアルヲ以テ同一ノ構成ヲ編纂シ一ノ法律トシテ之ヲ帝國議會ニ附スルコト通常タルヘシ又タ治罪法ノ如キハ憲法ニ法律ヲ以テ之ヲ定ムヘキ明文ナキヲ以テ勅令ヲ以テ之ヲ定ムルコトヲ得サルニアラサルヘ

キモ人身ノ自由其他人民ノ自由ヲ制限スヘキ場合甚タ多カルヘキヲ以テ殆ト法律ヲ以テスルニアラサレハ之ヲ規定スルコトヲ得サルヘシ只訴訟法ノ如キハ法律ヲ以テ之ヲ定ムヘキ明文ナク又臣民ノ自由ヲ制限スヘキ場合殆ト絶無ナルヘキヲ以テ勅令ヲ以テ之ヲ規定スヘキ一個ノ行政令タルニ過キサルヘシ

裁判所ノ構成ヲ法律ヲ以テ定ムルハ二個ノ重要ナル關係ヲ及ホスヘキモノアルニ依レリ第一ハ司法權ノ獨立ヲ保維シ第二ハ財政上ノ計畫ナリ

(第一)臣民ノ權利自由ニ影響スヘキ規則ハ凡テ臣民ノ自ラ參與スヘキ法律ヲ以テ規定スレトモ其法律ヲ適用スルニ當リテ其適用ヲ完カラシメンニハ其適用ニ任スル裁判所ノ構成如何ニ依リテ始テ其實効ヲ奏スルコトヲ得ヘシ若シ此構成法ヲ以テ行政令ノ規定スル所ニ從ハシメハ其行政令ハ全ク行政上ノ便宜ヲ計畫シ正義ヲ維持シ自由ヲ保全スルニ必要ナル裁判所ヲ設ケス又ハ適當ナル官吏ノ員數ヲ置カス或ハ之ニ反シテ却ツテ裁判官ヲシテ全ク無責任タラシムヘキ組織ニ作爲シ又ハ無數ノ官吏ヲ置テ却テ裁判ノ延滯ヲ來サシムルカ如キコトヲ保セス是臣民ノ參與スヘキ法律ヲ適用スル機關ノ構成ハ等シク臣民ノ參與スヘキ法律ヲ

以テ之ヲ定メスンハ司法權ノ獨立ヲ保全スルコト能ハサル所以ナリ

〔第二〕裁判所ノ種類、各事件ニ付裁判ヲ下スヘキ裁判ノ員數、等ノ多少ハ國家ノ經費ニ大關係ヲ有シ殊ニ此等ノ費用ハ政府ノ承諾ナクシテ豫算額ヲ減少刪除スルコトヲ得サル種類ノ費途(第六十七條)ニ屬スルヲ以テ構成法ニ於テ正義ヲ維持シ臣民ノ自由ヲ保全スルニ必要ナル以外ノ裁判所ヲ置キ若クハ裁判官ノ數ヲ增加シ殊ニ其數ヲ減少シテ却ツテ充分ノ實効ヲ得ヘキ方法ヲ捨テタルカ如キコトアラハ國家ノ財政上重大ノ關係ヲ有スヘキモノタリ是裁判所ノ構成法ハ必ス法律ヲ以テ之ヲ定メサルヘカラサル所以ナリ故ニ司法權ノ獨立ヲ維持シ且ツ其費用ヲ節減シ得ルト否トハ全ク臣民ノ立法理ニ參與シテ適當ノ構成法ヲ議定スルコトヲ得ルヤ否ニ關係セリ

第三節　裁判官ノ任免

司法權ヲ獨立セシメ以テ正義ヲ維持シ臣民ノ自由ヲ保全スル方法ハ臣民ノ參與スルコトヲ得ヘキ法律ヲ以テスルノ外ナシトスレハ裁判官ノ任免モ亦臣民ノ參與スルコトヲ得ヘキ法律ヲ以テ之ヲ定メサルヘカラサルハ當然ナリ

〔第一〕裁判官ハ法律ニ定メタル資格ヲ具フル者ニアラサレハ之ニ任スルコトヲ得ス(第五十八條第一項)而シテ其法律ハ必ス試驗法及採用法ニ依ルヘキハ近世文明國ノ通則ナリ現行法ニ於テモ亦勅令ヲ以テ此等ノ規則ノ定メタリ(明治廿年勅令第三十七號)即チ文官試驗試補見習規則是レナリ但シ此規則ハ一般ノ文官試驗及採用法ニ關スルモノナレトモ其裁判官ニ關スル部分ニ就テハ勅令ト雖他ニ法律ヲ以テ規定セラルヽマテハ之ヲ法律ト同一ノ効アルモノトセサルヲ得ス然レトモ該規則ハ只タ奏任ノ裁判官ノミニ適用セラレ最モ高等ノ裁判權ヲ行フヘキ勅任裁判官ノ如キハ試驗ヲ用ヒス行政官ノ自由ニ採用スル所ニ一任シ而カモ一旦任用ノ後ニ於テハ身官タルヘキモノタレハ帝國議會ハ憲法ニ依リ早晩法律ヲ以テ之ヲ規定スルノ必要アルニ注目スルコトナラン

〔第二〕裁判官ノ職ヲ免スルモ亦法律ノ規定ニ依ルヘク決シテ之ヲ行政令ノ規定ニ任スヘキモノニアラサルヘシ而シテ其所謂法律トハ刑法及懲式法ヲ指示スルモノニ過キサルナリ(第五十八條第二項及第三項)故ニ裁判官ハ決シテ其職ヲ免レ得ヘカラサルモノニアラスト雖所謂裁判官ノ終身官トハ只タ法律即チ議會ノ參與

シタル規則ニ依ルニアラサレハ行政官ニ於テ自由ニ之ヲ免セラルコト能ハサルコトヲ云フモノニシテ現行法ニ於テモ亦此道理ヲ認メタリト雖裁判官ニ非職ヲ命シ又ハ其任地ヲ轉スルハ行政官ノ自由ナリ

裁判官ノ任免及裁判所ノ搆成ハ斯ク全ク法律ニ依ルヘキモノタルヲ以テ法律ニシテ善良ナル以上ハ能ク司法權ノ獨立ヲ維持スルコトヲ得ヘシト雖裁判官ノ任免ノ外仍ホ特ニ裁判官ノ獨立ニ重要ナルモノハ裁判官ノ俸給及官等ニ關スル規定ナリ此等ノ規定ハ憲法ニ明文ナキモ恐クハ裁判所搆成法ニ屬スヘキモノタルヘキヲ以テ帝國議會ニ於テ此搆成法ヲ議定スルニ就テハ決シテ輕々ニ看過スヘカラサルモノタリ已ニ裁判官ハ行政官ノ意見ニ依リ隨意ニ其職ヲ免セラルヽノ恐ナシト雖行政官ノ意見ニ依リ隨意ニ優給若クハ昇等ノ得セシメサルハ殆ト其職ヲ免セラルヽノ恐アルト重大ノ差違ナカルヘシ裁判官ニ數多ノ等級ヲ設ケ從フテ其俸給ノ多寡ヲ定メ而テ其昇級及俸給ノ增減ヲ以テ行政官ノ權内ニ屬セシムル以上ハ裁判官ハ到庭獨立ノ名アリテ獨立ノ實ヲ全フスルコトヲ得サルヘシ是レ英佛諸邦ノ實例ニ照シテ明白疑ナキノ事實タリ

第十回

第四節　裁判ノ公開

裁判ノ公開トハ裁判事件ニ關與セサル參者ヲシテ其見聞ヲ許スヲ云フ是裁判ノ公平ト其信用ヲ維持スルノ方法タリ裁判ニシテ秘密タランカ往々公平ヲ害スルノ恐アルヘク又若シ公平ナリトスルモ公衆ノ信用ヲ維持スルニ足ラサルヘシ故ニ民事刑事ヲ問ハス裁判ノ公開ヲ以テ文明國ノ通義トスレトモ裁判ノ公平ハ實際上裁判手續ノ口頭審理タルヘキ原則ト併行シ書面審理ノ手續ヲ採用スル邦國ニ於テハ之ヲ公開スルモ其實効ヲ見ルコト能ハサルハ當然ナレトモ嚴ニ理論上ヨリ論スレハ裁判公平ノ原理ハ必然口頭審理ノ原理ト離ルヘカラサルモノニアラス殊ニ古代糾問主義(インクイジション)ノ遺制タル豫審ノ制度ヲ採用シタル現行治罪法ニ於テハ裁判ノ公開ト共ニ近世ノ所謂口頭審理ノ大主義ヲ採用スルコト能ハサルナリ帝國憲法ハ或程度ニマテ裁判公開ノ原理ヲ採用シ裁判ノ對審判決ハ之ヲ公開ス但シ安寧秩序又ハ風俗ヲ害スルノ虞アルトキハ法律ニ依リ又ハ裁判所ノ決議ヲ以テ對審ノ公開ヲ停止スルコトヲ得ト規定セリ(第五十九條)左ニ此條ノ及フ所ノ區

域ヲ示ス

〔第一〕裁判ノ公開ハ斯ク之ヲ憲法ニ於テ定メタレトモ現在法律ニ於テモ亦之ヲ公開スルコトヲ定メタリ然レトモ法律ニ於テ之ヲ定ムル場合ハ寧ロ公開ヲ停止スル場合及法律ニ反シ之ヲ公開セサルトキニ於ケル制裁ヲ定ムルヲ以テ其主眼トス現行治罪法ニ於テ公開セサル裁判言渡ヲ以テ無効ノ裁判トセルカ如キ即チ是ナリ〔治罪法第二百六十三條〕

〔第二〕公開セサルヘカラサルハ第一裁判第二對審第三判決タラサルヘカラス故ニ裁判ニアラサル裁判所ノ決議評議ハ裁判ニアラサルヘク豫審ハ對審ニアラサルヘク訊問審理ハ判決ニアラサルヘシ然レトモ治罪法ハ訊問辯論及裁判言渡ヲ併セテ共ニ公開スヘキモノト定メタリ

〔第三〕判決ハ如何ナル場合ト雖モ之ヲ公開セサルヘカラスト雖モ對審ニ至リテハ之ヲ秘密ニスルコトヲ得ヘキ場合アリ即チ安寧秩序又ハ風俗ヲ害スルノ虞アルトキニ於テ第一法律ニ於テ或ル場合ニ於テ之ヲ公開スヘカラスト爲シタルトキ〔現行法律中ニ此場合アルヲ發見セス〕又ハ第二裁判所ノ決議ヲ以テ定メタルトキ是ナリ

〔第四〕憲法ハ唯對審判決ヲ公開スト云ヒ裁判ニ關係ナキ參者ヲシテ裁判ヲ傍聽スルコトヲ許スヘキコトヲ明言スルニ止マリ敢テ如何ナル人ヲ問ハスト雖モ苟モ參者ヲシテ之ヲ許ス以上ハ裁判所ニ於テ其傍聽者ノ數ヲ限リ又ハ婦女幼者等ノ傍聽ヲ禁シ又ハ訴訟上取締ノ爲メ妨害者ヲ退場セシムルカ如キハ仍ホ裁判ノ公開タル性質ヲ害スルモノニアラス

第三章　行政裁判

第一節　行政裁判ノ管轄

行政裁判ハ一種特別ナル性質ヲ帶フルノ裁判タルヲ以テ行政裁判事件ハ別ニ法律ヲ以テ定メタル行政裁判所ノ管轄ニ屬シ通常ノ司法權ニ屬スヘキモノニアラス〔第六十一條〕故ニ行政裁判ニ就キテハ如何ナル程度ニテ司法ノ原則ヲ及ホスヘキヤ否ヲ知ラント欲セハ先ツ行政裁判ノ何物タルヲ知ラサルヘカラス

行政裁判ハ一方ニ於テハ之ヲ純然タル行政事件即チ裁判ノ性質ヲ有セサルモノト又タ一方ニ於テハ通常ノ民事裁判事件ノ性質ヲ有スルモノトヨリ區別セサルヘカラス憲法ハ〔行政官廳ノ違法處分ニ由リ權利ヲ傷害セラレタリトスルノ訴訟〕ヲ

以テ行政裁判所ノ管轄ニ屬スヘキモノト明言セリ是レ全ク千八百七十五年ノ墺國行政裁判法ト同一ノ文字ヲ用ヒタレハ其解釋モ亦墺國法ノ解釋ト甚タ相違アラサルモノニアラサルヲ知ルヘシ此法文ニ依リ之ヲ解スルトキハ行政裁判ノ管轄ニ屬スヘキ訴訟ハ第一行政官廳ノ處分ニ依ルモノタルヘク第二其處分ハ不法タルヘク第三權利ヲ毀損スル事實アルヘキコトヲ要ス左ニ之ヲ略述セム

〔第一〕行政裁判タルヘキ訴訟ハ行政官廳ノ處分ニ對スルモノタルコトヲ要ス佛國法ニ於テハ單ニ不法ナル行政事件ノ紛議ヲ以テ行政裁判ヲ管轄ニ屬スヘキモノトスルカ故ニ其紛議ハ苟モ行政上ノ事件タル以上ハ人民ト行政官署トノ關係ニ止マラス人民相互ノ間ニ於ケルモノト雖苟モ行政ニ關スル事件タル以上ハ之ヲ行政裁判トスルヤ否ノ疑ヲ生スヘシ然ルニ我憲法ノ明文ハ能ク此疑眞ヲ明了ナラシメタリ

〔第二〕處分ノ違法タルヲ要スルコトハ當然ナレトモ苟モ行政官署ノ不法ノ處分タル以上ハ如何ナル事件ヲ問ハス悉ク行政裁判所ノ管轄トセサルヲ得ス佛國法律ハ不法ノ行政事件ニアラサレハ行政裁判ノ管轄ナラサルコトヲ明言シ又墺國法

律ハ之ヲ明言セサルモ慣例ニ依リ又英國ハ判例ニ依リ民事即チ行政官廳ト人民トノ間ニ於テ取結ヒタル諸契約等ヲ以テ行政裁判ノ管資トスルコトナシト雖我憲法ニ於テ之ヲ明言セサル以上ハ此等ノ事件ト雖理論上仍ホ之ヲ行政裁判所ノ管轄ニ屬スルモノトセサルヲ得ス論者往々説ヲ爲シ此等ノ場合ニ於テハ行政官廳ハ一私人タル資格ヲ以テ事ヲ行フモノニシテ官廳タルノ資格ヲ以テ事ヲ行フモノニアラサレハ之ヲ通常ノ民事裁判ハ管轄ニ屬セシメサルヘカラサルモノトスルモノナキニアラスト雖官署ニ公私二樣ノ資格アリトスルハ近世ノ學理ノ許容セサル陳腐説タリ何トナレハ官廳ハ設ヒ民事ニ關スル事件ヲ行フト雖官廳ハ官廳ニシテ苟モ官廳タル以上ハ如何ナル場合ト雖官廳ノ資格ヲ以テスヘキモノニシテ嘗テ一私人タル資格ヲ有スヘキモノニアラサレハナリ

〔第三〕違法ノ行政處分ハ人民ノ權利ヲ毀損シタルモノタラサルヘカラス佛國カ單ニ不法ナル行政事件ノ結議ト云ヒ權利ノ毀損ノ有無ヲ明言セサルニ比スレハ我憲法ハ能ク之ヲ明了ナラシメタルモノト云フヘシ但シ英國法カ仍ホ一歩ヲ進メテ設ヒ權利ヲ損害スルニ通常裁判ノ手續ニ依リ充分ノ救濟ヲ得ルコト能ハサル

場合ニ限リタルノ法理ニ若カサルモノト云フヘキカ譬ヘハ不法ノ處分ニ依リ市町村ノ吏員タル職ヲ免セラレタルモノアルトキハ該吏員ハ通常裁判所ニ起訴スルモ其損害ノ救濟ハ單ニ賠償金額ニ止マリ再ヒ前職ニ役スルコトヲ得サル場合ノ如キ是ナリ

第二節　行政裁判所ノ構成

行政裁判ノ目的ハ行政權ノ爲メニ毀損セラレタル人民ノ權利ヲ保護シ人民ヲシテ其自由ニ安シ其企業ノ精神ヲ發揚セシメントスルニ在ルカ故ニ此目的ヲ達スルニ必要ナル裁判所ノ構成モ亦法律ヲ以テ之ヲ定ムヘキモノタルハ當然ナリ(第六十一條)而シテ此法律ノ良否ハ則チ裁判ノ直的ヲ達スルト否トニ關係スヘキハ自然ノ勢ナリ

行政裁判所ノ事務ヲ托スヘキ機關ノ如何ニ就テハ學者ノ議論及各國ノ法律各々其趣ヲ異ニスト雖モ之ヲ大別シテ三種ト爲スコトヲ得ヘシ第一ハ之ヲ純然タル行政官廳ニ任シ第二ハ之ヲ通常裁判所ニ屬セシメ第三ハ特別ナル行政裁判所ヲシテ之ヲ管轄セシムルノ方法タリ

第一ノ方法即チ行政官廳ニシテ行政裁判ヲ管轄セシムルノ方法ハ現今ニ於テハ本邦及佛國法ノ採用スル所ナリ尤モ現行法ニ於テハ其審理ヲ通常裁判所ニ任スルモ之ヲ受理シ及其判決ヲ爲スハ內閣ノ允許ヲ要スヘキモノトスルヲ以テ全ク之ヲ此種ニ屬スヘキ制度ト云ハサルヲ得ス○佛國ニ於テハ參事院各省大臣各州評議局知事郡長及邑長ニ行政裁判ノ權ヲ委任スレトモ參事院ヘハ幾分カ特種ノ組織ヲ爲シ純然タル行政權ト異ナリタル原素ヲ包含スルコトナキニアラス

第二ノ方法即チ通常裁判所ヲシテ行政裁判權ヲ兼有セシムルハ英國ノ制度ニシテ中央權ヲクサーンス、ベンチ法院ニ初審裁判ノ權ヲ治安判事ニ控訴裁判ノ權ヲ治安判事ノ四期總會ニ委任セリ

第三ノ方法ハ即チ普國ノ制度ナリ普國ニ於テハ行政官ト法官トヲ混合セル裁判所ニ行裁判權ヲ委任シ之ヲ中央行政裁判所ヘ縣行政裁判處及郡行政裁判處ノ三種ニ區分シ中央行政裁判處ハ縣行政裁判處ノ判決ニ對スル控訴及上告ヲ受理シ縣行政裁判處ハ郡行政裁判處ノ判決ニ對スル控訴ヲ受理シ郡行政裁判處ハ初審裁判ヲ爲スヘキモノトセリ故ニ普國ニ於テハ行政裁判處ハ始ト全ク行政權及司

法權ト獨立スレトモ濠國ニ於テハ只タ中央高等ノ行政裁判所ヲ以テ殆ト普國ト同一ノ地位ニ置キ他ノ下等裁判所ハ悉ク之ヲ行政官廳ニ一任セリ

右ノ如ク行政裁判所ノ搆成ニ三種ノ方法アリ第一方法ニ從ヘハ行政上ノ便宜ヲ計ルニ充分ナルヘキモ行政官廳ナル原告ヲシテ自ラ裁判ヲ行ハレシムルノ趣アリ從ツテ人民ヲシテ其ノ自由ノ安全ヲ感セシムルニ充分ナラス第二方法ハ獨リ英國ノ能ク之ヲ行フコトヲ得ヘキ制度ニシテ眞ニ人民ノ權利ヲ完全ナラシムルニ足ルヘキモ他ノ邦國ニ於テハ此制度ヲ採用スルトキハ往々行政上ノ活動ヲ害スルノ恐アリトシテ容易ニ實行セサル所ナリ故ニ第三方法ハ右二種ノ制度ヲ折衷シタルモノナルヘキヲ以テ歐洲大陸ノ學者ノ概ヲ稱揚スル所ナレトモ實際ニ於テハ國情ニ從ヒ或ハ行政上ノ便宜ニ偏シ或ハ私人ノ利害ニ偏スルコト甚タ多カルヘシ

第三節　行政裁判ノ手續

現行法ニ於テハ行政裁判タルヘキ事件ハ行政官廳ニ對シテ請願ヲ爲スト通常裁判所ニ起訴スルトハ起訴者ノ撰フ所ニ任スレトモ特別ナル行政裁判所ノ設置セ

ラレタル日ニ至テハ各國ノ通規ニ從ヒ必ス一タヒ行政官廳ニ請願シ其請願ニ對スル判定ニ對シテ不服ナルモノニアラサレハ行政裁判所ニ起訴スルコト能ハサルニ至ルヘシ然レトモ請願タルト訴訟タルトヲ問ハス請願又ハ起訴ヲ爲シタルノ一事ハ普通訴訟ノ如ク必スシモ行政官廳ノ處分ノ執行ヲ中止スルノ効力ナカルヘシ否ラスンハ行政ノ目的タル公益ハ一私人ノ爲メニ到庭回復スルコト能ハサル損害ヲ招クニ至ヘシ設例ヘハ行政官廳ニ於テ鐵道布設ノ爲メ私人ノ邸宅徵收シタルコトニ對シ之ヲ不當トシテ裁判所ニ起訴シタルモノアリタルトキハ行政官廳ハ其起訴ニ係ラス直ニ鐵道布設ノ處分ヲ實行スルニ猶豫セサルヘシ何トナレハ若シ起訴ヲシテ公益ノ事業ヲ中止スルノ効力アラシメハ爲メニ巨大ノ損失ヲ發生シ後日ニ至リ私人ノ能ク之ヲ辨償スルコト能ハサルモノアルヘシ然レトモ決シテ此等ノ患ナキ場合ニ於テハ行政處分ノ執行ヲ中止スルハ甚タ穩當ノ方法ナリト云ハサルヲ得ス

行政裁判ノ審理及言渡ハ通常裁判ト等シク之ヲ公開スルヲ以テ諸洲諸邦ノ通則トス

裁判ノ執行ハ行政裁判所ニ於テ自ラ之ヲ行フコトアリ又タ單ニ破毀ノ裁判言渡ヲ爲シ其執行ニ至リテハ之ヲ他ノ權衙ニ委托スルコトアリ各國其成規ヲ異ニスレトモ通常自ラ其執行ニ當ラサルニ以テ通則トスルモノヽ如シ

第十一回

第六編　財政

第一章　國費

第一節　國家ノ需用

國家ノ需用ハ甚タ數多ニシテ又タ一樣ナラスト雖モ今學理上ヨリ之ヲ大別スレハ第一勞力第二日用品第三不動產ノ三種トスルコトヲ得ヘシ而シテ此等三種ノ需用ハ金錢ヲ以テ之ヲ購買スルモノト否ラサルモノトヲ包含ス

〔第一、勞力〕勞力ハ國家諸般ノ職務ニ必要ナル力ナリ官吏ノ俸給ノ如キハ即チ金錢ヲ以テ其勞力ヲ購フモノタリ英國ニ於テハ議會ノ議員ハ無俸給ニシテ立法ノ職務ハ費用ヲ要セス又タ司法事務ニ就テモ數多ノ名譽官ナルモノアレトモ本邦ニ於テハ無俸給ノ吏員極メテ寡少ナリ但シ國家ノ防衛ニ必要ナル軍事ノ兵役ハ國

民ノ一大義務トナスカ故ニ決シテ兵力ヲ購フモノニアラス

〔第二、日用品〕國家ノ需用スル物品ハ通常之ヲ私人ヨリ購求スルヲ以テ本則トシ政府自ラ其製造ヲ事トスルコトナシ然レトモ國家ノ要スル物品ニシテ銃炮彈藥軍艦等全ク特種ノモノニ係リテ私人ノ競爭產出ニ任スヘカラサルカ又ハ特ニ品質ノ精良ヲ要スル物品ニシテ其良否ヲ判別スルニ難キカ又ハ物品ノ試驗ニ精密ニシテ且ツ多額ノ費用ヲ要スルカ如キコトアラハ政府自ラ其物品ノ製造ニ從事シ自ラ其需要ヲ充タスコト必要ナリ

〔第三、不動產〕土地家屋其他常久ノ需要モ亦國家ニ欠クヘカラサルモノタリ道路港岸河川ノ如キハ素リ公衆一般ニ屬スヘキモノナレトモ他ニ特ニ政府ノ所有タルヘキ不動產ナキニアラス

第二節　歲入及歲出

前節ニ於テ論述シタル國家ノ需要ハ金錢ヲ以テ購ハサルヘカラサルモノ甚タ數多ナルカ故ニ國家ハ租稅負債其他ノ收入ヲ以テ此需用ヲ充サヽルヲ得ス歲入ヲ分テ經常歲入及臨時歲入ノ二大部トス今其要領ヲ示スコト左ノ如シ

經常歲入

第一租稅ハ地租、所得稅、酒造稅、醬麹營業稅、烟草稅、証券印紙稅、醬油稅、菓子稅、沖繩縣酒類出港稅、米商會所稅、株式取引稅、國立銀行稅、賣藥稅、船稅、車稅、度量衡稅、鑛山借區稅、北海道水產稅、銃獵免許稅、牛馬賣買免許稅、海關稅トシ何レモ議會ノ協贊ヲ以テ其定額ト稅率トヲ定ムヘキモノトス(第六十二條第一項)

第二兎許及手數料ハ代言人仲買人等ノ免許料及訴訟用印紙版權登錄海外旅行醫師試驗等ノ手數料トス但シ此等ノ收入中單ニ報償ニ屬スル行政上ノ手數料等ハ必スシモ法律ヲ以テ之ヲ定ムルコトヲ要セス(第六十二條第二項)

第三官業及官有財產收入ハ官報收入稅、關雜收入、官業收入、森林收入、郵便電報收入囚徒工錢收入、鑛山益金、造船益金、石炭用所益金、鉄道益金、官有物貸下及拂下代トス但シ此等ノ項中ニハ或ハ之ヲ民業ニ委ヌルヲ以テ却テ便宜トスルモノナキニアラサルヘシト雖モ經濟的ノ理論ニ涉ルヲ以テ今之ヲ省略ス

第四雜收入ハ懲罰及沒收金辨償金及雜入トス

臨時歲入

第一　返納金

第二　献納金

第三　官有物拂下代

及ヒ第四繰越金ヲ以テ臨時歲入トス但シ國債ノ如キモ亦臨時政府ノ歲入タルヲ得ヘシト雖モ內外國債ヲ起スハ實ニ國家經濟上ノ大問題タルヘキヲ以テ必ス帝國議會ノ協贊ヲ經サルヘカラス(第六十二條第三項)

右ニ列擧セル諸項ヲ以テ現今ノ歲入ヲ得ヘキ原由トス明治廿二年度ノ豫算歲入總額ハ凡ソ七千六百六十万圓ニシテ前年度ノ豫算ニ殆ント百餘万圓ヲ減少セリ而シテ此歲入ヲ以テ支辨スヘキ國家ノ歲出左ノ如シ

經常歲出

〔第一部歲出〕ハ第一皇室費第二神社費第三國債第四恩賞諸祿金第五非職俸給第六備荒儲蓄費トス

〔第二部歲出〕ハ內閣、樞密院、各省、院廳ニ區分シ各其管スル處ノ事務ニ從ヒ其要スヘキ費目ヲ異ニセリ

臨時歳出

臨時ノ歳出ニ要スル費用ハ各省、院廳等ニ於ケル臨時事業ノ大小多寡ニ從ヒ年々其異同ヲ生スルコト甚シ川港ノ修築、砲臺ノ建築、法律取調又ハ博覽會開設等ノ諸事業ニ要スル費用ヲ包含ス

第二章　豫算及決算

第一節　豫算

國家ノ收入經費ハ年々豫算ヲ以テ議會集會ノ始ニ於テ先ツ之ヲ衆議院ニ提出シ帝國議會ノ協贊ヲ以テ之ヲ定メ各年度ニ於テ決定シタル經費ノ定額ヲ以テ他ノ年度ニ屬スヘキ經費ニ充ツルコトヲ許サス又各官廳ハ法律勅命ヲ以テ規定シタルモノヽ外特別ノ資金ヲ有スルコトヲ得スト雖モ特別ノ須要ニ依リ政府ハ豫メ年限ヲ定メ繼續費トシテ帝國議會ノ協贊ヲ求ムルコトヲ得ヘキハ憲法ノ明定スル所ナリ而シテ會計上ノ年度所謂會計年度ハ毎年四月一日ニ始リ翌年三月三十一日ニ終リ又一會計年度所屬ノ歳入歳出ノ出納ニ係ル事務ハ翌年度ノ十一月三十日迄ニ悉皆完結スルコトヲ要ス(第六十四條第六十五條第六十八條及會計法第

一條乃至第五條)

豫算調製ニ關スル要件左ノ如シ

(第一)歳入歳出ノ豫算調製法ニ二種アリ一ハ各歳入ニ付キ各歳出ヲ定メ某々ノ收入ハ某々ノ支出ニ充ツヘキモノトスルモノニシテ此方法ニ於テハ各收入ヲ得ルカ爲メニ要スル支出及各支出ノ爲メニ得ヘキ收入ヲ合セテ各種ノ豫算ヲ調製スル所謂總豫算ニシテ凡百ノ收入ハ悉ク之ヲ歳入中ニ入レ一定ノ歳入ヲ得タル後ニ於テ此歳入中ヨリ支出スヘキ凡百ノ支出ヲ歳入中ニ包含セシム我會計法ハ總豫算ヲ調製シ歳入歳出ヲ併セテ同時ニ豫算ヲ調製スヘキコトヲ命令セリ故ニ此總豫算ニ於テハ歳入ヲ得ルカ爲メニ要スル多少ノ費用又ハ歳出ヲナスカ爲メニ得ヘキ多少ノ收入ヲ問ハス共ニ之ヲ各歳入出中ニ加入スヘキモノタリ(會計法第六條)

(第二)豫算ハ經常臨時ノ二大部ニ分チ國家永久ノ費用ト臨時ノ費用トヲ明カニシ更ニ款項目節ノ四段ニ區分シ其詳細ヲ知ラシメサルヘカラス例ヘハ通常歳入ハ租稅、免許手數料、官業收入、雜收入ノ四款ニ分チ第一款ノ租稅ヲ更ニ地租所得稅酒

造税等ノ數項ニ區分シ更ニ第一項ノ地租ヲ田租畑租宅地租等ノ數目ニ細別スヘシ歳出ハ内閣各省院等ノ所管ニ付キ例ヘハ内務省ノ部ニ於テハ本省經費、集治監警視廳等ノ數欵ニ分チ本省經費ヲ俸給廳費旅費營繕費機密費等ノ數項ニ分チ再ヒ俸給ヲ勅任奏任判任俸給等ノ數目ニ分チ更ニ奏任官俸給ヲ秘書官書記官局長參事官俸給等ノ數序ニ細別スヘキモノトス然レトモ是所謂豫算明細書ナルモノナルヲ以テ通常ハ欵項二種ニ區分スルヲ以テ足レリトシ帝國議會ニ於テ議定スヘキモノモ亦欵項ニ止ルヘシ(會計法第六條)

(第三)然レトモ豫算明細表ハ最モ帝國議會ノ參考ニ必要ナルヲ以テ豫算表ニハ必ス左ノ文書ヲ添付スルヲ要ス(會計法第六條)

一　各目ノ明細ヲ記入シタル各省ノ豫定經費要求書

二　其年ノ三月三十一日ニ終リタル會計年度ノ歳入歳出現算書

(第四)豫備費ヲ設ケサルヘカラサルハ憲法ノ明定スル處ナリ(第六十九條)故ニ豫算中ニハ必ス豫備費ヲ置クコトヲ要ス會計法ハ此豫備費ヲ二項ニ分チ計算上避クヘカラサル豫算ノ不足ヲ補フモノヲ第一豫備費ト云ヒ全ク豫算外ニ生シタル必

要ノ費用ニ充ツルモノヲ第二豫備費ト云フ而シテ何レノ豫備費タルヲ問ハス豫備金ヲ以テ支辨シタルモノハ年度ノ經過ノ後ニ於テ帝國議會ニ提出シテ其承諾ヲ求ムルヲ要ス(會計法第七條第八條)

第二節　決算

國家ノ歳入歳出カ法律ニ依リ正當ニ行ハレタルヤ否ヤヲ檢査確定スルヲ決算ト云フ會計檢査院ノ主掌スル處ニシテ其結果ハ之ヲ帝國議會ニ提出スヘキモノトス(第七十二條)

(第一)帝國議會ニ提出スヘキ總決算ハ總豫算ト同一ノ式ヲ用ヒ之ヲ歳入歳出ノ二部ニ區分シ歳入ノ部ニ於テハ第一歳入豫算額ヲ明記シ第二此豫算額中ニ付キ現ニ徴收シ得ヘキモノト決定シタル定額即チ調定濟歳入額ヲ明記シ第三既ニ收入シ終リタル歳入額ヲ明記シ第四收入未濟ノ歳入額ヲ明記スヘキモノトス又歳出ノ部ニ於テハ第一歳出豫算額第二豫算決定後ノ增加歳出額第三支拂命令濟歳出額第四翌年度繰越高ヲ明記スヘキモノトス(會計法第十六條)

(第二)右ノ總決算ニハ會計檢査院ノ報告書ト共ニ第一各省決算報告書第二國債計

算書第三特別會計報告計算書ヲ添付スヘキモノトス(會計法第十七條第三十條)

第三章　出納

第一節　收入

租稅及其他ノ歲入ハ法律命令ノ規程ニ從ヒ當該官吏之ヲ收納ス(會計法第十條)

國稅ハ關稅ヲ除ク外總テ國稅徵收法ノ規程ニ從ヒ之ヲ徵收ス而シテ地租及ヒ特ニ勅令ヲ以テ定メタルモノハ市町村ヲシテ市町村內ノ租稅ヲ徵收シ之ヲ金庫ニ納付スルノ義務及ヒ徵收事務ニ要スル費用ヲ負擔セシム故ニ市町村ニシテ過誤怠慢ニ依リ其徵收シタル稅金ヲ亡失シタルトキハ之ヲ辨償セサルヘカラス但シ特ニ勅令ヲ以テ市町村ニ徵收ノ義務ヲ負擔セシメタル場合ニ於テハ徵收金額ノ百分ノ四ヲ以テ其市町村ニ交付シ又避クヘカラサル變災ニ依リ徵收シタル金額ヲ亡失シタルトキハ如何ナル場合ヲ問ハス府縣知事ヲ經テ大藏大臣ニ其責任ノ免除ヲ訴願スルコトヲ得(國稅徵收法第一條乃至第七條)

勅令ニ依リ特ニ市町村ニ徵收ノ義務ヲ負擔セシメタルモノハ所得稅酒造稅則附則自家用料酒鑑札料菓子稅中製造稅製造營業稅仲買營業稅卸賣營業稅小賣營業稅烟草稅則中製造營業稅仲買營業稅小賣營業稅賣藥稅中營業稅船稅車稅、牛馬賣買免許稅及銃獵免許稅トス(本年第三十號勅令)

市町村ニ於テ徵收スヘキ國稅ヲ徵收スルトキハ府縣知事ハ市ニ郡長ハ町村ニ對シ徵稅令書ヲ發シ市町村長ハ徵稅令書ニ依リ徵稅傳令書ヲ調製シテ之ヲ各納稅人ニ發ス其他ノ國稅ヲ徵收スルトキハ市ニ於テハ府縣知事町村ニ於テハ郡長ヨリ各納稅人ニ對シ徵稅令書ヲ發ス(國稅徵收法第八條及第九條)而シテ各收稅人ハ市町村ニ於テ徵收スヘキ國稅ニ係ルモノハ稅金ヲ市町村收入役ニ拂込ミ一定ノ領收證ヲ得其他ノ國稅ニ係ルモノハ稅金ヲ金庫ニ拂込ミ一定ノ領收證ヲ得テ納稅義務ヲ完了スルモノトス(同上第十一條及第十二條)

第二節　支出

國庫金ノ支出方法ニ關スル原規ハ左ノ如シ

(第一)每會計年度ノ經費ハ其年度ノ歲入ヲ以テ之ヲ支辨ス其國庫ノ收入未タ了ラサルノ日ニ於テ支出ヲ要スルコトアラハ其收入ノ時ノ至ル迄一時大藏省證券ヲ發シテ之ヲ補フコトヲ得ヘシト雖モ證券發行ノ金額ハ帝國議會ニ於テ決定シタル

最高額ニ超ユルコトヲ得ス(會計法第九條及第十一條)故ニ兩會計年度ニ渉リテ其歳入ヲ流用スルコトヲ得スト雖モ第一、豫算ニ於テ特ニ明許シタルモノ及一年度内ニ終ルヘキ工事又ハ製造ニシテ避クヘカラサル事故ノ爲メ事業ヲ遲延シ年度内ニ其經費ノ支出ノ終ラサリシモノハ之ヲ翌年度ニ繰越シ使用スルコトヲ得ヘシ第二數年ヲ期シテ竣功スヘキ工製造及其他ノ事業ニシテ繼續費トシテ總額ヲ定メタルモノハ毎年度ノ仕拂殘額ヲ竣功年度マテ遞次繰越使用スルコトヲ得ヘシ(第六十八條會計法第廿一條及廿二條)

(第二)歳出ノ細密豫算ハ既ニ論述シタルカ如ク款項目節ニ細分スレトモ通常豫算ハ款項ニ分ツヲ以テ充分トスルカ故ニ國務大臣ハ豫算ニ定メタル款項ノ別ニ從ヒ支出ヲ爲シ其目的外ニ定額ヲ使用シ又ハ各項ノ金額ヲ彼此流用スルコトヲ得スト雖モ目節ノ定額ニ至リテハ敢テ之ヲ流用スルコト能ハサルニアラス(會計法第十二條第一項)

(第三)定額ノ支出ハ適法ノ人ヨリ適法ノ方法ニ依リ適法ノ人ニ對スルモノタラサルヘカラス支拂ヲ爲スヘキ適法ノ人トハ國務大臣又ハ別ニ定ムル所ノ規程ニ從

ヒ委任ヲ受ケタル官吏ヲ云ヒ仕拂ヲ受クベキ適法ノ人トハ政府ニ對スル正當ノ債主又ハ其代理人ヲ云フ而シテ支拂適法ノ方法トハ國庫ニ命令シテ仕拂ヲ爲サシメ現金ヲ以テ直ニ國務大臣ヨリ支拂ヲ爲サシメサルヲ云フ(會計法第十三條第十四十五條及第十二條第二項)

(第四)斯ノ如ク支拂ハ既ニ政府ニ對シテ債主權ヲ有スルモノニ對シ國庫ヨリ支出セサルヘカラスト雖モ便宜上及支拂ノ性質上往々此原則ヲ固守スルコト能ハサル場合ニ於テハ國務大臣ハ主任ノ官吏ニ委任シ又ハ政府ノ命シタル銀行ニ委任シテ現金支拂ヲ爲サシムル爲メニ現金前渡ノ仕拂命令ヲ發スルコトヲ得ヘキモノトス其場合ハ左ノ如シ

一、國債ノ元利拂
二、軍隊軍艦及官船ニ屬スル經費
三、在外各廳ノ經費
四、前項ノ外總テ外國ニ於テ仕拂ヲ爲ス經費
五、運輸通信ノ不便ナル内國ノ地方ニ於テ仕拂ヲ爲ス經費

六、廳中常用雜費ニシテ一箇年ノ總額五百圓ニ滿タサルモノ

七、場所ノ一定セサル事務所ノ經費

八、各廳ニ於テ直接ニ從事スル工業ノ經費但シ一主任官ニ付三千圓マテヲ限ル

第三節　政府ノ工事及物件ノ賣買貸借

法律勅令ヲ以テ特ニ定メタル場合ノ外政府ノ工事又ハ物件ノ賣買貸借ハ總テ公告シテ競爭ニ附スヘキモノトス但シ競爭ニ依テ得ヘカラサルトキ又ハ競爭ニ依ルトキハ特種ノ目的物ヲ得ルニ不便ナルトキ等ニ於テハ競爭ニ付セス隨意ノ約束ニ依ルコトヲ得其場合左ノ如シ(會計法第二十四條)

一、一人又ハ一會社ニシテ專有スル物品ヲ買入レ又ハ借入ルヽトキ

二、政府ノ所爲ヲ秘密ニスヘキ場合ニ於テ命スル工事又ハ物品ノ賣買貸借ヲ爲ストキ

三、非常急遽ノ際工事又ハ物品ノ買入借入ヲ爲スニ競爭ニ附スル暇ナキトキ

四、特種ノ物質又ハ特別使用ノ目的アルニ由リ生産製造ノ場所又ハ生産者製

造者ヨリ直接ニ物品ノ買入ヲ要スルトキ

五、特別ノ技術家ニ命スルニ非サレハ製造シ得ヘカラサル製造品及機械ヲ買入ルヽトキ

六、土地家屋ノ買入又ハ借入ヲ爲スニ當リ其位置又ハ構造等ニ限アル場合

七、五百圓ヲ超ヒサル工事又ハ物品ノ買入借入ノ契約ヲ爲ストキ

八、見積價格二百圓ヲ超ヒサル動産ヲ賣拂フトキ

九、軍艦ヲ買入ルヽトキ

十、軍馬ヲ買入ルヽトキ

十一、試驗ノ爲ニ工作製造ヲ命シ又ハ物品ヲ買入ルヽトキ

十二、慈惠ノ爲ニ設立セル教育所ノ貧民ヲ傭役シ及其生産又ハ製造物品ヲ直接ニ買入ルヽトキ

十三、囚徒ヲ傭役シ又ハ囚徒ノ製造物品ヲ直接ニ買入ルヽトキ及政府ノ設立ニ係ル農工業場ヨリ直接ニ其生産又ハ製造物品ヲ買入ルヽトキ

十四、政府ノ設立シタル農工業場又ハ慈惠教育ニ係ル各所ノ生産製造物品及

囚徒ノ製造物品ヲ賣拂フトキ

政府ノ工事製造又ハ物件買入ノ爲メニ要スル支出ハ前金拂ニ爲スコトヲ得スト雖モ軍艦兵器彈藥ハ往々外國ヨリ購入シ又ハ危急ノ時ニ際テハ前金拂ニアラサレハ之ヲ得ルニ難キヲ以テ必スシモ此原則ニ從フコトヲ要セス(會計法第二十五條)

第四節　出納官吏

出納官吏ハ仕拂命令ニ依リ國庫金ノ出納ヲ掌ル所ノ官吏ナリ法律上特ニ出納官吏タルニ必要ナル資格ヲ設ケスト雖モ現金又ハ物品ノ出納ヲ掌ルモノニ就テハ身元保證金ヲ納メシムルコトヲ要ス而シテ其詳細ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ムヘキモノトス(會計法第二十八條)

出納官吏ハ其職務ニ就キ一切ノ責任ヲ負ヒ水火盜難又ハ其他ノ事故ニ依リ其保管スル所ノ現金物品ヲ紛失シタル場合ニ於テ保管上避ケ得ヘカラサリシ事實ニ依リシニアラサレハ其責ヲ免ルヽコトヲ得ス而シテ此責任ヲ負ハシメ又ハ負擔ヲ免レシムルハ其ニ會計檢査院ノ檢査判定ニ依ル(會計法第二十六條及第二十七

條)

第五節　期滿免除

期滿免除ハ現行法ニ於テハ單ニ出訴ノ權ヲ消滅セシムルニ止マルコト英米法ノ如クナルニ似タレトモ會計法ノ規定ハ明カニ義務自身ヲ消滅スルニ足ルヘキモノトセリ

地租其他特別ニ法律ヲ以テ定メタル場合ヲ除クノ外政府ノ負債ニシテ其仕拂フヘキ年度ヲ經過シタル後及ヒ政府ニ收ムヘキ全額ニシテ其納ムヘキ年度經過ノ後請求ナクシテ五年間ヲ經過シタルトキハ其義務ヲ消滅ス(會計法第十八條及第十九條)

第七編　憲法ノ適用

第一章　憲法ノ効力

(第一)憲法モ亦一般ノ法律ト等シク其頒布ニ依リ憲法タルノ形蹟ヲ發顯スト雖モ特ニ規定シタル施行期限ニ至ラサレハ其効力ナシ明治二十二年二月十一日ヲ以テ發布セラレタル帝國憲法ハ明治二十三年ニ於テ帝國議會開會ノ時ニ至リテ其

効力ヲ有スヘシ然レトモ此帝國議會開會ノ爲メ必要ナル手續方法ニ關スル法律ハ帝國議會開會ノ前ヨリ其効力ヲ有セサルヘカラス衆議院議員撰擧法ノ如キハ明治二十三年四月一日(同法第十八條)ヨリ實行スルコトヲ要シ又タ會計法ノ如キモ帝國議會ニ干渉セサルモノハ明治廿三年四月一日ヨリ施行シ而シテ其干渉スルモノハ帝國議會開會ノ時ヨリ又其決算ニ係ルモノハ帝國議會ノ議定ヲ經タル年度ノ歳計ヨリ施行スヘキモノトス(會計法第三十二條及第三十三條)

(第二)帝國憲法ハ如何ナル地方ヲ問ハス帝國一般ニ其効力ヲ及ホスヘキコト當然ナレトモ特ニ北海道沖繩縣及小笠原島ニ於テハ將來一般ノ地方制度ヲ準行スルノ時ニ至ルマテ衆議院議員撰擧法ヲ施行セス故ニ此等ノ地方ニ於テハ衆議院ニ於テ其利益ヲ代表スヘキ議員ナク又之ヲ撰出スルノ權利ナシト雖モ其他ノ憲法上ノ權利ヲ有スルコト素ヨリ論ヲ待タス但シ貴族院議員ヲ代表セシムルコトヲ得ヘキヤ否ニ就テハ法律ニ明文ナシト雖モ貴族院令第十二條ニ依リ自ラ此權利ナキモノタルコトヲ推知スルコトヲ得ヘシ

(第三)憲法ニ於テハ帝國議會ノ協贊ヲ經タルモノニアラサレハ法律ノ名義ヲ下ス

コトヲ得ス又法律タルノ効力ナシト雖モ現行ノ法律ハ素リ帝國議會ノ成立ナキ時代ニ制定セラレタルモノナルヲ以テ憲法上ノ所謂法律ニアラスト雖モ帝國憲法ハ帝國議會開會ノ時ニ至リテ始メテ其効力アルヘキモノタルヲ以テ現行法律ト憲法實施後ノ法律トハ憲法ニ關シ二者決シテ相互ニ矛盾スルノ場合アルヘカラス若シ此理由ヲ以テ仍ホ二者ノ矛盾アルヘキモノトスルトキハ憲法ニ矛盾セサル現行法律ナシト云ハサルヲ得サルニ至ルヘシ故ニ憲法第七十六條ニ法律規則命令又ハ何等ノ名稱ヲ用ヰタルニ拘ハラス此憲法ニ矛盾セサル現行ノ法令ハ總テ遵由ノ効力ヲ有スト云ヒ現行法令ノ憲法實施後ニ効力アルヘキコトヲ明言セルハ其當ヲ得タリ然レトモ(此憲法ニ矛盾セサル云々)ト明言セル以上ハ此憲法ニ矛盾スル法令アルコトヲ認メタルモノト云ハサルヲ得ス果シテ然ラハ其矛盾スル所ノ現行ノ法令トハ如何ナル性質ノ法令ヲ指示スルヤ現行法律ハ帝國議會ノ協贊ヲ經サルカ故ニ此憲法ニ矛盾スト云ハン乎現行法律ハ盡ク此憲法ニ矛盾スヘシ若シ又憲法上法律ヲ以テ規定スヘキモノヲ勅令又ハ其他ノ命令ヲ以テ規定シタルカ如キ場合ヲ指示スルモノトセン乎唯其名義ヲ異ニスルニ過キサレハ

第七十六條ノ明言スル所ニ依リ勅令ノ名義タルト否トニ拘ハラス仍ホ之ヲ法律ト同視セサルヲ得サレハ敢テ之ヲ矛盾ト云フコトヲ得ス蓋憲法第七十六條ハ一見シテ現行ノ法律其他ノ命令ト憲法トノ抵觸ノ場合ヲ規定セルカ如クナレトモ次章ニ於テ詳論スルカ如ク憲法ト憲法トハ相抵觸シ法律ト法律トハ互ニ矛盾スルコトヲ得ヘキモ憲法ト法律トハ相互ニ抵觸矛盾スルコトヲ得サルヲ以テ該條ノ所謂矛盾トハ法律ト憲法ノ矛盾ニアラスシテ寧ロ現行ノ憲法ト此憲法ト抵觸スヘキ場合ヲ指示セルモノト解セサルヲ得ス尤モ今日ニ於テハ憲法ノ名義ヲ以テ發布セラレタル現行ノ憲法ナキヲ以テ此憲法ニ規定シタル條項中現行ノ法律勅令其他ノ名義ヲ以テ規定シタルモノ甚タ少ナカラス例ヘハ明治十九年二月二十四日公布ノ公文式ハ第一憲法實施後ハ法律ヲ以テ定ムヘキモノヲ包含スレトモ勅令ヲ以テ之ヲ定メタルハ憲法ト矛盾スルモノニアラス何トナレハ唯勅令ノ名義ヲ以テ公布シタルノミニシテ其法律ヲ以テ定ムヘキモノナレハ此勅令ヲ以テ法律ト同視スルコトヲ得レハナリ第二此勅令中ニハ憲法ヲ以テ定ムヘキモノ甚タ多シ就中法律制定ハ帝國議會ノ協贊ヲ要セサルモノトスルカ如キハ其名義

ノ勅令タルニ拘ハラス憲法的ノ規定ナリ故ニ此場合ニ於テハ法律ト憲法トノ矛盾ニアラスシテ憲法ト憲法トノ矛盾ナリ憲法實施ノ後ニ至ラハ自ラ其効力ヲ用ヒ此憲法ト矛盾セサル部分ノミ單ニ其効力ヲ存スヘシ

第十二回

第二章　憲法ノ改正

(第一)明文ヲ以テ規定セラレタル憲法ハ明文ヲ以テスルニアラサレハ之ヲ改正スルコトヲ得ス不文憲法ハ往々ハ多年ノ間之ヲ實用セサルニ依リ其効力ヲ失フコトアレトモ成文憲法ハ決シテ年月ノ爲メニ其効力ヲ失フコトナシ故ニ憲法ハ憲法改正ノ方法ヲ定メタリ

(第二)將來憲法ノ條項ヲ改正スルノ必要アルモ天皇ニアラサレハ發議ノ權ナキヲ以テ勅令ヲ以テ議案ヲ帝國議會ノ議ニ付シ特ニ其議決ハ總員三分ノ二以上ノ出席ニ於テ出席議員三分ノ二以上ノ多數ヲ得ルヲ要ス(第七十三條)

(第三)成文憲法ハ他ノ成文憲法ヲ以テ改正スルニアラサレハ其改正ヲ爲スコトヲ得スト雖モ明文ヲ以テ之ヲ改正スルコトヲ明言セサルモ舊憲法ト新憲法トノ抵

觸ハ自ラ其改正ヲ來スヘシ此場合ニ於テハ前法律ト後法律ト抵觸スル場合ト等シク後ナル憲法ハ前キナル憲法ニ勝ツヘキモノタルヲ以テ前後ノ憲法相抵觸スルトキハ前キナル憲法ハ後ナル憲法ヲ以テ自ラ其抵觸ノ部分ヲ廢止シタルモノト見做サヽルヲ得ス但シ憲法ハ法律ヲ以テ改正スルコトヲ得サルハ學理上ノ通則ナレトモ法律ハ憲法ヲ解釋スルノ一大要素タルヲ以テ法律ヲ以テ暗々裏ニ憲法ヲ解釋シ往々憲法ノ改正ト甚タ相遠カラサル結果ヲ來スコトアルヘキハ歐洲諸邦ノ實跡ニ於テ明了タリ而シテ法律カ特ニ斯ル結果ヲ發生スルハ帝國憲法ノ法理ニ於テ免レサル所ナリ何トナレハ法律ハ決シテ憲法ト抵觸スルコトヲ得ヘカラストスルハ何レノ邦國ヲ問ハス凡ソ帝國憲法ノ本性タレハナリ然レトモ此點ニ就テハ國体ニ依リ學者ノ議論一樣ナラサルモ事尤モ重大ノ關係ヲ有スヘキモノナルヲ以テ左ニ之ヲ詳論セム

抑モ法律條例ニ疑義ヲ生シ憲法ト交渉スル場合ニ於キテハ憲法ノ意義ニ由リテ之レカ解釋ヲ下スハ敢テ不當ノ理由ニアラサルモ現ニ或ル學者ノ如キハ「憲法ハ法律ノ法律ニシテ普通法律ノ上ニ位スヘキモノナルヲ以テ憲法ヲ以テ法律條例

ヲ解釋シ得ヘキモ法律條例ヲ以テ憲法ヲ解釋スルコトヲ得ス」ト明解スルノ甚シキニ至リテハ未タ必スシモ普通ノ原理ト稱スルコトヲ得ス蓋シ法律條例ニシテ憲法ニ反スルコト明白疑フヘカラサルモノアラハ法官ハ此ノ法律條例ヲ以テ無効トスルノ權アルヤ否ヲ決スルハ最モ重要ノ事柄ニシテ學者ノ議論亦甚タ數多ナリ各國憲法制度ノ異同アリ能ク一定ノ原理ヲ發見スルコト極メテ難シ故ニ一般ノ法律制度ニ於キテハ殆ント異同ナキ英米二國ニ於キテスラ尙ホ全ク反對ノ主義ヲ採用セリ今マ先ツ其ノ差異ヲ略述セントス

米國ニ於キテハ法官ハ憲法ニ反シタル法律條例ヲ無効トスルノ權アルモノトスルナリ古來往々之ニ關スル反對ノ議論アリシモ今日ニ至リテハ此ノ原理ハ確然動カスコト能ハサルモノトハナレリ其說ニ曰ク米國ハ勿論其他苟モ成文ノ憲法ヲ有シ立法院及諸官衙ノ權利義務ヲ明カニセル諸國ニアリテハ立法院ノ制定スル條例ニシテ憲法ニ抵觸スルモノハ之レヲ無効ノ法律ト爲サヽルヲ得ス我カ米國ニ於キテハ如何ナル法律ト雖モ必ツ先ツ米國々憲ト一致シ次ニ各邦ノ憲法ト合セサルヘカラス故ニ各邦ノ憲法ナリ米國ノ憲法ナリ苟モ之ヲ犯スノ法律條例

ハ法官ハ之ヲ無効トスヘキ權利義務ヲ有スヘシ法律條例モ法律ナリ憲法モ亦タ法律ナリ法律ノ制裁ヲ司ル所ノ法官カ法律ヲ解釋スルハ二者何レノ法律タルヲ問ハサルナリ若シ夫レ法官ニシテ憲法ニ反シタル法律條例ヲ確認スルモ尚ホ之ニ從ハサルヘカラサルモノトセンカ是レ法律條例ヲシテ憲法ノ上位ニ置クモノニシテ恰モ代人ノ權利ヲ以テ本人ノ權利ニ勝ツモノトスルニ異ナラス憲法ヲ以テ立法權ノ使用ヲ制限セントスル目的モ茲ニ於テ乎破レ憲法ニ定メタル條項ヲ執行スルノ權力ハ又地ヲ拂ヒテ去ルニ至ルヘシ故ニ一時ノ輿論風潮ニ依リテ主義ノ變動ヲ生スヘキ立法院ト獨立セル法官ニ任スルニ憲法ノ解釋及ヒ法律條例ノ適否如何ヲ判斷スルノ權ヲ以テスルハ憲法ニ定メタル人民ノ權利ヲ保護スルニ欠クヘカラサルノ制度ナリ」ト而シテ此主義ハ即チ米國諸邦ノ概ネ採用スル所ニシテ其實例ノ如キハ殆ント枚擧ニ暇マアラストス之ニ反シテ英國ニ於キテハ法官ニ委ヌルニ憲法ニ反シタル法律條例ヲ無効トスルノ權力ヲ以テスルコトナシ蓋英國ハ英國ニ於テ又其ノ理由ノ依ルヘキモノアルニ出ツルナリ此說ヲ主張スルモノヽ論ニ曰ク國會ノ制定シタル法律條例ニシテ其意義ノ疑フヘキナキモ

ノハ憲法ニ抵觸スルモノト雖モ之ヲ左右シ又ハ法官ノ其効力如何ヲ判決シ得ヘキモノニアラス如何トナレハ英國憲法ニ於キテハ國家ノ最上權ハ常ニ國會ニ存シ國會獨リ全能ノ力ヲ有スヘキモノナレハ何人ト雖モ國會ノ定メタル法律條例ノ効力ヲ滅殺スルコトヲ得ス」ト而シテ英國ノ判決中往々法律條例ヲ無効トスルノ實アルモノナキニアラサルカ如シト雖モ是唯法律條例ノ不備曖昧ニシテ疑義ノ存スル場合ニ當リ解釋上ヨリ法律條例ノ意義ヲ定メタルモノニ過キス論理上ニ於キテハ法官ハ決シテ法律條例ヲ破ルコトヲ得ストスルノ原則ニ反スルモノニアラス

英米二國ノ法理其主義ヲ異ニスルコト斯ノ如シ而シテ米國學者ハ此差異ノ原因ヲ以テ憲法ノ不文ナルト成文ナルトニ歸スレトモ憲法ノ成文ナルト否トハ其憲法ノ何物タルヲ了知スルノ便否如何ニ關スルノミ他ニ其理由ナクンハ英國ノ法官ト雖モ豈ニ一ツノ法律條例カ憲法ニ反スルト否トヲ識別シテ之ヲ無効トスルニ苦ムモノナランヤ余ハ以謂ラク英米法律主義ノ差異ハ憲法及民情ノ殊異ニ出テ縱令純然タル理論ニ於キテハ誤謬ナキニアラサルモ米國ニ於キテハ聯邦ノ制

度ヲ用ユルカ故ニ就中各邦内立法院ノ如キハ決シテ之ヲ最高權ト見做スコトヲ得サルノミナラス又國情ノ然ラサルヘカラサルモノアルニ由ルナリト蓋米國ニ於キテハ極メテ自由ナル共和ノ制度行ハレ立法院内多數ヲ占ムルモノハ即チ輿論ニシテ如何ナルモノト雖モ輿論ノ力ニ勝ツコトヲ得ス米國ノ多數ハ即チ專斷國ノ暴君ナリ多數ノ向フ所天下ニ敵ナシ能ク人民ノ自由ヲ剝キ能ク財産ノ安寧ヲ害シ得ヘシ故ニ此多數ノ勢力ヲ制限スルモノナクンハ小數ノ不幸之ヨリ大ナルモノナカルヘシ是豫メ憲法ヲ設ケテ立法院ノ權力ヲ制限シ身体財産ニ關スル人民ノ權利ヲ確定シ憲法ノ制裁ヲ併セテ法官ニ一任セサルヘカラサルノ必要ヲ生スル所以ナリ有名ナル米國共和政論ノ著者佛人トクビユーユ氏カ米國ノ自由制度ヲ紊ルモノハ少數ヲシテ飢餓ニ迫ラシムヘキ多數ノ壓制ナラント云ヘルハ即チ此意ナリ

英米法律主義ノ異同ハ之ヲ措キ純然タル一般ノ法理ヨリ推サハ二者何レヲ以テ正當ト爲スヘキカ余ハ帝國ノ國法原理ニ於テハ寧ロ英國ノ主義ヲ贊成シテ米國ノ主義ヲ非難セントスル者ナリ抑モ立法院ノ權限ヲ定メ司法權ノ制限ヲ設クル

モノハ憲法自身ナリ憲法ハ立法權司法權モ共ニ遵守スヘキノ大典ナリ立法權獨リ決シテ憲法ノ効力ヲ左右スルコト能ハサレハ司法權モ亦之ヲ左右スルコトヲ得ス故ニ憲法ノ制裁ヲ以テ法官ニ委シ法官獨リ之ヲ解釋シテ法律條例ト抵觸スルヤ否ヲ判決スルノ權アリトスルハ決シテ公平ヲ得タルモノト云フヘカラス蓋憲法解釋ノ權力ハ獨リ國家ノ主權者ニ屬シ立法權若クハ司法權ノ共ニ關スヘキモノニアラサルナリ若シ夫レ司法權ニシテ之ヲ解釋適用スルノ權力アリトセンカ司法權ハ憲法ニヨリテ得タル權限ヲ自斷スルモノニシテ一人ニシテ法官ト被告人トノ地位ヲ占ムルモノト云ハサルヲ得ス能ク此地位ヲ占メ得ルモノハ獨リ國家ノ主權者ノミ司法權豈ニ國家主權者ノ地位ニ在ルモノナランヤ故ニ法官カ憲法解釋ノ權力ヲ有セサルハ論ヲ俟タスト雖モ尚ホ一歩ヲ進メテ何故ニ立法官ハ憲法ニ抵觸セル法律條例ヲ制定スルモ法官ハ之ヲ一般有効ナル法律トシテ之カ執行ヲ爲サヽルヘカラサルヤ否ヲ論究セサルヘカラス夫レ立法院ハ法律條例ノ實体材料ノミヲ議定スルモノニシテ決シテ法律條例ヲ制定スルモノニアラス如何トナレハ此實体材料ハ天皇即チ主權者ノ承諾ヲ得ルニアラサレハ未タ法律

タルノ資格効力ナキモノニシテ之ヲ法律條例ト云フコト能ハサレハナリ而シテ此法律ノ實積現体カ天皇ノ承諾ヲ得テ法律條例ニ化スルノ際ニ當リテハ天皇ハ樞密顧問ノ意見ヲ聞キ其憲法ニ反スルモノナルヤ否ヤ判定シ始メテ法律條例ト爲スヘキヤ否ヤヲ定ムルモノナリ故ニ法律條例ノ憲法ニ抵觸スルヤ否ヤハ憲法ヲ解釋スルノ權アル天皇及樞密院カ早ク已ニ法律創定ノ時ニ判定シ了リタルモノニシテ法官ハ更ニ之ヲ判定スルノ必要モナケレハ又其權力ナキモノト云ハサルヲ得ス故ニ一タヒ主權者ノ承諾ヲ經テ發布セル法律條例ハ法官ハ飽迄之ヲ執行スルノ權ヲ有シ法官ニシテ自ラ其憲法ニ抵觸スルモノト思惟スルモ既ニ天皇ノ判決ヲ經タルモノナレハ之ヲ以テ憲法ニ抵觸シタルモノトスルコトヲ得ス故ニ之ト反對ノ理由ニ依リ法律條例ト其執行細則若クハ行政廳ヨリ發スル布達諸規則ト抵觸スルトキハ法律條例ヲ以テ効力アルモノトセサルヲ得ス抑モ法律條例ノ執行細則ハ行政官衙ニ於キテ制定スルヲ以テ通則トシ且ツ法律條例ノ明文中特ニ此旨ヲ記載スルノ場合往々少カラスト雖モ行政官衙ハ直接ニ國家ノ權力ニ基キタル獨立ノ權力ヲ以テ布達規則ヲ發布スルコトヲ得ヘキモノナリ然レトモ

此等ノ布達諸規則ハ一般ノ法律條例ヲ破ルノ効力ナキモノナレハ二者相抵觸シ又ハ此布達諸規則ニ疑義アルトキハ法律條例ノ意義ニ從ヒ之カ解釋ヲ下スヘキモノトス然レトモ之ヲ以テ布達諸規則ノ効力ハ本來法律條例ニ基キタルモノトスルコトアルヘカラス如何トナレハ行政諸官衙ハ其管轄内ニ於ケル事項ニ就キテハ立法院ノ參與ヲ俟タス國家ノ權力ニ基キタル特權ヲ以テ此等ノ布達規則ヲ發スルノ權アルヘキモノナレハナリ之ニ反シ若シ布達諸規則ノ効力ヲ以テ法律條例ニ基クヘキモノトスルトキハ其布達諸規則ハ法律條例ノ創定者ナル立法官ノ明許若クハ默諾ヲ經タルモノト見做スヘキモノナルカ故ニ二者抵觸ノ場合ニ當リ法官ハ必スシモ布達規則ヲ無効トスルコト能ハサルコト恰モ憲法ト法律トノ關係ト同一ノ理由ニ歸スヘシ蓋布達規則ノ効力ハ法律條例ニ基キタルモノトスル論理ハ夫ノ布達諸規則ハ唯條例執行ノ爲メニスルノミニ限ルトスル民約說ニ胚胎セル誤見タルヲ免レス

故ニ右等ノ布達諸規則ハ法律條例ヲ執行スル爲メニスルモノト否トヲ問ハス苟モ法律條例ニ違反スルコト明白ナルニ於キテハ法官ハ之ヲ以テ無効ノ布達規則

ナリト判決スルコトヲ得但シ唯其抵觸シタル箇條ノミニ限ルヘシ論者若シ行政官衙ヨリ發布スル布達規則ニシテ其効力ヲ法律條例ニ取ルモノトスル誤見ヲ持スルコトアラハ法官ハ法律條例ニ抵觸スル布達諸規則ヲ無効トスルコト能ハサルモノト論結セサルヲ得スト云ヘル所以ナリ論シテ茲ニ至レハ憲法ノ解釋適用ハ獨リ主義者ノ司ル所ニシテ法官ハ法律條例ノ効力ヲ奪フコト能ハサルモ特立ノ權力ヲ以テ發布スル行政官衙ノ布達類ハ法官之ヲ無効ト爲シ得ルノ理由判然トシテ撞着スルトコロナキヲ見ルヘシ上來論述シタル所ノ論理果シテ誤ル所ナクンハ憲法ヲ以テ法律條例ヲ解釋シ得ヘキモ法律條例ヲ以テ憲法ヲ解釋スヘカラスト云ヘル所論ハ或ハ其正確ヲ誤リタルモノニアラサルカ今夫レ憲法中一二ノ疑義ノ存シ甲乙二樣ノ意義ニ解シ得ラルヘキモノアリトシ而シテ憲法解釋ノ權アル主權者ニシテ新ニ法律條例ヲ布告シタリトセヨ若シ此法律條例ニシテ憲法ヲ乙ノ意義ニ解スルコトアラハ二法相抵觸スル所アルニ當リテハ之ヲ甲ノ意義ニ解釋セサルヘカラサルヲ以テ憲法中ノ疑義モ自ラ甲ノ意義ニ一定スヘキハ敢テ怪ムニ足ラサルモノヽ如シ故ニ余ハ英國法律主義ノ理由トスル所ト余ノ

理由ト現ニ異ナル所アルニ關セス純然タル帝國々法上ノ理論ヨリ英國主義ヲ贊成シ憲法ハ法律議案ト抵觸スルコトヲ得ヘキモ既定ノ法律ト抵觸スルコトヲ得ス從ツテ法官ハ憲法ニ抵觸スル法律條例ヲ無効トスヘキ場合ナキモノトセサルヲ得ス

ナリト判決スルコトヲ得但シ唯其抵觸シタル箇條ノミニ限ルヘシ論者若シ行政官衙ヨリ發布スル布達規則ニシテ其効力ヲ法律條例ニ取ルモノトスル誤見ヲ持スルコトアラハ法官ハ法律條例ニ抵觸スル布達諸規則ヲ無効トスルコト能ハサルモノト論結セサルヲ得スト云ヘル所以ナリ論シテ茲ニ至レハ憲法ノ解釋適用ハ獨リ主義者ノ司ル所ニシテ法官ハ法律條例ノ効力ヲ奪フコト能ハサルモ特立ノ權力ヲ以テ發布スル行政官衙ノ布達類ハ法官之ヲ無効ト爲シ得ルノ理由判然トシテ撞着スルトコロナキヲ見ルヘシ上來論述シタル所ノ論理果シテ誤ル所ナクンハ憲法ヲ以テ法律條例ヲ解釋シ得ヘキモ法律條例ヲ以テ憲法ヲ解釋スヘカラスト云ヘル所論ハ或ハ其正確ヲ誤リタルモノニアラサルカ今夫レ憲法中一二ノ疑義ノ存シ甲乙二樣ノ意義ニ解シ得ラルヘキモノアリトシ而シテ憲法解釋ノ權アル主權者ニシテ新ニ法律條例ヲ布告シタリトセヨ若シ此法律條例ニシテ憲法ヲ乙ノ意義ニ解スルコトアラハ二法相抵觸スル所アルニ當リテハ之ヲ甲ノ意義ニ解釋セサルヘカラサルヲ以テ憲法中ノ疑義モ自テ甲ノ意義ニ一定スヘキハ敢テ怪ムニ足ラサルモノヽ如シ故ニ余ハ英國法律主義ノ理由トスル所ト余ス

理由ト現ニ異ナル所アルニ關セス純然タル帝國々法上ノ理論ヨリ英國主義ヲ贊成シ憲法ハ法律議案ト抵觸スルコトヲ得ヘキモ既定ノ法律ト抵觸スルコトヲ得ス從ツテ法官ハ憲法ニ抵觸スル法律條例ヲ無効トスヘキ場合ナキモノトセサルヲ得ス

帝國憲法完

明治廿二年十一月十八日合本記入

2

14
252

14
252

031712-000-4

14-252

帝国憲法

渋谷　慥爾／述

M22

BBE-0339